創立25周年記念誌

櫻　樹

日本大学櫻樹会

創立25周年記念誌

櫻　樹

日本大学櫻樹会

目　　次

新たなる決意　稲橋恒行……1
25年を振り返って　石井征也……1
人を得た体操部　平野平三……2
倒　立　考　浜田靖一……4
創部の頃　門脇春男……8
桜樹の年輪と共に　遠藤幸雄……9
桜樹会発足25周年に際して　早田卓次……10
全日本学生選手権個人総合優勝者・国際競技会出場者……11
25年の歩み……19
第 1 期……19
第 2 期……21
第 3 期……23
第 4 期……26
第 5 期……29
第 6 期……31
第 7 期……34
第 8 期……37
第 9 期……39
第 10 期……42
第 11 期……46
第 12 期……49
第 13 期……50
第 14 期……54
第 15 期……57
第 16 期……59
第 17 期……61
第 18 期……64
第 19 期……67
第 20 期……70
第 21 期……72
第 22 期……75
第 23 期……77
第 24 期……80
第 25 期……83
第 26 期……86
集合写真アラカルト……89
校舎と体育館……94
合　宿　所……97
スナップ……100
イベント……103
資　　料……107
編集後記……130

表紙絵・カット　濱田靖一

新たなる決意

桜樹会会長
稲　橋　恒　行

桜樹会が25年になる。私にとってこの25年間は，オーバーにいえばアッという間に過ぎ去ってしまった感じがする。なんのいんがか桜樹会が発足して，すぐ会長に推され，機関車のように突っ走ってきた。その突っ走ってきた期間が25年にもなってしまった。

当初は気軽に引き受けた会長だったが，会が大きくなるにつれ，実は私の気持ちの中に悩みもだんだんふくらんでいった。なんど辞めようかと思ったか知れない。そんな私が大過なくここまでこれたのは，ひとえに会員の皆様の後押しのおかげだと感謝している。もうこうなったら覚悟を決めて，辞めろと言われるまでやろう。これが今の私の正直な気持ちである。この紙面を借りて決意を新たにしておきたい。

振り返ってみて，わが愛する桜樹会がここまで発展してきたのは，会員の団結が最も大きな力となったことは疑いのないところである。この度，25年の経緯を記念誌としてあらわすことになったが，これを契機として更に連帯の意識が強まり充実した会に育っていくことを願う。いや，きっとそうなると信じる。

いうまでもないが，桜樹会と日大体操部は切り離すことのできない密接な関係にある。過去の歴代部長，監督，コーチの努力で幾多の名選手が輩出した。だが近年，その日大体操部の部員数が少なくなりつつある。高校やスポーツクラブで指導に当たっている会員の諸君，どうか手塩にかけた選手を日大に送ってほしい。それがひいては桜樹会が発展していくことにつながる。

25年を振り返って

桜樹会副会長
石　井　征　也

“思えば遠くへ来たもんだ”

25周年記念誌を発行することになった時，思わずこの言葉が浮かび時の流れの早さを感じた。

蒲鉾型の通風の悪い体育館で，焼け付くような外の鉄棒で，青年監督の門脇先生を先頭に，二年生部員３名，一年生部員数名で誕生した「日本大学体育会体操部」も，われわれの卒業する時には数十名に脹れあがり，新生日大として歩み出した。

それから数年，四期の菊地君の卒業を契機として，稲橋・菊地体制の日大桜樹会が活動を開始して行く。恒例になった忘年会，参加者が多くなり過ぎて企画できなくなったゴルフコンペ，ハゼ釣り大会，スキースクールなど種々の集いが催され，各年度の会員がいろいろな思いで参加し酌み交した杯……何と多くの酒を飲んだことだろう。

酒と言えば，各大会ごとに地元の有志が企画してくれる桜樹会の懇親会に出席して，懐かしい人達と旧交を温めることが出来るのも楽しいものである。企画，立案する有志の方々は，大体が大会役員などを兼ねているのでご苦労なことだなといつも思っている。しかし大会はそう頻繁に巡ってくるものではないので，自分達の身近な所で大会が開催される折には，ぜひ今まで通り骨を折って頂ければと思う。そして，ひとりでも多くの会員が参加されて，繋がりの輪がより大きくなっていくことを願っている。

日大体操部がある限り今後ますます巨大化していく桜樹会。個々の協力と連帯でより一層の発展を期したい。

人を得た体操部

平　野　平　三

いかに組織がよく，立派な部則をつくっても，人を得なければ，その部の発展をのぞむことはとうていできない。

わが体操部が創設以来短時日で，全国大学のビッグスリーにはいり，男女共に学生選手権者を出し発展の一路を進んでいる理由はいろいろあるが，その一つに人を得たことが最大の原因であると思う。

まず創設者が，すでに大正の初期（日本の体操競技がオリンピックに初参加したのが昭和７年）からの体操愛好者で，今日まで体操競技に深い関心を持ち続けてこられた秋葉先生である。先生は大学本部の常務理事，文理学部長と激職にありながらも体操部を創設し，常に世界的選手を育成しようという夢を捨てなかった。私はその情熱に動かされて優秀な指導者を探し歩いた一人である。

丁度小野喬選手が卒業の年であったので，教育大学に行き，当時の体育学部長本間先生に交渉して彼を迎えることとした。ところが彼が慶応大学に入学することになって，この話はまとまらなかった。

この時私の頭に浮かんだのが，水泳部の村上監督のことである。彼は葉室主将時代のマネージャーであり，競泳における記録を残してはいないが，古橋，橋爪，古川，福島等の名選手を育てている。名コーチ必ずしも名選手であったものとは限らない。要はそのスポーツに対する情熱の問題である。

そこでこの話を日本体操協会の近藤天氏のところに持ち込んだところ，流石は日本の体操競技を世界一に引き上げる原動力となった近藤氏である。よしそれなら理工学部出身で教養はあり，学生時代体操部主将を勤めて統率力あり，技術も優秀で監督として最も有能な人をと推薦してくれたのが，現監督の門脇春男氏である。

この部長，この監督の背後に文理学部事務局長原田先生の全面的な協力があり，施設・用具を完備したので体操部の基盤は確立したのである。

続いてコーチとして，メルボルン・ローマの両オリンピックで活躍した曽我部和子さんとローマオリンピック優勝メンバーの一人であり，東京オリンピックの金メダル候補にあげられている遠藤幸雄氏の二人を迎え，更に今年から前年度の学生選手権者である早田，渋谷両氏が加わり，いよいよ体操部の指導陣容は充実したわけである。

ここにおいて，オリンピック東京大会における遠藤氏の優勝，早田，渋谷両氏の入賞，学生選手諸君の活躍が期待されている時に秋葉部長が辞められたことは体操部にとって大きな痛手である。しかし秋葉部長の体操部を愛し，体操部の発展をのぞむ気持ちに変わりはない。ただ体育会の副会長として三十三の運動部全体を指導する立場上やむを得ず私にバトンを渡されたのである。私は体操競技の経験はないが，昭和三年の第一回日本学生陸上競技の選手権大会出場以来，その優勝を夢みて三十数年間微力をつくし，今年ようやくその夢を実現することができた。この経験を体操部に生かし，初代部長秋葉先生の夢を実現すべく努力を続け，人を得た体操部の一員としての責任を果

たしたいと念じている。

監督，コーチを中心に部員諸君が一致協力し，研究努力を続ければ必ずこの夢は実現し，体操部は益々発展するものと信じ，部員諸君の一層の精進を希望する。

— 昭和三八・一二・二五 —

この文章は昭和39年1月に発行された『桜樹』第二号に掲載されたものです。

▲ 体操部初代部長　故秋葉安太郎先生　（44. 12. 3　逝去）

▼ 第二代部長　平野平三先生を囲んで　（51. 4　京王プラザホテル）

倒　立　考

濱田靖一

直立二足歩行の人間が，全く逆の姿勢，即ち足を上，頭を下にして立った時，これを倒立，逆立ち，或いはシャチホコだちなどと呼ばれる。

逆立ちは文字通り，さかさに立った姿勢ということで最も一般的な呼び方である。倒立姿勢というのは体操用語であるが，平安時代の「信西古楽図」の中に出ているのでずい分古い言葉である。勿論体操としてやったのではなく曲芸としてやったのである。この「信西古楽図」には，倒立だけでなく今の組立運動のようなものや綱渡り，奇術などの絵もあり興味深い。

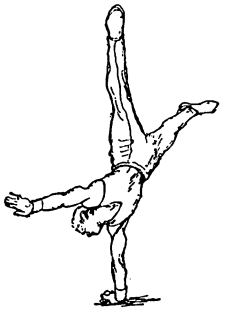
信西古楽図の中の呪師
（ノロンジ）＝平安時代

シャチホコだちというのは，楼門や城の天守閣に鴟尾として飾られているしゃちという魚が頭を下にし尾を矛のように立てているところから，それに似ているというので名づけられたものと思われる。しゃちは別名サカマタで，歯クジラのうち中型のもので学名オルカ（ｏｒｉｎｕｓ－ｏｒｃａ）という。性質はどうもうで海の猛獣といわれる。屋根の上に飾られるのは鯨の一種であるから潮を噴くので火災を防ぐ呪術的な魔よけにされたものである。「しゃっちょこばる」という言葉は身も心もコチコチになっている状態をあらわす時に使う。体操選手はしゃっちょこ立ちは得意だが試合の時にあがって，しゃっちょこばると失敗するから気をつけなければなるまい。

扨て倒立がスポーツと結びついたのが体操競技で，倒立姿勢や倒立経過の運動なしでは体操競技は成立しないといっても過言ではなかろう。ただ男子六種目中，鞍馬だけが倒立がなかった。

昔，はじめて鞍馬を見た日本の体操選手がどんな運動をしてよいのかわからないのでポメルを握

って倒立したという伝説的な笑話があった。ところが此の頃はフィニッシュに倒立経過でおりる選手が多い。歴史とは螺線形のくりかえしであるという先人の言葉がうなずける。また人間の体は不思議なことに立位より倒立の方が美しい。かなり不格好な人でも倒立すると結構みられる。倒立は英語ではＨａｎｄ　ｂａｌａｎｃｅすなわち高度な平均運動である。バランスは美の要素であるから体操競技の中に倒立が沢山はいるのもその為であろう。結婚のためのみあいは倒立してやり度いといった男がいた。倒立して何処を見るのだとひやかされていたが，今頃よい家庭の親爺になっていることだろう。

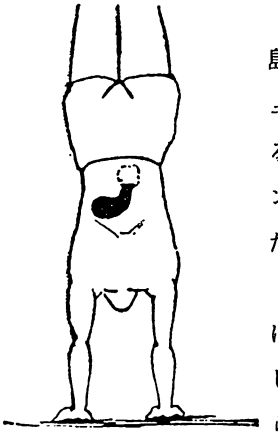


体操・床運動の
片手倒立

倒立したまま水が飲めるかとか，ものが食べられるかなど実験したことがある。水など飲むのは簡単である。かなり大きなトンカツを平らげてしまった学生がいた。口の中の食物をのどから食道，胃に送ることを嚥下という。飲み下すことである。倒立の場合は胃が上にあるから嚥下ではなく嚥上である。こんな字は何処の辞引にもない。出来るのは体操競技の選手だけである。しかし私は先輩としてあえてすすめない。倒立しておなら（屁）をした人は何人もいる。それらの報告を要約すると　①とても気もちがよい　②音がしない　③空気が出たりはいったりする。

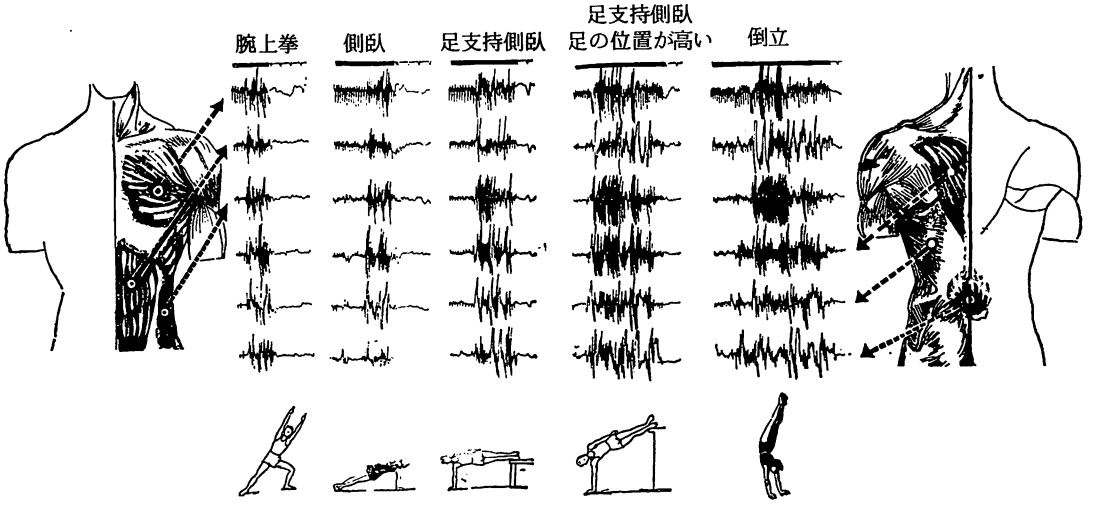
私はまだやっていないがこれは実験してみてよいであろう。但し，補助倒立の場合はやめた方がよい（迷惑する人が出るから）。話が下の方（いや上の方）に行ってしまった。こんなへにもならないことを書くのをやめてもっと真面目なことを書こう。

☆



いま，北海道にいる中島元君が学生の頃，バリュームを飲んで倒立しているところを板橋病院でレントゲンで撮ってもらった。今も手許にある。

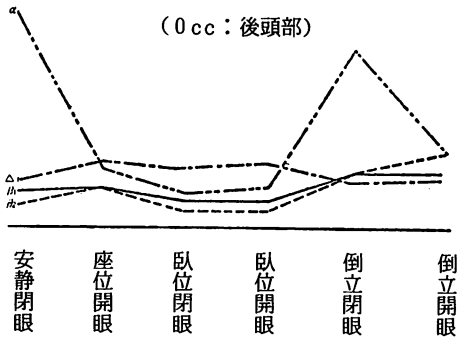
何と胃は枕のように横になってしまっている。しばらくして腸を撮ったら腹全体がただ黒くなっ



ていて腸の状態はわからなかった。筋電図もとってみたし脳波もはかってみた。筋電図は大体思ったような結果だったが，外腹斜筋が一番放電現象が大きいのは意外であった。

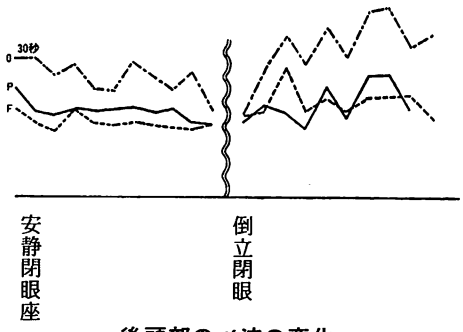
後頭部各波の平均値

（0cc：後頭部）



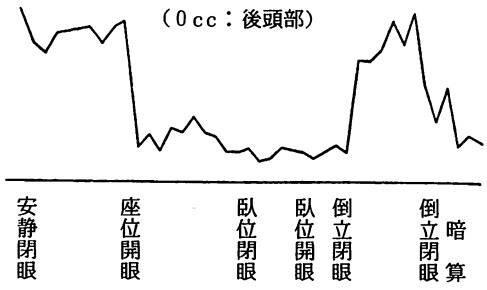
前頭部，頭頂部，後頭部のα波の変化

（F：前頭部，P：頭頂部，0cc：後頭部）



後頭部のα波の変化

（0cc：後頭部）



倒立して暗算をさせるとかなり不正確になる。これは倒立という姿勢が思考や意識にさまたげになるのではないかと考えられる。そこで前頭部，頭頂部，後頭部に電極をつけて倒立させてはかってみた。この中で一番変化の多かったのは後頭部のα波であった。ところがこのα波の出かたがなんと座禅をやっている修業僧のとよくにているのである。修業をつんだ人が座禅をはじめるとα波がすぐ現れる。この状態は頭の中に何もなくごくおだやかな意識がスーッと流れるという特殊な状態なのである。こう考えてくるとヨーガの中に倒立姿勢がやたらと多いのがわかるような気がする。しかし，ただα波が現れるから座禅と倒立の効果が同じであるという程，簡単なものではないらしい。大脳生理学も脳波もまだまだ未開拓の分野の多い学問であり，これから倒立と脳波の関係もはっきりしてくるであろう。ただ倒立が頭の休憩に役立つのなら生活の中で学生にやらせ度い事が多い。

授業中居眠りばかりしている学生などに活用したいものである。「倒立は単なる体操の姿勢や技ではなく健康法でもなく，人間形成に役立つ大事な教育手段である」などという大論文がいまに現れるかも知れない。そんな大論文は私にはさかだちしても書けないけれども。

☆

ギリシャ神話のアトラス（Ａｔｌａｓ）という巨人神は反逆罪に問われ，ゼウスに天空をささえることを命ぜられた。アメリカ空軍が大陸間弾道弾にこの名前をつけたのは記憶に新しいところである。ところで倒立という姿勢は考えればアトラ

メキシコ先住民の倒立　北斎漫画「無礼講」より　役者絵づくし（片手倒立）＝江戸時代

スとは逆に天空に足をおいて地球をさしあげていることになる。であるから倒立運動は別の名を地球差し上げ運動とよんでもよい筈である。であるから人間がとり得る姿勢でこれくらい雄大な姿勢は先ずあるまい。

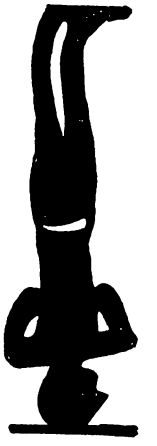
「今日も元気だ煙草がうまい」の代りに毎日倒立したあとで「地球をさし上げ今日も元気だ」と叫んだ方が21世紀むきであると思うがどうだろう。辞書によると「倒」という字はたおれるという意味と，さかさまにするという二つの意味があり，又はげしい動作を表す時に用ふるとある。「和名類聚抄」の雑芸部に「擲倒，賀位利宇都」という名称があげられている。擲倒は静止の倒立ではなく，体操競技でいう前転とびか後転とび，賀位利宇都は宙返りのことらしい。歌舞伎などではトンボをきるとかトンボをうつとかいって練習課目の一つのようである。前宙も逆宙も両方をふくめてトンボというようである。

世界中で一番はじめに倒立をした男はだれだろうか。これはギネスブックにもないし調べようがないのでわからないが，最初にカキやなまこを食べた人と同じくらい勇敢で好奇心に富んだ人であったろう。エジプトにも古代ギリシャにも倒立の絵はあるから有史以前の原始狩猟民族も獲物が多かった時にとびはねたり，よろこびの表現として逆立ちぐらいやったかも知れない。サーカスでは象や熊が倒立することがあるが，あれはやらされたのであって自分から自発的に試みたわけではない。従って倒立姿勢は人間独自のものであるといえる。

大阪地方の古いことばで「うさぎの逆立ち」というのがある。耳がいたい話の時に使うらしい。面白いことばである。

二，三日前の新聞に「逆立ちした企業献金の増強論」という見出しがあった。「もしこれが駄目なら私は村中逆立ちしてあやまってまわる」等という言葉が使われている小説もある。このような場合は理論や状況が逆になっている時，或いは尋常一様でない努力などの時に使われる。

次に逆立ち或いは倒立の定義は何かとひらきなおるとこれがなかなかの代物でオイソレとはきめにくい。私見はあるがあまり貴重な紙面を汚すのも気がひけるので一応ここで筆を擱くことにする。　（おわり）



エジプトのベニ・ハッサンにあるケティの墓に頭で立っている男の絵がある。

（付）

小生26年間日大文理に勤務致しましたが一昨年定年退職をし，以後週二回（火・金）出校し講師をして居ります。また平野先生のあと体操部の部長を10年ぐらいやらせてもらい，大勢の方々にお世話になりました。御挨拶を申し上げた方もありますが，まだの方も多いのでこの紙面をおかりして御挨拶申し上げます。ありが度う御座いました。

9月10日

濱　田　靖　一

創　部　の　頃

日本大学体操部部長　門　脇　春　男

日本大学体操部ＯＢ会としての“桜樹会”が発足してから25年の歳月を経たことに対し，ご挨拶申し上げる機会を得たことは大変光栄に存じます。

昭和31年に体操部を創立する際，初代部長，秋葉安太郎先生（当時，大学常務理事，教養部長）や平野平三先生（当時，教授，体育課長）のご努力とご支援のおかげで誕生をみることができました。私は，幸いにもその最初から参画し，苦楽を共にできたもののひとりとして，今日名実共に成長した組織や活躍ぶりをみ，感銘をうけております。

人類の社会が発達して組織ができると，情報を伝達したり記録にとどめることが必要となる。桜樹会には“桜樹”という会報が年一回ではあるが発行されてから20回になる。現在の“会報”の前に２回“櫻樹”として体操部誌が発行されたことがある。そのときの創刊号に，秋葉先生は次のようなことを述べておられる。

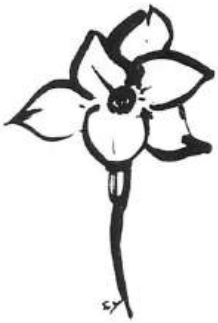
私はかねてから，体操は最もスマートな体育種目で，日本人の体格や勘のよい気質に適しており，国際競技で，日本人の優勝可能な種目の一つであると信じ，日本大学で，このスポーツの優秀な指導者を養成し更には，その中から日本を代表する国際的な選手を出したいと考えていたが，この夢は既に実現の途につき，心ひそかに喜んでいる。

来るべきオリンピックの大会場に，へんぽんとひるがえる日章旗，そしてそのもとに立つわが部員の勇姿，これが今私の画いている未来像である。しかも，この未来像への曙光は既に見えそめている。なんと素晴らしい年であろう。私は今，とし甲斐もなく，老いの胸を躍らしている。

—37．11．25　稿—

とある。将来に夢を求めながら，希望に満ちたこのことばは，私達への方向を示唆するものではないだろうか。

桜樹会はいま青年期に入りつつある。そこで会員のみなさんは協力し合い，人間と人間とのふれあいを大切にして，大きく大きく育っていってゆくことを願っている。



桜樹の年輪と共に

日本大学体操部前監督　遠　藤　幸　雄

日本大学桜樹会が誕生する1年前，すなわち，昭和34年4月，文理学部に体育助手として奉職したとき，部員に対する技のプレゼントなど皆無だった。

当時，門脇監督との関係から，同郷の秋田県出身の優秀な部員が中心的存在で，平行棒の「前方宙返り下り」さえ出来なかった私は逆に刺激を受ける立場にあった。したがって，先生と呼ばれながらも心境は部員と全く同じで，他部と共用する唯一の体育館（現在の第一体育館）でのトレーニングは毎日必死の思いだった。

昭和35年，東京体育館で行われた第17回オリンピック・ローマ大会の日本代表選手決定競技会で，ユニフォームにマークの無い選手は私ひとりだった。それは，競技会の近づいたある日のことである。二代目部長の平野先生から「遠藤君，桐の葉のマークを付けて，もしローマの代表になったら……」とのアドバイスがあり，ハッと気がついてその日から日大教員のマークを懸命に考えたもののついに試合の日までに間に合わなかったからである。

この一件は，私に対して日大教員としての自覚を促し，自立への出発点になったといっても過言ではない。

門脇現部長の熱意で部が創設され，初めてオリンピック代表選手（早田，木村）を送り出した東京大会（昭和39年）は，多くの関係者に興奮と喜びを与えた点で特筆されよう。特に早田選手が初出場でつり輪で金メダルを獲得したことは，本人の努力はもちろんであるがその強運を思わずにはいられない。

一方，私の大失敗（あん馬）には目を覆いたくなる心境であった。当時「ハンカチを千切ったので弁償してくれ」と冗談をいう者さえいた。

昭和45年，監督に就任する際，「3年でインターカレッジの優勝を果たす」と全く根拠のない大それたことを言ってしまった。あるとすれば熱意をもって勧誘しようとの決意だけだった。

昭和46年以来の勧誘は，前任者の苦労を肌で感じながら，主に早田，木村両コーチと当たり，幸いにも有望な新入生を迎えることができた。その結果，遂に男子の悲願達成が昭和48年にやってきたのである。監督就任の年を監督の学習年として大目にみてもらえるなら，寄しくも3年目の勝利となり，この上ない喜びを味わうとともにその幸運を思わずにはいられなかった。

物事に順序があるように，この初勝利も決して一足とびに達成されたものではない。すなわち，「今年の日大は……」と他大学から注目されるまでには長い苦しい下地期間があったということである。監督在任中5度の勝利に恵まれたことは幸運であったの一語につきる。それも，部長はじめ副部長，コーチ，そして桜樹会の方々の寛容の姿勢なくしては不可能であったと思う。

体操部も昭和57年から早田新監督のもとに始動しているが，部の隆盛は桜樹会のバックアップなしではあり得ない。私自身，桜樹会の一員として協力を惜しまないひとりである。

桜樹会が確固たる年論を刻みつつ大樹に育つことを心から祈る。　　昭和60．6．8

桜樹会発足25周年に際して

日本大学体操部監督
早　田　卓　次

門脇春男初代監督が率いる体操部は，昭和32年5月，日本大学体育会体操部として本部運動部に入会した。その年，直ちに全日本学生選手権で二部から一部に昇格し，翌年にはすでに，日体大，東教大（現筑波大）に肩を並べる大学三強の仲間入りを果たす急成長を遂げた。

当時，体操部は競技成績が先行し，人間教育の基本となる部則はまだ未熟であったような気がする。門脇監督みずから，子細にわたってルール化し部員の指導に当たっておられたが，それを守ろうと努力していた部員は少なかったようである。それだけに初代主将の石井征也氏，総務の稲橋恒行氏らが，監督と選手の間に入り大層苦労していた様子であった。

部員の数が年々多くなり，バスケットコートの半面の広さしかなくそれも一日2時間半位しか練習時間のとれない旧体育館では，練習もままならない状態になってきたころ，監督のご努力によって体操専用の現在の体育館に移った。39年東京オリンピックの年である。それに加えて，念願であった合宿所が翌40年に新築された。二階建，食堂の他に大広間二つの殺風景な合宿所ではあったが，体操仲間が一緒に生活できる喜びは最高のものであった。翌年の41年には，女子が全日本インカレで初優勝を遂げるなど，この頃が日大体操部の第一期の充実期であったと信じている。

部員数も毎年150名を超し，一人ひとりの顔もとうてい覚えきれないほどになってきたころ，運悪く学園紛争が起こり，大学は占拠され，練習場にも事欠く事態に陥った。毎日，練習場を求めて転々としなければならなかった当時の部員諸君には，今でも大変申しわけなく思っている。特に，山本好隆主将をはじめとする第11期の諸君は，仙台，秋田という遠征合宿の際に，四年生として部員の先頭に立ちみんなを引っ張ってくれた。その情熱には今更ながら感謝している。

昭和45年後期から，遠藤幸雄監督に交代された。翌46，47年と連続して全日本インカレの男子個人総合を取り，3年目には悲願であった男子団体初優勝を成し遂げ，そして50年まで，個人総合，団体総合とも三連勝の偉業を達成した。その後，52，54年にも団体で優勝しており，この頃が第二の充実期であり，黄金時代ともいえる華やかな時期であった。

現在も多くの優秀な選手が育っている。彼らは，大和銀行，河合楽器の所属選手として，日本を代表する選手に成長した。また，その他でも，週1～2回程度の練習を続けて大会に出場してくる会員がいることも見逃せない。毎年，社会人大会で日大桜樹クラブがチーム出場し大活躍していることは心強い限りである。

このような活発な活動も，桜樹会のチームワークの良さが大きな力となっていることは間違いない。それは，いつもインターハイ，国体に参加されているＯＢ会員が証明してくれている。大会の開催地で行われるＯＢ会にはほとんど全員が出席し，学生時代の懐かしい話に花を咲かせ，実に楽しいひとときを過す。そんな折，たいていの場合出席者の方々から部に対して激励金が贈られている。私たち部をあずかる立場の者にとって，ＯＢの方々からの励ましほど有難いものはない。

現在の部は，男女合せて59名であり，かつてほどの盛況さはない。しかし，全員が一丸となって優勝を目指している。多くの先輩諸氏が築いてきた伝統を守るために……。

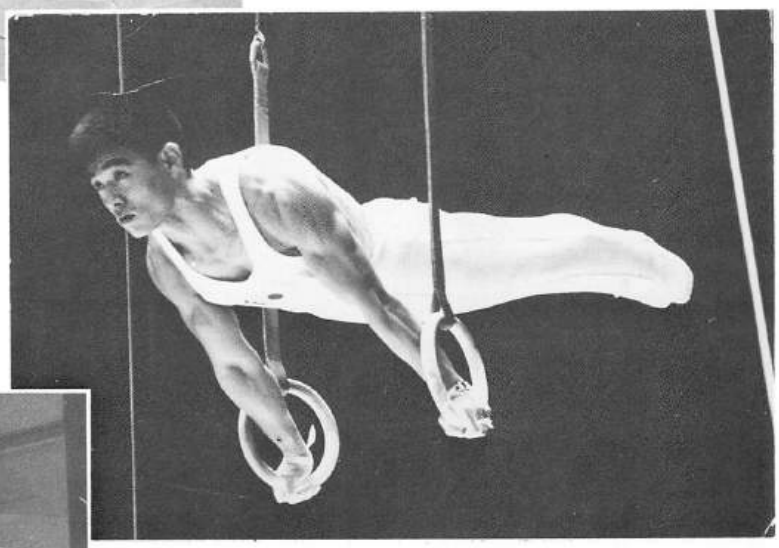
60．8．20

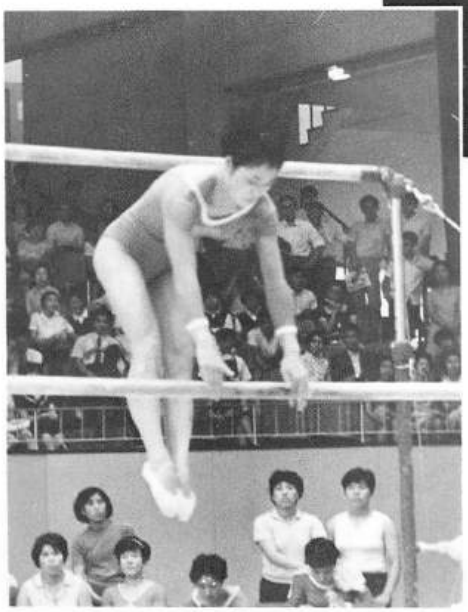
全日本学生選手権・個人総合優勝者
オリンピック・世界選手権
ユニバーシアード大会　　各出場者

辻　　健　一（3期）

1959　世界学生体操競技選手権（モスクワ）

1961　ユニバ（ソフィア）





早　田　卓　次（4期）

1962　インカレ

1963　ユニバ（ポートアレグロ）

1964　東京，1968 メキシコオリンピック

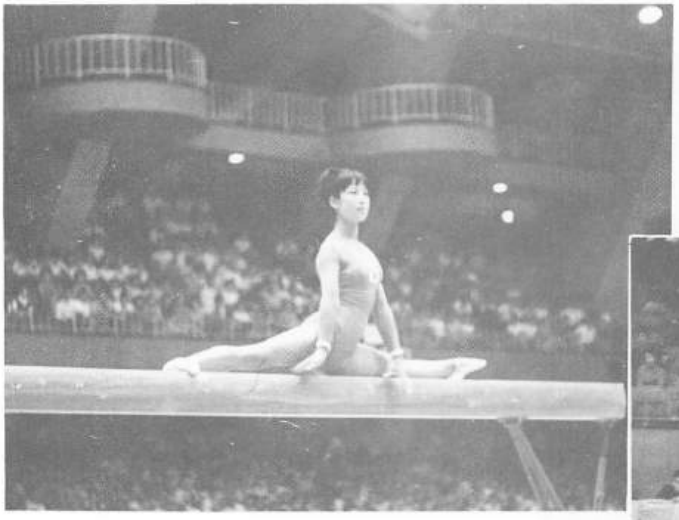
1970　リュブリアナ世界選手権

渋　谷　多　喜（4期）
（現木村）

1962　インカレ

1962　プラハ世界選手権

1964　東京オリンピック

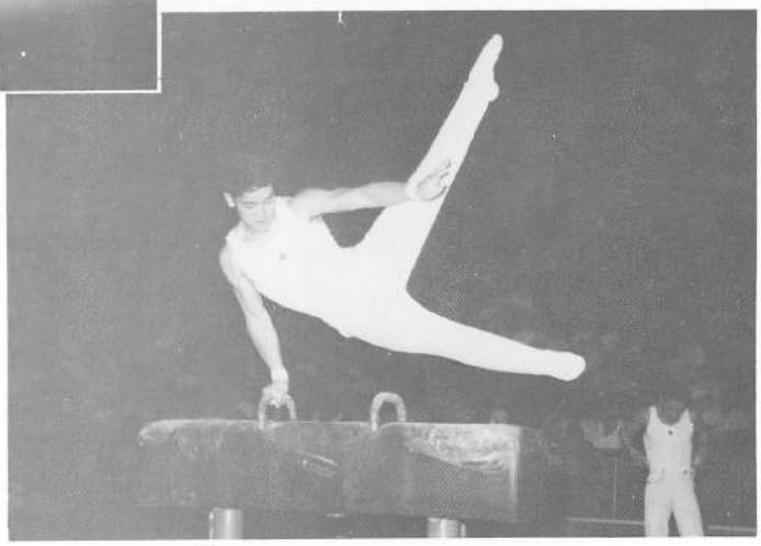


▲ 山 上 恵 子 （8期）
1967　ユニバ（東京）

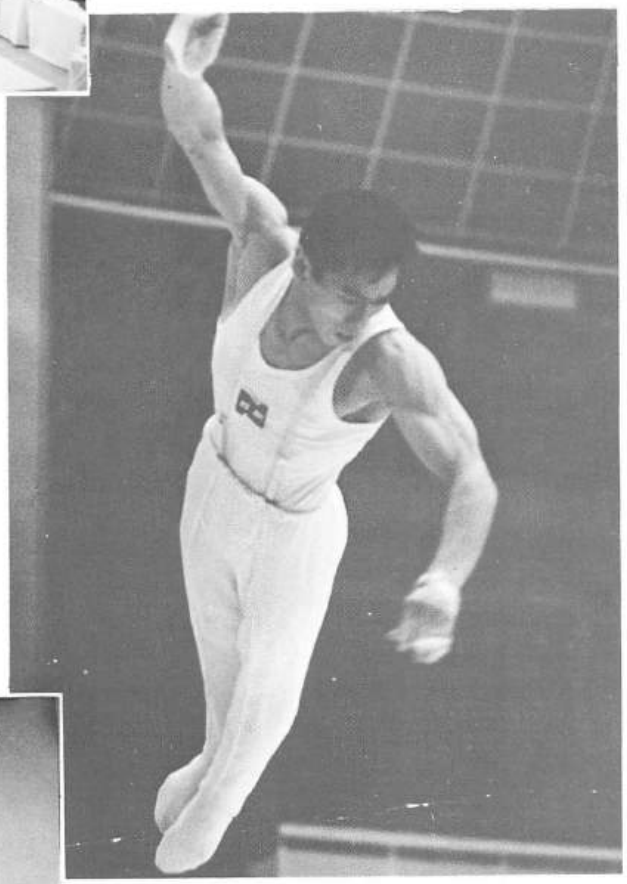
▲ 下　手　真美子 （7期）
（現二岡）
1963　インカレ

▲ 稲　谷　清　子（12期）
（現田中）
1970　ユニバ（トリノ）

▼ 原　　弘　吉　（11期）
1970　ユニバ（トリノ）



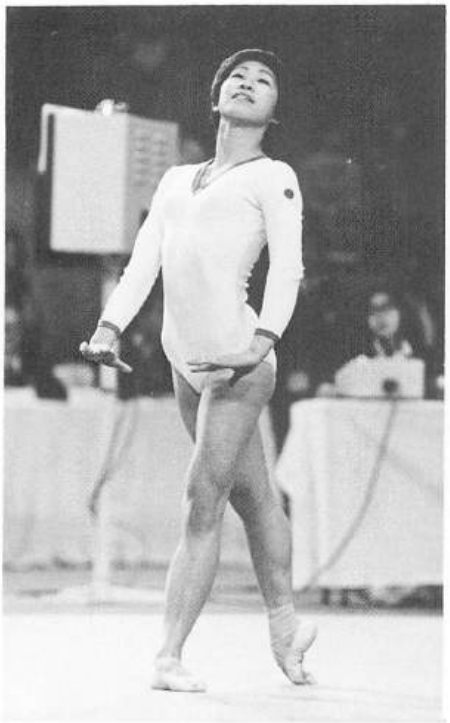
▲ 椎　名　　昇（13期）
1971　インカレ



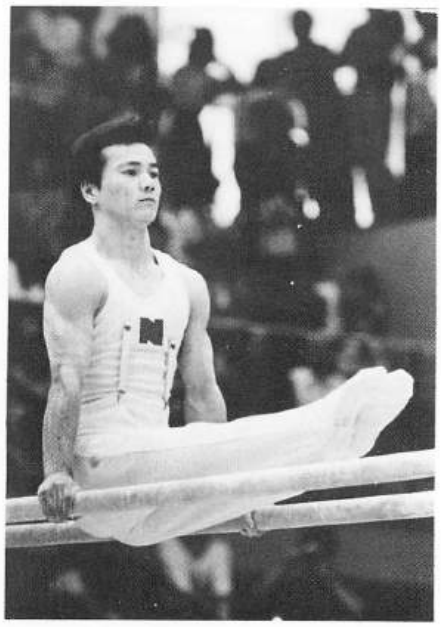
▲ 五十嵐　久　人（14期）
1972　インカレ
1976　モントリオールオリンピック

◀ 矢　部　信　恵（15期）
（現山崎）
1972　ミュンヘン，
1976　モントリオールオリンピック
1973　ユニバ（モスクワ）

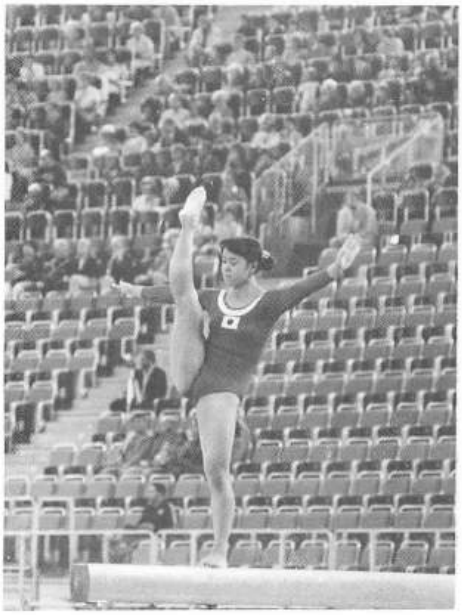
▼ 林　田　房　美（16期）
（現錦井）
1973　ユニバ（モスクワ）
1974　バルナ世界選手権
1976　モントリオールオリンピック



▲ 錦　井　利　臣（16期）
1973　ユニバ（モスクワ）
1979　フォートワース世界選手権



梶　山　広　司（17期）
1973 ～ 1975　インカレ
1973，1977　ユニバ
（モスクワ，ソフィア）
1974 バルナ，
1978 ストラスブール，
1979 フォートワース世界選手権
1976 モントリオールオリンピック



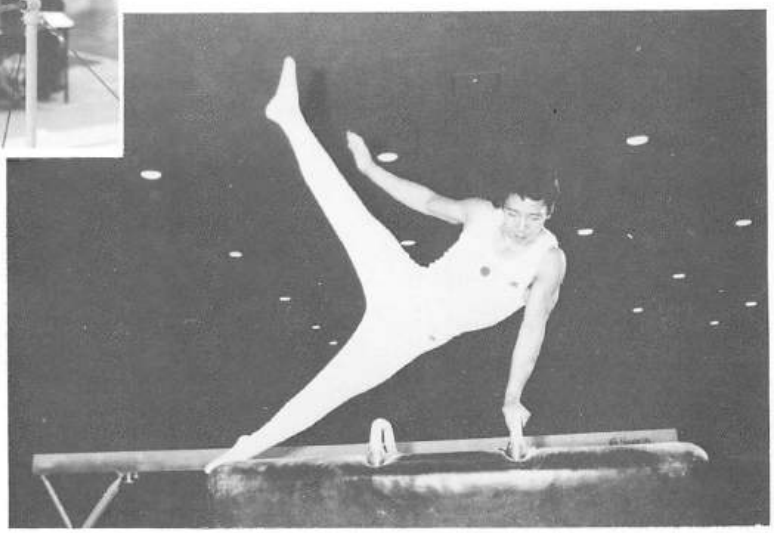
宮　本（現佐々木）敏　子　（17期）
1972　ミュンヘンオリンピック

▲ 金 居 俊 郎 (19期)
1981 モスクワ世界選手権

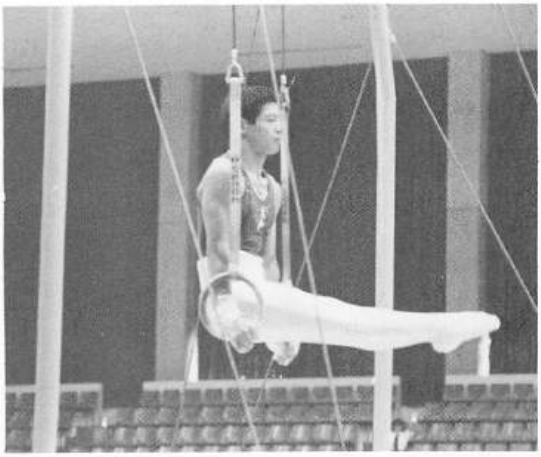
▲ 松 本 俊 一 (19期)
1977 ユニバ（ソフィア）

▲ 平 田 倫 敏(21期)
1983 ブダペスト
世界選手権
1984 ロサンゼルス
オリンピック

▼ 山 脇 恭 二 (21期)
1979 ユニバ（メキシコ）
1981 ユニバ（ブカレスト）
1981 モスクワ世界選手権
1984 ロサンゼルスオリンピック

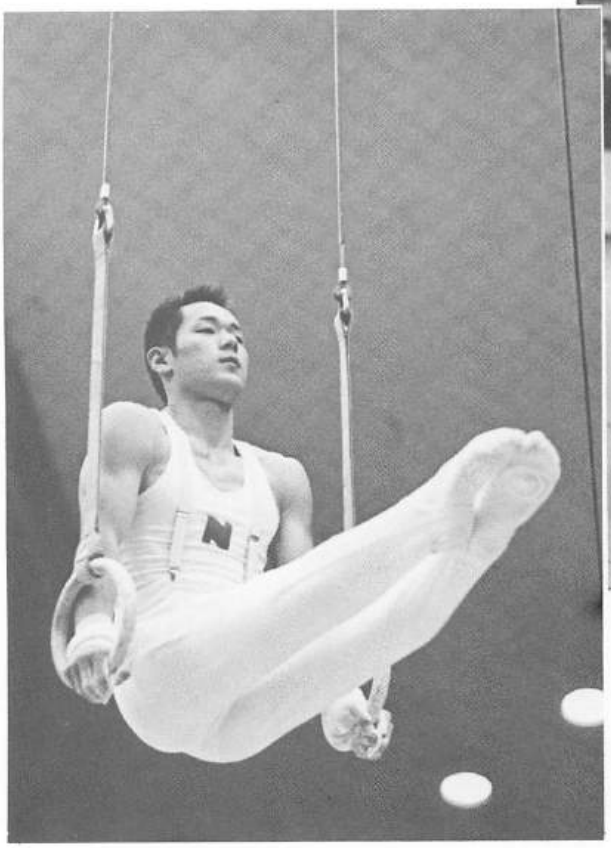


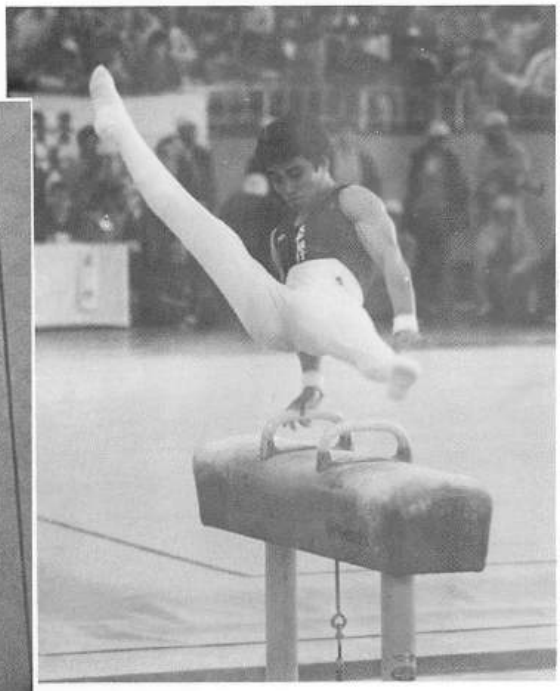
▼ 峯 田 孝 幸（23期）
1983　ユニバ（エドモントン）



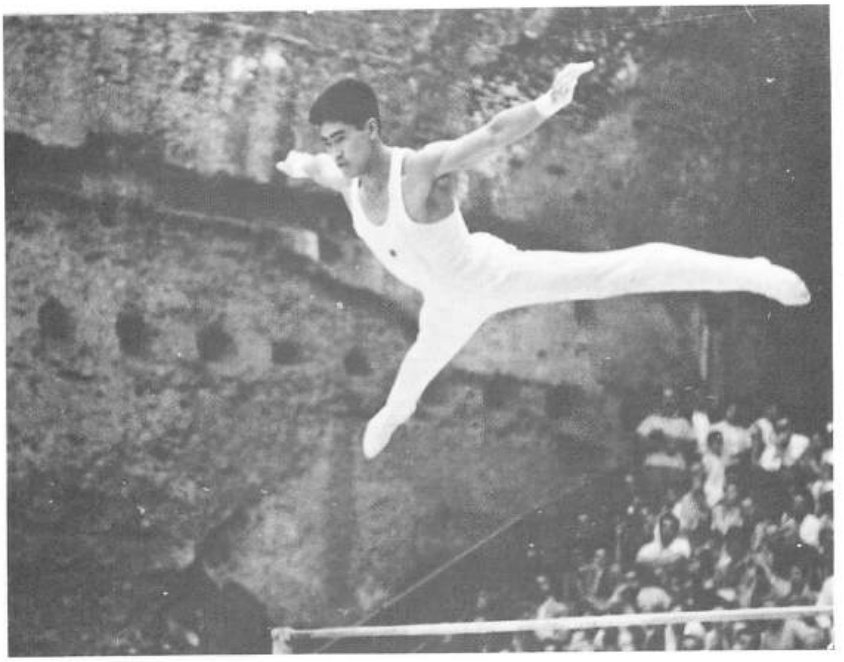
▲ 西　沢（現城本）真理子（21期）
1977　ユニバ（ソフィア）

▼ 小野田　博　之（25期）
1983　ブダペスト世界選手権
1983　ユニバ（エドモントン）
1984　ロサンゼルスオリンピック





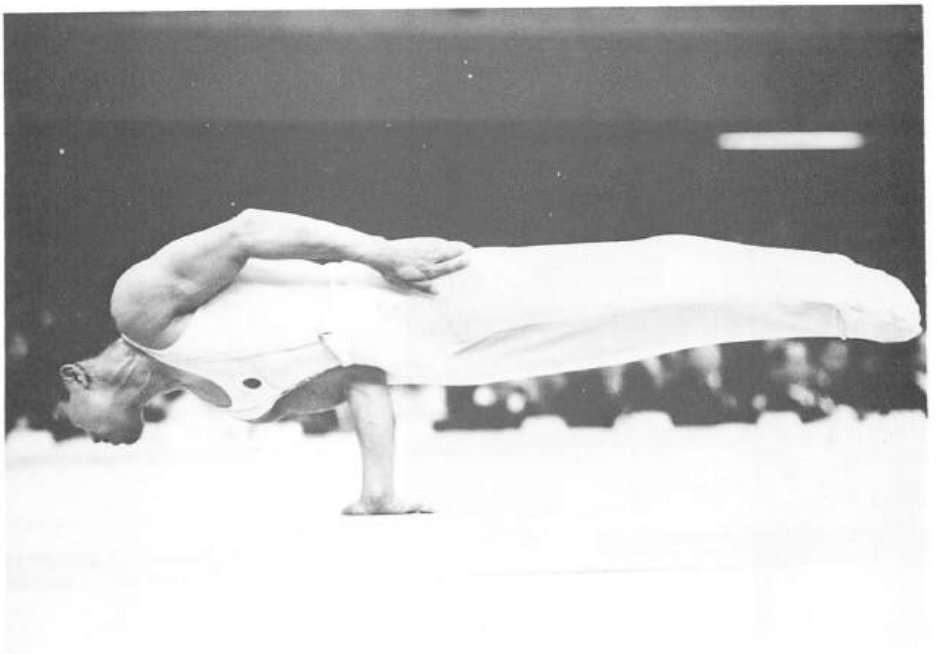
▲ 渡 辺 光 昭　（25期）
1983　ブダペスト世界選手権
1985　ユニバ（神戸）



遠　藤　幸　雄（顧問）

1962　プラハ，　1966　ドルトムント世界選手権

1960　ローマ，　1964　東京，　1968　メキシコオリンピック



曽我部　和　子（顧問）
（現門脇）

1956　メルボルン，
1960　ローマオリンピック
1958　モスクワ世界選手権

25年の歩み

1　期
昭和35年卒

▲　桜樹と体育館
—32年　春—

▲　秋田合宿（32年8月　秋田工業高校で）
後列右から四人目　稲橋恒行
二人おいて　石井征也
一人おいて　合田恭子
（現　稲橋）
やがて3期生，4期生として入学してくる高校生部員と一緒に……

▲　日大体操部の総勢

◀　新入生（2期）を迎えてハイキング
—32年春　野猿峠—

あの頃のこと

稲　橋　恭　子（1期）

そうね，昔の体操部の思い出といっても……何を書いてもいいの，ホントに何でもいいの？

なら，ウン。

もう27～8年も昔のこと。日大体操部がまだできたてのホヤホヤの頃だったわ。体操部には文理学部だけでなく，芸術学部の学生とか経済学部とか，理工学部の学生もいたわね。高校時代にほんの少し体操をやったくらいの人達が集まってきて遊びのグループみたいにワイワイガヤガヤ練習してたのよ。今のように，立派な競技歴をもつ部員の方には想像できないような，運動部というよりは同好会的な集まりだったみたいよ。もちろん，天下の日大のことだから器具なんかはちゃんと揃っていたけど。ただマットなんかは長いのがなくて2メートルぐらいの短いマットが5～6枚あるだけだったので，いつも縄とび用のロープで結んで一本のマットにして使っていたのを覚えているわ。

芸術学部から練習にきていた人だったけど，特にハンサムな男でもないのにとてもおしゃれさんで，ポロシャツを着てマット運動の練習をするのよ。開脚前転がなかなかできない人が5～6人いて，この人も一生懸命やっていたわ。ポロシャツの胸のポケットにコーム（髪をとかすくし）を入れて前転するものだから，そのたびにコームがマットの上に落ちるの。するとそれを拾って必ず髪をきれいに整えて，それからコームをポケットにしまってまた前転の練習を続けるのよ。とてものんびりした練習風景だったわ。

そして翌年には急に部員がふえたの。東京から堀田さん，岩本さん，古市さん，吉川さんらが入部してきて，秋田からは平川さん，芳尾さんも来て，やっと体操部らしい雰囲気になっていったわね。それでもまだのんびりしていて，その頃の写真を見ると，他の大学（法政）の学生で，しかも体操の選手じゃない人が部員と一緒に写っているのよ。その人が20数年後に福田竹子さん（3期）のご主人になる人とは，もちろんその時は考えもしなかったわ。

体操部の合宿所などない時代なので，赤提の日大通りに面した，小さな今にもくずれ落ちそうな木造アパートの四畳間に，陸上競技部の先輩で，円盤投げの日本記録を持っていた内田弘子さんと私が生活してたの。その部屋の隣に入居してきたのが秋田からやって来た平川さんと芳尾さんなの。なにしろ狭くてすき間だらけの安アパートのことだから，共同の台所で魚を焼いたりすると部屋中煙だらけになってしまうの。二人はよく女の子からのプレゼントの魚を焼いてくれたけど，こちらは煙に泣かされたことを覚えているわ。（もてない者のひがみもあったのかも）。

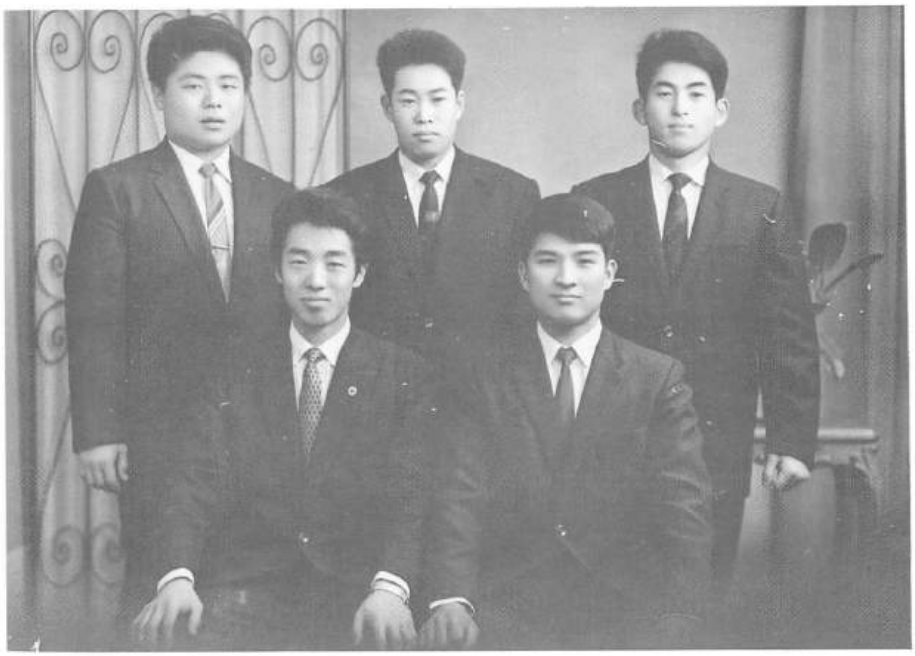
秋田から上京した頃の平川さんと芳尾さんは，アイウエオ，カキクケコ，ガギグゲゴ，ザジズゼゾなどとなまりをなおすために毎日発声練習していたわ。今の人は地方から出てきてもすぐ東京弁で話すことができるでしょうが，やっぱり20数年前よね。

そして，その翌年あたりからはインターハイで大活躍の選手達が続々入ってくるようになり，今のようにすばらしい体操部に育っていったのね。

じゃあこの辺で……。

それから，主人はいくら練習しても開脚前転ができなかったひとりでありましたことを書いておきましょう。それではよろしく……ハイ。

2　期
昭和36年卒



▲　卒業記念に……写真館で　（皆いい男に写っている）

▲　練習後のひととき

◀　クライミングロープで絶対的な強さを誇っていた堀田淳二

初期合宿所の生活を語る

芳尾　明（2期）

（これは48年5月発刊の桜樹会報第9号に掲載されたものです。）

33年春，閑静な赤提の住宅街を背景として生まれた合宿所は，われわれの安住の地であった。年齢28才，青年の意気に燃える門脇監督，最上級生である現会長の稲橋さん，それにキャップの石井さんを支柱として約15名余りで構成されていた。

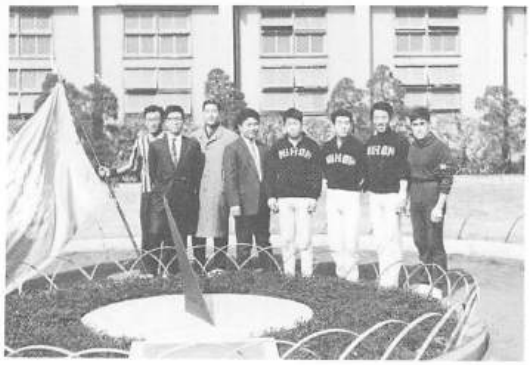
当時，われわれの目標は言うまでもなくインカレで優勝することであったが，奮闘むなしく第三位であった。しかし成績はともあれ，合宿所の雰囲気はいつも和気あいあいとしたものであり，素朴な人間関係があったように思う。現在の合宿所のように宏壮な建物とは比較にならない，言うならば平凡な中流合宿所ではあったが，それだけに家庭的雰囲気が味わえた。時には，実にたわいもないことからケンカが始まったりもした。

夏の夜，熟睡している仲間を素裸にして赤インクを塗りたくって素知らぬ顔をしている者がいるかと思えば，塗られた方もそのまま銭湯に出掛けて衆人を驚かすようなことを平気でやったりした。朝起きてパンツがない。あわてて探し回るが見当らない。朝食の時ふと気がつくと，頭の上の電灯の傘にへばりついていた，などという話は日常茶飯事のことであった。食事をしながら，トイレの順番を大声で叫んでは，炊事の世話をしてくれていた通称ケペコのおばさんにたしなめられもした。

こんな仲間が，現在では父親となり，愛妻家となり，社会人としてもそれぞれの分野で活躍している。今思えば，これも青春であり非常になつかしい時代であった。

友情のない人はケンカを避けるため離れていくという。ケンカするほど仲が良いとも言われるが合宿所生活での仲間は，人間として真のふれ合いがあったと思う。

34年，合宿所は杉並の浜田山に移った。共に生活された遠藤先生は，世界の桧舞台で第一人者の地位を築かれ，続いて早田君は金メダルを獲得した。文字通り同じ釜の飯を食った仲間がみごとな成果を上げた時の喜びは筆舌に尽し難い。常にお互いの胸には美しい友情の交流があり，スポーツを通して育まれた人間愛こそは真実のものであると，われわれは誇示したい。



▲　石井先輩を交えて

平川主将の鉄棒　▼

3　期
昭和37年卒

公用語は秋田弁だった？

早乙女　貞　夫（3期）

第3回の卒業である。受けとり方によれば，かなり“オジン”のひびきがある。自分自身はまだまだ若いつもりだが，今年の昭和60年卒業生が26回卒業で，桜樹会そのものも25周年となると，なるほど，自分もけっこう古手のＯＢになったのだなあ，と改めて感じる次第だ。だが，日大体操部を懐かしく振り返って思うとき，気持ちは自然と“青春時代”に立ち帰る。

我々は昭和33年，まだ部員総数が10人余の，生まれて間もない体操部に入部した。同期は20人ぐらいだったと思う。これで部は総勢30人を超え，ファミリームードのなかに活気を帯びてきた。その活気のなかに，実は一種変わった“現象”がおきた。

「んだべ」，「んだ」。知っている人はすぐハハンとうなづかれると思うが，これ，秋田弁。この「んだべ」，「んだ」が，体育館中にはん濫しだしたのだ。

原因はこうだ。我々同期のなかにインターハイ優勝の能代高メンバー４人，さらに秋田工から２人がいた。大学生になったとはいえ，彼らは高校時代の練習のときと全く同じ顔ぶれ，高校時代の延長で，なんの抵抗もなく秋田弁が口をついて出る。おまけに門脇監督（現部長）が秋田工，１年先輩の平川さんが能代高，芳尾さんが秋田工の出身ときている。

当時の秋田はまさしく“体操王国”，技術が抜きん出ていたことと合わせ一大勢力となり，オーバーな言い方かもしれないが，平家物語ではないが「秋田にあらずんば，日大体操部員にあらず」の感すらあった。

せっかく花の東京（？）で生活していながら，彼らは標準語などどこ吹く風。「フロさ，行くべ」，「んだば，行くか」で何の不自由もなかった。この年の夏合宿がまた，秋田工だったことで，秋田弁と親しむ機会が増えた。

環境とは恐ろしいもの。東京生まれを含めた関東出身，標準語に近い札幌出身者がいつしか自然と秋田弁が口に出るようになる。四国丸亀出身者など，関西弁と秋田弁がごちゃまぜで，失礼ながらこれはもうこっけいだった。

いつしか，日大体操部の“公用語”は秋田弁になっていった。

批判が出そうなので断っておくが，先輩の合田さん（現稲橋夫人）を頭にした３人の女子部員はこれにけっして同化することがなかったことを，あえて特記しておく。

言葉の話はともかく，体操の方は若さがはちきれ，恐いものなしでばく進した。

我々が入る前年，チーム構成ギリギリの少数精鋭の先輩たちの努力で，インカレの２部から１部昇格が決っていた。我々３回卒のスタートは，幸運にも堂々１部から。伝統を築きつつある日大体操部の，本格的スタートの年といっていいだろう。１部スタートのチームのなか，１年生は４人を占め，団体３位の大健闘。そして幸運をつかんだのが我々のエース辻健一（第３代主将）だった。１年生ながら個人総合の上位入賞を果たし，翌年の国際学生選手権（現在はユニバーシアードに吸収）への出場資格を手にしたのだ。もし，先輩たちの努力も空しく，再度２部での試合だったら，日大体操部の海外遠征第１号はもっと遅れたものになっていただろう。

この海外遠征は門脇現部長が監督をつとめたこ

ともあり，祝勝会，壮行会に次いで羽田空港へ大挙見送りに出掛け，日大体操部を大いに，ＰＲしたことも付記しておきたい。

もうひとつ，私事になるがどうしても書きたかったことがある。

昭和39年，東京オリンピックで早田君(現監督)が金メダルを取ったときである。私はまだかけ出しの新聞記者として，記者席で取材していたが，となりにいた報知新聞のベテラン記者がどこから聞き込んできたのか，「オイッ，君もたしか日大体操部だったな。あそこに一枚岩のように団結の固い，若いＯＢ会があるというじゃないか。ひとつ，その話を聞かせてくれよ」。

翌日の報知新聞に「早田の金メダルは，若い日大ＯＢ会のエネルギーの象徴である」と出た。つまり，我が桜樹会の存在が一般に認知されたことになる。「なるほど。ベテラン記者は角度が一味違ううまい記事を書くものだな」と感心しつつ出勤した私を待っていたのは，「報知新聞を見たか。なんでこのネタを書かなかったのか」の，デスクのカミナリだった。

その若いＯＢ会が早くも四半世紀を経過，日本国中，いや海外にまで卒業生が散っていることを思うと，感無量というしかない。

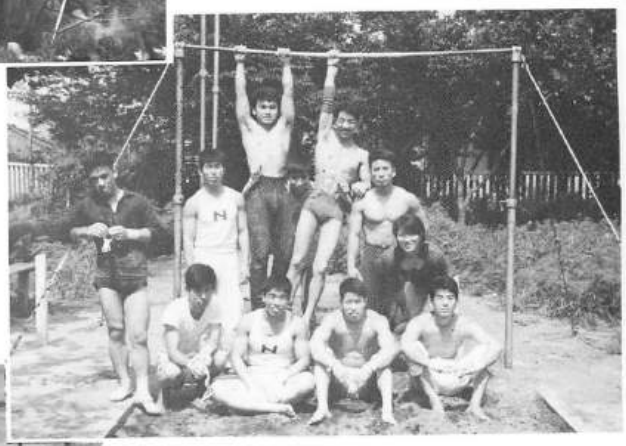
▲　入学早々の新人戦。皆，まだ高校生のよう

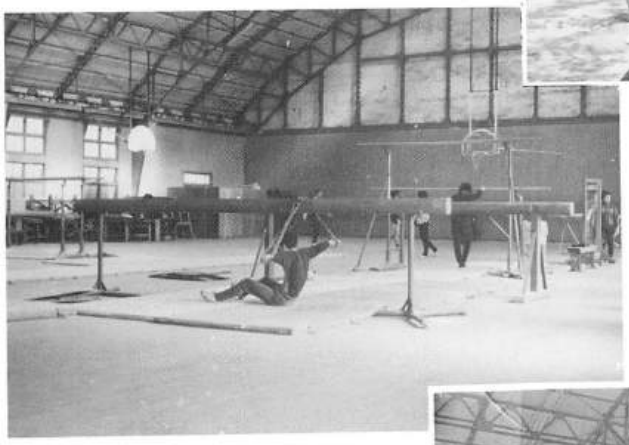
なんの試合のときか忘れたが，後列左から３人目が37年暮，卒業後まだ１年にも満たない若さで病死した好漢，サッちゃんこと阪本尚君

▼

▲　1年生夏の秋田工での合宿。写真撮影のとき何人か欠けているが，1，2年生の参加者の大半がいる。現在と比べると，壮観さで天と地ほどの差がある

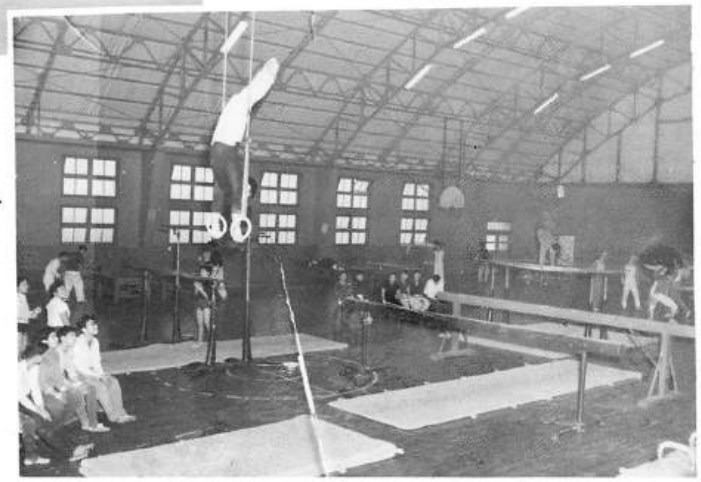
すでに取りはらわれてなくなった体育館脇の屋外鉄棒練習場。下の砂をスコップで掘りかえし，頭から落ちてもケガしないよう柔らかくしたものだ。ピットを知る今の後輩諸君には考えられないことだろう ▼





▲

体育館でののんびりした練習風景 ▶



4　期

昭和38年卒

▲　2年生の終わり頃，スキー実習から帰ったばかりで真っ黒い顔が揃っている

▲

37年3月，最上級生として　▶
初めての本格的合宿を実施した
（前橋スポーツセンター）

今はなつかしい
外の鉄棒

◀　早田卓次（1年生の頃）

田野　哲（3年生の頃）▶

全日本選手権
兼ローマオリンピック
二次予選

（34.11　岡山）

▲　宿舎で
高島健治（前列左端）
阪本　尚（そのとなり）
吉井公恵（後列左端）の三氏は
すでに亡い

▲　会場前で

◀　34年５月　高尾山

▼　35年５月　城ケ島

新入生歓迎会

合宿所流転

菊　地　君　男（4期）

男子の合宿所は赤提，浜田山，八幡山と三度移転した。私はどういうわけかこの三カ所の合宿所の生活を体験した唯一の人間なのである。（もっとも，八幡山の合宿所は建て替えられて立派になったそうだがそこでの生活経験はもちろんない）いずれにしても得難い経験ではあるのでそれぞれについて点描を試みた。

〔赤提〕

合宿所の縁側で，真新しいふとん袋からふかふかのふとんが出てきたとき，何んともいいようのない気恥ずかしさを感じたことを覚えている。荷ほどきを手伝ってくれた一年先輩の三田さんや米田さんが「うわぁー，いいでぁ」と秋田弁で感嘆の声を上げたこともなつかしく思い出される。

昭和34年の２月中旬，私は同期生の先頭を切って上京した。合宿所は間もなく浜田山に移ったので，この赤提のくらしを垣間見ることができたのは同期では私ひとりである。

その建物は，赤提の閑静な住宅街の一角にあった。ごく普通の住宅を一軒借り切って若い連中がゴロゴロしていたのだから，近隣の奥様方の目にはどう映っていたのであろうか。私はわずかな期間しか住まなかったが，それでもポッと出の田舎者には毎日が驚異であった。

一階の２，３部屋ぶち抜いた広間に所狭しとザコ寝し，まるでいくさのような食事をどうかいくぐったのか，いま考えてみても思い出せない。二階には３，４年生の部屋があったが，新入りの私などとうてい近寄れない聖域のように思えたものである。20数年経て，かつて口をきくことさえ恐れ多かった先輩達と酒くみ交す昨今ではある。

〔浜田山〕

井の頭線の浜田山駅から20分位歩き，武蔵野の面影を残す雑木林をぬけると田んぼが広がっていて，その中に新築間もない木造アパートが一棟建っていた。それが私達の新しい住まいだった。

昭和34年３月下旬，同期の連中も入居してきて新生活がスタートした。この年は皇太子ご成婚の年であった。入居早々，記念事業で使うペンライトの袋づめの内職が持ち込まれた。練習から帰ると，部屋の中にうず高く積まれたパンフレットとペンライトを袋に入れてホッチキスで止める作業が連日続いた。練習に疲れた身体には結構こたえる仕事だった。単調な作業に苛立った誰かが，点灯したままのペンライトを田んぼにほうり投げると，水のはってある田んぼの中でまるで蛍火のようにいつまでも明滅していた情景を思い出す。

この年の12月，合宿所は解散になった。

〔八幡山〕

昭和40年２月，大学によって合宿所が新設されたとき，もちろん私は卒業していた。その私に，合宿所のマネージメントをみてくれないかとの話があった。早田君が舎監として入るというので引き受けたのだが，何もかも初めてのことで大分苦労した。浅草の河童橋（食堂やレストランに什器類を売る街として有名）で食器や炊事用具を買い揃えることが初仕事だった。ツケのきく店の開拓にも随分歩き回った。

ここでの生活にも数々の思い出はあるが，その中でも台風にまつわる記憶は鮮烈である。

大型の台風が東京を襲ったとき，低地にあった合宿所は床上30センチを超える浸水に見舞われた。台風一過の夜，湖水のようになった隣接のサッカー場を全裸で駆けた男がいる。いきさつを語る紙面は尽きたが，青春まっただ中のできごとではある。

5　期
昭和39年卒

プロフィール

小　栗　郁　郎（5期）

東京オリンピックを前に日本中がスポーツ熱にわきかえり，あらゆる報道機関によって各種競技大会の結果を報じている時代であった。また，日本の逞しさを世界に示すべく鉄道技術の枠をあつめた東海道新幹線，輸送力の向上を目指した首都高速道路も，東京オリンピックに向けて急ピッチの工事が進められていた。

体操もローマ大会の熱がさめず，「東京でも勝利を」を合い言葉に日本中の体操選手は跳び，舞い，そして宙に浮いた。遠藤，早田先輩の活躍を目のあたりにしたよき時代であった。我々5期生も，先輩の築いた伝統を守り抜くべく努力したものである。

後輩指導のために，礒部君の下宿で月1回4年生が集まり，カレーライス会を開いて部のあり方や強いチームづくりの話合いをしたことが今でもなつかしく思い出される。

では，5期生の横顔を記してみましょう。女子がいないのが残念なのですが……。

礒部　忠通　（学連派遣）

部発足以来はじめての九州（戸畑）出身。スケールの大きな演技。跳馬の着手で手がすべり転倒胸骨陥没，以後選手生活よりも学連の仕事に全力を傾注し学生体操界発展に貢献。私立本郷高校勤務の後戸畑へ帰り家業を継ぐ。

小川　洋介

礒部君と同じ九州（佐賀）出身。鞍馬が得意で新しい技を夜遅くまで練習，徒手体操のタンブリングも得意としていた。3年の時には全日本選手権の代表選手。趣味は読書，喫煙。スキー指導員，都立高校勤務。

小栗　郁郎　（副主将）

東京都出身。鞍馬，徒手体操を得意とし，身体も柔らかく，何でも覚える器用さを持っていた。3年の時からレギュラーの座を獲得。現在，1種公認審判員，スキー準指導員，私立中高生活補導員，日大豊山中・高校勤務。

金子　洋平　（副主将）

神奈川県出身。多少身体は硬かったが，なかなかきれいな線を出した。腕力が強く吊輪の十字懸垂，平行棒のピンコ腕立てを得意としていた。真面目人間で出席率抜群，学業優秀。パチンコは名人級で麻雀の実力も十分のギャンブラーでもあった。現在，1種公認審判員，山梨県体操協会役員，日大明誠高校勤務。

◀　体育館横の日時計を前にして
—35年　2年生のとき—

小松　武雄　（総務）

東京都出身。地味ではあったがなかなかねばっこい演技をした。3年の時から総務畑に入り合宿や試合の計画作成，運営に当たる。ハンサムボーイで夜のネオン街にめっぽう強かった。学業成績抜群で皆から頼りにされた。スポーツトレーニングの本を出版。日大法学部勤務。

志賀　正昌　（総務）

東京都出身。選手としては顕著ではなかったがマネージャーとして優れた才能を発揮した。

〔彼の便りから〕

高知のインターハイでの勧誘から折り返し青森の合宿へ向かう。夜行列車の通路に新聞紙を敷いてゴロ寝しながらの長旅を経て合宿に合流。休む間もなく札幌のインカレへ乗り込む。その疲れも，早田主将（現監督），渋谷女子主将（現木村女子コーチ）のアベック優勝でふっとぶ。あの夜の札幌のビールの味は今でも忘れられない。また，広島のインカレで下手（現在二岡）さんが無心の演技で優勝に輝いたこと，赤痢で隔離された豊橋事件など印象に残るできごとがいっぱいある。そして何としても残念なのは，阪本，高島，吉井のお三方が亡くなられたことである……。

趣味はつり，パチンコ，酒。いわき家石材店経営。

▲　広島のインカレを前にして
岡山での合宿（宿舎屋上にて）

▲　門脇先生の長男を抱いて（中島）

中島　　元

北海道出身。腕力が強く吊輪，平行棒が得意であった。温厚な人柄で誰からも好かれた。学業優秀で後輩の面倒を良くみた。女子トレーナーとしての女子部員の信任も厚かった。また，下宿生の相談役としても多くの後輩の信頼を得ていた。

現在，函館体操協会役員，函館東高校勤務。趣味は料理。

波多野　伸

東京都出身。平行棒の棒下系の引きのタイミングは天下一品。温厚な好人物。学業優秀で試験の時は皆から頼りにされていた。趣味は静かなところで一杯やることと読書。大東文化大学勤務。

三宅　美雄

東京都出身。生粋の江戸っ子。途中で身体をこわして退部したが体操への思いを断ちきれず後進の指導に熱中。最近，本会への入会の夢を果たした。大学の春期合宿では脇役として活躍。日大三島高校勤務。

山中　勝男　（主将）

東京都出身。オールラウンドプレーヤーだが，特に鉄棒，平行棒を得意とした。早くから選手として活躍，主将としてもチームをよくまとめ先輩の築いた伝統を守った。経済学部に在籍していたので練習にやってくるのに大分苦労した。

趣味のゴルフはプロ並。（株）東京黒板役員。

以上が5期の仲間である。現在それぞれの分野で中堅指導者として元気で活躍中である。また，さまざまな理由で途中で退部していった仲間も，きっと元気にやっているだろう。

6　期

昭和40年卒

▲ 主将　真島（2年のとき　札幌インカレ　37.8）

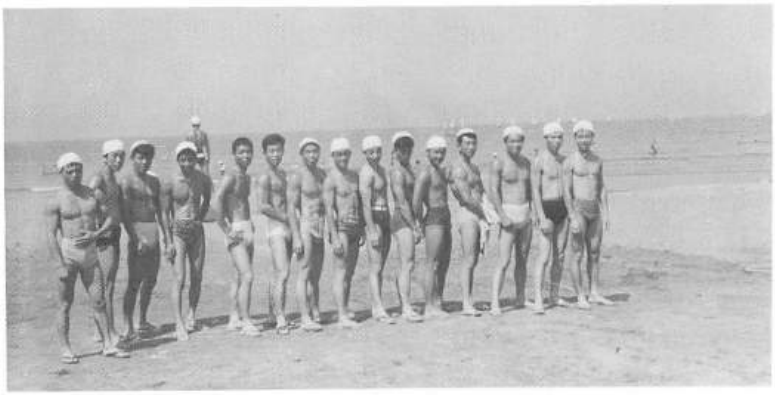
▲　キャンプ実習（日光　36.7）

▲　文理学部正門前で（36.6）

▲

◀　春の合宿

（前橋スポーツセンター　37.3）



▲　水泳実習（岩井海岸　37．7）

▲　夏の合宿　（青森　37．8）

▲　合宿の後で（37．8）

◀　文理学部大講堂前で（36．11）

赤提火の見下合宿所

梅　崎　捷　也（6期）

昭和38年2月，志賀マネージャーより「関西から上京する三人の新人をあずかってくれないか」との話がありました。いま考えるとそれが合宿所設立のための第一声だったように思えます。

突然の話なので随分迷いましたが，当時，先輩に対して「どうして・・・」，「何故？」などと聞こうものなら，腕立て伏せ100回，運動場5周のウサギ跳び，砂利道で正座と小言，ということに決っていたので私の返事は即「ハイ」でした。そして翌日から，自由気ままなアパート暮らしに未練を残しながらの共同生活の場所探し。「砂野俺と一緒にやろう」。当時彼は1年生のマネージャー，かわいそうに彼もこの一言に「ハイ」。住みなれた下宿を捨てて部屋探しに奔走するはめになったのです。

「環境良」「駅まで10分」「学校近し」「近くに公園あり」「一戸建高級住宅」，こんな条件を満たす家が，ありました。これが通称「赤提火の見下合宿所」なのです。部屋数は，6畳，4畳，2畳と4畳半の台所，何故か畳の敷いてある押入れ。建てて20年位かな，いやよくよく見ると50年はたっていたようにも思います。われわれはふところと相談しながら一生懸命大家さんと交渉しました。

翌月4月，関西から有望新人三人（市立葺合高校出身，小柴，中出，坂田）を迎えることができました。彼等は1年生ですから禁酒，禁煙は当然のこと，禁女でもありました。その上，食事，洗濯，掃除などの日常生活についてはもちろんのこと，練習のことでも先輩後輩の関係のことでも厳しく指導しました。そして，学生の本分である勉強についてもやかましく言ったつもりですが，一年間という短い期間だったためか，生活の中で本分を一生懸命やっていた姿は記憶に薄いのです。

人口5人の合宿所のはずなのに，5人で静かな一日を過したという日は数えるほどしかなかったような気がします。先輩後輩の来訪があって，7～8人がいつもゴロゴロしていました。不思議なことに，部屋代を払っていない客が常に押し入れという一等地を使用していたようで，私など寮長のはずなのにいつも玄関で寝ていました。

しかし，そんな中でわれわれは大いに頑張りました。早朝のトレーニングに始まり，寝る前のミーティングまで，毎日，体操体操の生活でした。その結果が後の砂野総務の誕生であり小柴選手の誕生でした。

寮生活のエピソードは数々ありますが，その中で特筆すべきことはネズミの天プラ事件でしょう。同居人でもあるネズミを一匹捕えて天プラにして食べようというのです。運悪くつかまったやつに天プラ油をかけて火をつけた途端，火のついたネズミが逃げ出し床下に飛び込んだものだから，さあ大変，皆の顔は真青。いくら火の見下の家だとはいっても火事にならない保証はない。床下は燃え易いゴミも多い。皆必死でネズミの姿を求めて床下に，天井裏に，大騒ぎでした。その結果は合宿所からにぎやかな一匹が忽然と姿を消しただけで大事には到りませんでしたから，笑い話がひとつふえたといった程度で済みました。もちろん寮長たる私の留守での出来事でした。「今後こんな無茶はよせ」の一言で済ませられたのは幸いでありました。

私は，桜樹会や体操部の活躍の報に接するたびに，この素晴らしかった「火の見下の合宿所」での一年間を思い出し，皆んなの顔を思い浮かべながら学生時代を懐かしんでいます。

7　期

昭和41年卒

▲　関東学生新人戦（日体大　37. 5. 5）

女子部員が二年振りに入部したことで部全体に活気が出た時期だったと思います。

久々の女子部員ということで，四年生の女子部員，特に右端の故吉井先輩を筆頭にかなり厳しく鍛えられたものです。その半面，先輩男子部員には色々相談にのってもらったこともありました。入学当時のメンバー全員が4年間頑張り，良い成績を残すことができたのはそんな背景があったからかもしれません。事実旧姓斉藤，佐藤のふたりは，高田，上野両先輩の良き伴侶として頑張っております。

この写真は，入学間もない新人戦のときのものですが，男子全員坊主頭が初々しいですね。……後列左から4番目

▲旧体育館にて
大島，故朝倉，岩沢
（朝倉君は，鉄棒の2回宙返りの練習中に頭から落下して死亡）

◀インカレ
（38. 8　広島）

▲　テニスコートの横にあった鉄棒で
大島，岩沢

の奈良君は，37年左足，38年右足のアキレス腱を切断し，39年の夏に海で命を失ってしまった不幸な男でした。

（中原　剛君のたよりから）

▲　合宿のひととき（岡山児童会館　39．3）

▼　卒業式後　（大講堂前で　41．3）

かつてこんな部員もいたのです

佐藤　勲（7期）

桜樹会が25歳になるという。本当に素晴らしいことである。何か原稿を，と言われても小生の力ではとても記念誌にふさわしいことは書けそうにない。そこでどうせボツになるのなら，と開き直ってとりとめのないことを書いてみようという気になった。

小生が体操部に入部したのは37年の3月であった。「卒業までに一度はレギュラーになること」というささやかな目標を持って……。しかし，現実は決して甘いものではなかった。文字通り桃源境で育った世間知らずの少年には，この目標すらも大きかったのである。同期に入った男子は20名前後だったと思うが，小生の実力は下から数えた方が早かった。トップとは9点台の選手と7点台の選手ほどのひらきは歴然としていた。スピード，跳躍力，技の難度，柔軟度，そして体型までもが違っていた。これで本当に一年生かとわが眼を疑ったものである。しかし猛練習すれば必ず追いつけると考えていた幸せな少年でもあった。

一年目は夢中で練習し，あっという間に過ぎていった。希望に満ちて，生涯で最もひかり輝いていた瞬間でもあった。

二年目，肩の故障がきた。少しづつ仲間から遅れていくようで気が気でなかった。だが「先輩の田野さん（4期）はズブの素人から4年生でレギュラーになった努力の人だ」の一言で，また練習を続けた。

三年目，進歩のあと少なし。そのうち，ひとりふたりと同期生が練習場から遠のいていく。上手な新人が入部してくる。アセル。「勉強する」ことを理由に練習も疎遠になって，なんとなく部の中の窓際族的存在になる。

四年目，当座の目標は完全に達成できないことを悟る。卒業のことも気になりだし，このまま将来どうなるのかと考えるとやけに不安になったものである。この頃，門脇監督（当時）の助言で新人の養育係，つまり今で言う学生コーチもどきのことをやった。これが当時の唯一の生産的な仕事でもあった。

そして，東京オリンピックの遠藤，早田，木村先生のハデな活躍の陰で，クラーイ，ザセツに満ちた四年間の学生生活は終わった。勝負の世界は強くなければダメなのである。若過ぎたとはいえ，いま考えると誠に汗顔のきわみでただ恥入るばかりである。先生方や体操部には迷惑のかけ通しで申し訳なく思っている。そして今また，桜樹会員として同じようにウサンクサイ存在になっている自分にあきれはて苦笑しているこの頃である。

現在の日大体操部は，完全にチャンピオンスポーツの集団であり，かつての小生のようなレクリエーションスポーツレベルの選手は始めから入部しないだろうからこのようなケースは稀と思う。同じ轍を踏ませてはならないと考えるひとりとして，エリート集団という路線が明確なことは良いことだと思う。しかし，四年間の努力でレギュラーになれた時代は，夢があり平和な時代でもあった。

とまれ指導的立場にいる現在，良きにつけ悪しきにつけ，体操部生活で多くのことを学び，経験し，多くの人に出会えたことは幸せなことであった。このことはいま現実に活きているし，これからも活かしていかなければならないと思っている。

日大体操部の部員であったことと桜樹会の会員であることを誇りに思い，心の支えにしているひとりとして，会のより一層の充実を願わずにはいられない。

8　期

昭和42年卒

▲　39年　　2年生の懇親会

▲　39年　　関東学生新人戦

▲　40年　　3年生の懇親会

▼　41年　　全日本学生選手権
（東京）

ある日の日記から

小　柴　守　夫（8期）

（これは，39年1月発行の部誌「桜樹」第2号に掲載されたものです。）

○月○日

何とステキな有意義な一日を過したことだろう。ここ2，3日の私はクラブの誰よりも賢明なように思われる。私の今の心境はかつて感じたことのない寛大なものだ。私は，自分がこのクラブ生活に入ったことに関し，何者かに感謝したい気持ちで一杯だ。夜空の星も月も，いつもとは違った輝きで祝福してくれている。私はこのクラブ生活を力の限り続けてみよう。

今日の食事当番は僕だった。カレーライスを作ってみた。少し多く作り過ぎたが，先輩はうまいうまいと言いながら食べていた。

○月○日

練習を終えて帰るとき，ふと何か思った。それが何であるか自分にもわからなかった。何かペンを持ちたい気持ちだったので日記帳にペンを走らせた。

▲　41年　　関東学生選手権

緑の風が道行く少年にそっとささやいていった。希望だ，希望だよ，信じるんだよ自分を。少年はわれに返ったように目を輝かせ，四方を見渡した。広大な秋の野原には弱々しい野の花が一輪淋しそうにうつ向いているだけだった。少年はその花に近付き，そして問いかけるのだった。

「花よおまえはなぜこの世に生まれた。何のために，誰のために生まれてきたのだ！おまえは淋しくはないのか！苦しくはないのか！つまらなくはないのか！哀れな花よ，人間の僕のようだ」するとその弱々しい花が怒ったように答えた。「私が何故淋しいのだ！何故苦しいのだ！何故つまらないのだ！私には大きな希望がある。この広々とした見捨てられた野原を，野原一面をこの私でいっぱいにするという希望が。そして私には大自然という素晴らしい後楯があるではないか。おまえこそ常に希望を持て！自分を信じよ！そうすればきっと明るい生活が送れるだろう」。

9　期

昭和43年卒

卒業記念パーティー

(43. 3)

◀　浜田先生を囲んで

▲ 41年　親睦旅行（高尾山）

▲ 42年　　新人歓迎会（子供の国）

▲ 40年　　親睦旅行

▲ 43年　　体育館で

▼ 42年　学生選手権（神戸）

体育・スポーツは楽しくやろう

今村　　悟（9期）

昨年，12年間にわたるドイツ生活に別れを告げ帰国しました。帰国して感じたことは，日本もスポーツに対する国民の意識が非常に高まっているということです。ゲートボールなどお年寄にもスポーツが大流行していることは大変素晴らしいことだと思います。そして学生，生徒のスポーツの技術の高さにも驚きました。しかし一方では,「学生，生徒が本当に体育が好きであるのか」，「スポーツを好きでやっているのか」という疑問を感じました。

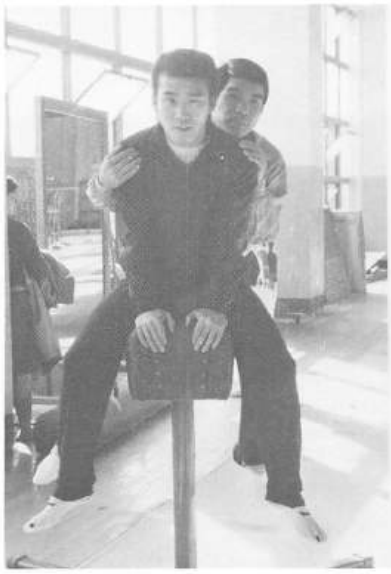
その原因について考えてみると，まず画一的練習に問題があるように思えます。毎日同じことの繰り返しでは選手の動機づけが不足しているように思うのです。跳馬の練習で1時間以上跳んでも何の効果もありません。そこには体力の消耗とけがだけが残ります。根性という言葉を良く聞きますが，その前に動機づけがあって初めてこの言葉が生きてくると思います。

体育を楽しくやることは大変重要なことです。このことが今一番不足し体育嫌いを作っているように思うのです。毎時間基礎練習ばかりでは選手も飽きてきます。基礎は一番大事ですが，楽しくやることも大切です。その楽しさとは何か。それは試合をやらせる，試合に出させることだと思います。どんなに下手でも，試合をやる，試合に出ることによって楽しさが生まれます。また，思わぬところでファインプレーも出ます。そこで動機づけが自然になされて，自分はもっと基礎を学ばなければと感じるはずです。そうなればもう安心です。自然にうまくなると思います。

それにもう一つ必要なことは「発想の転換」だと思います。今まで行ってきたことをまるっきり変えることも必要ではないでしょうか。例えば，鉄棒の練習方法で，日本はけ上がり－車輪－宙返りなど順番がはっきり決っていますが，ヨーロッパではけ上がりもできないのに宙返りをやらせたり，ひとりで車輪も回らないのに2回宙返りをやらせます。これは，体育館の設備や補助器具等が日本とは違うということもありますが，子ども達に体操は面白く楽しいものだと思わせることを第一に考えているからです。

これまでの既成の理論にとらわれず，思い切った「発想の転換」を行うことによって新しいアイデァが生まれ，楽しい体育・スポーツが実現されるのではないでしょうか。

今，日本の体育界は生涯体育についての論争がさかんです。国民の多くの人達がスポーツを好きになり，健康のために運動することがいかに大切であるかを教えるのがわれわれ体育人，スポーツ界にいる者の勤めだと思います。



▲　籾山（前）と今村

10　期

昭和44年卒

▲　福島合宿（入学前）

—40年3月—

▼　コンパ（40年　1年生のとき）

◀　コンパ

（41年　2年生のとき）

津　村　二　郎

東京オリンピックの興奮がまだ醒めやらぬ昭和40年4月，新設なった体育館に全国から33名（男子28名，女子5名）が集まった。

入学当時のフレッシュ・ジムナストの心境を回想すると，期待と不安が交錯しての入部であったと思われる。というのは，新設の体操専用体育館で練習できる喜びと，遠藤，早田，渋谷（現木村）先生を始めとする国際的なトップレベルの選手と一緒に練習できる喜びがある半面，あまりにも恵まれた環境の中で果たして自分達の能力を十分発揮できるだろうかという不安もあったからである。その上，先輩達が築いてきた伝統を引き継ぎ，さらに発展させていかなければならないというプレッシャーも感じていた。

結果がどうだったかは自分達では評価できないが，日大体操部の歴史の中に，まがりなりにも足跡を残し得たことに大きな満足を覚える。

男子主将　堀　田　敏　明

先般のロス五輪大会における山脇，平田，小野田君の活躍は，われわれの誇りであり励みでもあります。ご苦労さまと申し上げるとともにますますのご活躍を祈念いたします。併せて，学生諸君と若い桜樹会の皆さんの活躍を期待するものであります。

ところで，第10期の皆さんお元気ですか!!

足の非常に長かった会田君。コメディーをやらせたらプロ級の腕前のアンパンこと安藤君。応援団長飯島君。コーヒーが好きで自由主義者の井上君。体操部きっての美男子宇津君。走るときの外股がたまらない門脇君。オデコがたまらなくかわいらしかった「デコ」こと浦辺（斉藤）さん。センスバツグンのスタイリスト近藤君。吊輪の王者，カメラマンのスーさんこと鈴木君。名マネージャー高波のオジイ。鞍馬の神様津村君。社長がピッタシ，ギョロ目の千野君。目が細く笑うとかわいい土佐犬中村君。何をやらせても器用な箱根君。岡山の星，スペインの英雄人見君。エクボのかわいい大阪美人松岡さん。なんでも博士，江戸ッ子の村松君。クレオパトラの鼻に匹敵する高い鼻の持ち主吉田（松本）さん。スタイルバツグン江戸美人の関口（水口）さん。われらがボス，頼りになる桃井君。運動生理学者の森君。トランポリンが得意で3階の窓枠にぶら下がって青くなっていた渡部君。学業オール優，天才青年，酒好きだった今井君。与論島の黒ヒゲオヤジ阿野君。オバQこと長竿君。秋田の秀才菊地君。下宿の赤電球が印象的，北海道出身デン助こと大宮君。若狭湾から来た村宮くん。岡山のヘラクレス表君。10期のアイドルだった平田さん。谷隼人に似ていた野田君。大学紛争で学科代表を勤めた石津君。経済学部で，材木店経営の熊本県出身広川君。

トシも元気でやっています。

卒業式はできなかったけど，思い出いっぱいの学生生活を送ることが出来ました。

▶ 主将　堀田敏明の平行棒の演技（43. 6　東日本インカレ）

▲　朝のお勤め，ザリアツカ風景
中央で腰を下ろしている人物が起床係の高波総務。すぐうしろアンパン。
ごくろうさまでした　（44年　芦花公園）

▲　愛犬コロとシロ。
銀世界の八幡山グラウンドで……（43．2）

▲　合宿所完成!!
合宿所開きが待ちきれず，台所に入り込んでのすき焼きパーティー。いか徳利で乾杯(41．1)

総務　高　波　司　雄

合宿所生活において私の役割と言えば，早朝，6時30分に全部員を起こし，ザリを実施させることでした。

この当時（昭和41年～43年），合宿所生活者は約30名位おりました。これらの全部員がなかなか起きてくれなかったのでいろいろと苦心したのです。これと言って名案があったわけではありませんでしたので，ともかく部員が起きてくれることを祈るほかありませんでした。こちらより部員の方が一枚も二枚も上なのですからなかなか思うようにはいきません。少しは起こす身になって考えてくれればと，ときにはグチも出るというものです。

例えば，起きたくない者は，「今日は雨が降っているだろう」などとぐずぐずします。起こすといきなり文句を言う者もいました。それぞれ個性が強くて，特に同期のアンパン（安藤）には度々文句を言われたように記憶しています。先輩の中にもかなりしぶとい人がおりました。

ある朝，余りにも起きてくれないので，朝のラジオ体操をボリュームいっぱいに上げて流したところ，ある先輩からえらく叱られてしまいました。そんなことがあってから，今度は，フトンを片端から捲ることにしました。でも，これもあまり効果はありませんでした。どれをとっても決定的手段とはならず，結局，大声で起こして回るしかありませんでした。この方法で一年が過ぎ，やがて二年，三年と過ぎていったのです。

この当時，合宿所で暮らしていた皆さん，私にご協力下さいまして誠にありがとうございました。心から感謝しております。

何はともあれいろんな思い出があって，楽しい合宿所生活でした……。

女子主将　松　本　恭　子
（旧姓　吉田）

高校時代に，皆すでにインターハイや国体に出場し，どこかで逢った顔が集まって同じ大学の体操部で同じ道を歩き始めた仲間。五人の可愛い女の子（？）から，たくましい（？）女子体操部員へと変身していきました。

その仲間を紹介します。

浦辺　由子（現　斉藤）　愛称　デコ
神奈川県横須賀第一高校出身，跳馬が強かった。

関口　始女（現　水口）　愛称　モッチ
東京都藤村学園出身，平行棒が強かった。

松岡　多賀子　愛称　マッテン
大阪四天王寺高校出身，オールラウンドプレーヤーだった。

吉田　恭子（現　松本）　愛称　キョッペ
東京都二階堂高校出身，平均台が得意。

平田　和子　愛称　ヒラッ
東京都出身，10期生のマドンナ，男子に強かった。

五人それぞれに個性があって，ぶつかりあったり，励まし合ったり，たくさんの想い出がありました。現在は，五人とも体操の指導，社会体育の指導者としてがんばっています。やはり一生，体操とのおつき合いが続くようです。

◀　全日本選手権の折　京都にて
（平田さんが抜けている）— 40年11月 —

安　藤　泰　行

合宿所の食堂を思い出すとなつかしい……。女房も子供も不思議がる。「お父さんは，どうして朝はいつも食パンと野菜いためばかりなの？」

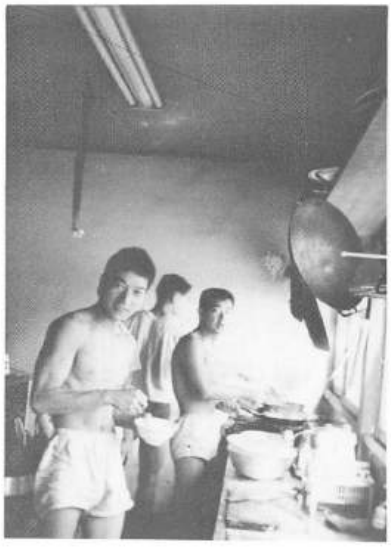
合宿所を出て17年もたつのに，食生活の習慣はなかなか抜けないものである。

あの頃の朝食は，一年生が食パンをトースターにほうり込んで次から次と焼きあげ，マーガリンをつけて皿の上に積み重ねていく。上級生はなぜか，上の方からしか手をつけない。下の方のパンを食べるのはいつも一年生だった……。

腹がへったとき（もちろん正規の食事時以外）は，自分で写真のようにして料理した。

しかし，この姿はなんたることか。この二人，現在は高校教師と大学助教授である……。

▼　料理する津村（左）と安藤



11　期
昭和45年卒

“下高井戸に集合”

原　　弘　吉（11期）

◎印はご本人より寄せられたお便りの一部ですが，無印の方々は，大変失礼とは思いましたが幹事の原が，昔を思い出しながら代弁させていただきました。

当時約50名いたあの仲間は，今何処にいるのでしょう。我々も卒業して15年が過ぎ去り，昔を懐かしむ年代になってしまいましたが，頭が薄くなる前に，色気が少しでも残っている内に，もう一度下高井戸に集まりましょう。

桜樹会の名簿に載っていない人をご存じの方は原までご連絡下さい。

◎阿部　稔：社会人対象の健康管理会社を始めました。皆様のご協力をお願いします。

伊谷正一：空手，書道，株，マージャン……多趣味のマネージャーでした。「目が見えない」と仲間を驚かせた事もありました。

今西悦子（旧姓神崎）：体操部のミスおでこ。いまは『先生』，『奥さん』，『お母さん』の三役で目が回りそう。

印宮　亨：気の短い男でした。“八幡山事件”が思い出されます。

◎宇野正信：山形県体育協会強化専門委員，体操協会強化部長。67年ベニバナ国体の選手養成のため親子体操教室の開催など毎日多忙ですが，長女（中１），長男（小４）の活躍を期待しながら頑張っております。

▲　一年の臨海学校（岩井海岸）

宇野貞子（旧姓柴田）：夫について行くだけです。

梅本文子（旧姓仁木）：“ニッキ”，心の広いキャプテンでした。また，桜樹会のマークをデザインするなど隠れた才能の持ち主でもありました。

◎大塚文雄：卒業後，千葉県の私立高校に勤務。体操部の顧問と県体操協会の事務局を担当し体操から縁の切れない現在です。

大原健司：世界を股にかけ，帰国する度に容貌が変わる桜樹の“多羅尾伴内”。今は口髭がよく似合う……。それにしても“山下半ひねり”が悔やまれてならない。

大野登利光：笑い声と鎧のようなコルセットが印象的。とにかくマージャンの好きな男でした。

岡本祥子（旧姓桑島）：ゼンマイ仕掛けのお人形。あの“サッチャン”も今は二児の母。

櫛谷宗敬：一年の水泳実習（桜丘高校プール）では皆で入れ歯を捜しました。今でも大切にしておりますか……？。

◎工藤昌二：スポーツ指導会社に勤務していながら体操とは縁遠い毎日です。“体操部の歌”の詩を真に理解できるようになったこのごろです。

◎工藤　吏（旧姓関口全代）：「学生時代は体操をやっていました」と口にする度にあの頃を懐かしく思い出しながら，三児の母として頑張っております。

里中昌子（旧姓山田）：ドングリ眼のお姉さん。「あの流暢な静岡弁が聞きたいずら」。

高橋正典：誰がつけたか“鉄火面”。今も独身貴族です。

田和　修：酒は飲め飲め……。また黒田節を聞かせて下さい。

千野先子（旧姓徳永）：千野先輩（10期）の奥さんです。「たまには外に出して下さい」と叫んでおります。

◎網島路正：学生時代，体操の夢と情熱を体で覚えていた青春時代が懐かしい。体操が目で見るスポーツに変わってしまった現在です。

◎原　弘吉：趣味“スポーツ”そんな毎日です。

平山　隆：目は細いが探究心は旺盛でした。今はフルマラソンに出場することが楽しみとのこと……それにしても今何処に。

▲　一年生（原尾）へ説教する三木君
43年10月25日　鈴木（10期）撮影

▲　合宿所のメンバー

廣川　潔（旧姓川口）：故郷の秋田に戻り一生秋田弁は直りません。

◎舟山忠広：寒冷地北海道の北見で，稼業の傍らジュニア体操クラブの指導を行っています。私は東京在住十余年，その後アメリカへ渡り二年四ケ月，57年２月再び北見に戻りました。この北見から全日本ジュニアに出場させる夢を抱いております。

松尾道子（旧姓松重）：長い腕をぶらさげて，手を振り振り走る姿が懐かしい。

松田　明：躍動的演技に歯切れの良い福島弁が良く調和しておりました。

三木和一郎：特技はゲタを履いて泥酔状態でのスワン宙１回ひねり。低迷している日本の体操界に是非カムバックしてほしい一人です。

◎宮本美恵子（旧姓岡田）：元気な男の子２人(小４，小５）がサッカー，野球，水泳，陸上とスポーツ大好きで，跳箱の王様と言われ，鉄棒で手にマメをつくっては喜んでいます。一度，あのタンマで白くなった体育館に連れて行きたいと思います。

◎山田隆士：“スポーツ刈り”と“ジャージ”姿の学生時代が懐かしく思い出される今日この頃です。お腹が少し出て来て運動不足になりがちですが，大好きなゴルフで解消しています。

◎山田寿美（旧姓中村）：智子（中２），貴子（小６），隆之（小４）と三人の子供もずい分大きくなりましたが，おかげで私はすっかり“おばさん”になってしまいました。でも，気分だけは学生時代のように若々しく……と思っています。

◎山本好隆：体操界から足を洗って11年，畑違いの宝石業界（輸入卸業）に入って２～３年は苦しい思いもしましたが，まがりなりにも元気でやっております。最近では，ことある度に体力の衰えを感じ，昔あれほど激しいスポーツを毎日やっていた自分とは到底思えません。年ですね。わが同輩もそうですか？　チャンスがあったら是非お会いしたいですね。〔現在ウエスト84センチ〕

◎渡辺美智子：年々若返りに努力を惜しまない日々。子供とのけんかもそのひとつ。時折，心は時を超えて懐かしい時代に……。

◎椎野芳挙：用事で体協へ行った時，遠藤先生がソファーに座っていました。いやー懐かしかった。

相沢　潔：“流浪の雀士”，ギター片手に下宿を渡り歩いておりましたが……それにしても手先の器用な男でした。

藤田純一：“歩く十字懸垂”。ほんとうに強かった。

▲　44年　山口での全日本
左上はアメリカのスティーブ

▲

入学時のバス旅行　▶

12　期
昭和46年卒

17年目の和解

文責不明

学園紛争まっただ中，練習場所を追われた我々はジプシー生活が続いていました。

二年終了時，秋田での合宿（11～13期）
前列左端で優しい笑みを浮かべている方が“K先輩”です

そんな中での秋田の合宿は特に印象深いものでした……。

寒々とした寝床，ギーギーときしむベッド……それにあの“愛”とは名ばかりの“憎しみ”のこもった“怒り”の鉄拳，それに輪をかけた門脇監督の怒り……。

それは合宿も後半になった夜の出来事でした。例によって先輩の説教が始まり，時間がたつにつれてスネの皮が床の継目に食い込み，ひたすら早く止めてくれることのみ期待していたところへ，“K先輩”の鉄拳が火を吹きました。イヤー痛いの何の（あの先輩は17年過ぎた今でも手の腫れが引いておりません）。

その夜先輩達は，窓から抜け出して近くの飲み屋へ出掛けたようです。案の定，翌朝は起きてきませんでした。我々は先輩を起こしては悪いと思いそのままザリへ出掛けました。

当然のように我々のうっぷんを晴らしてくれたのが門脇監督の怒りでした。我々の思いやりは間違っていたのでしょうか……？

そんな事件があったからでしょうか，何故か桜樹会の会合からも足が遠のき，ポッカリと12期に穴があいてしまいました。

『オーイみんな，桜樹会の会合に行って謝ろうじゃないか。きっと，“K先輩”も許してくれるよ』。

▲　合宿所と寮の新人歓迎会（10～13期）
（43．4．21　　サマーランド）

“写真のひとりごと”

『オイあの前列中央にいる人は何処の組の人だ』『バカあの人は合宿所の“ぢ主さん”だよ』『へー』『アンパンてどの人』『二列目の右端の先輩だよ』『へエー優しそうだけどナー』『所で，アンパン殺してやるって騒いでいた先輩はどの人……』『バカあの人は今，立派な女子高の先生だゾー』『そういえば飲むと面白い新入部員がいたっけ』『今も変わってないそうだよ』『それにしてもこの年のキャプテンは大変だったろうね』『見ろよ，可哀想に後で小さくなっているじゃないか……』。

13　期

昭和47年卒

13期の仲間

文責不明

部員には，真剣に体操に打ち込む人，他のことと平行して体操をする人，体操を目指して入学したがいつの間にか体操以外のことが忙しくなってしまった人の三通りの人が居るように思う。この13期の仲間は，男女を問わず純粋に体操に打ち込んでいた人が多かったように思える。

現在，故郷に帰って指導している秋田の中村，山口の中谷，熊本の徳永，大分の山口，千葉の庄司，神奈川の石井。他にも塚田，斉藤など指導に頑張っている者が多い。

この年代では，主将の椎名を始めとして優秀なメンバーがレギュラーの座を目指してひしめき合っていた。46年のインカレでは日体大を規定でリードしながら自由では惜しくも敗れたが，その差0.4という接近した勝負をした。自由が終わったとき，中谷，徳永は泣き出し，椎名，増山も目を真っ赤にしていた。一瞬「優勝した」というムードが漂ったのである。それほど「いい試合をした」という満足感があったのだと思う。

このインカレで椎名が，早田先生以来ふたり目の個人総合優勝を果たし，それが引き金になって翌年の五十嵐，そして翌々年からの梶山の三連勝へと続くのである。

また，女子では男子より厳しい日課の中，小宮を中心として良くまとまっていた。卒業後は小宮は引退したが，長岡がアジア大会出場を果たし，テヘランでその優美さを披露した。

忘れてならないのがマネージャーの菅野の存在であろう。彼はアキレス腱を二度切断して選手生活を断念せざるを得なかったが，マネージャーとしてその手腕を発揮し，部員を良く統率しまとめ役を果たした。

ほとんどが体育学科であったのに二人だけ商学部に通う人物がいた。辻誌朗と過足重六である。商学部から文理の体育館に通うのはなかなか大変だったに違いない。辻の重量体操に対して過足のフィーリング体操と，全く対象的な二人だった。

石井悦夫という人物も忘れられない。通称「エッチャン」である。おとなしくて要所をきちんと知っている人物。それが酔うほどに考えられないような愉快な人物に変身する。

塚田和茂もいた。彼は酔わなくても皆を笑わす才能があったが，酔うと五倍は面白くなった。彼は同期の寺西とはアツアツのカップルであったが49年に結婚し現在仲の良い夫婦である。

一人ひとりみていくと，かなり個性豊かな人物の集まりであったことは間違いないようである。

◀ 銚子合宿
（46年）

▲　ザリアツカの朝

▲　スティーブ・ハッグと椎名，中谷

全　員　集　合

▲　全日本選手権　（44年　山口）

▲　リュブリアナ世界選手権選考会
（45年　東京体育館）

▲　ミュンヘンオリンピック二次予選会
（47年　伊勢）

▲　東日本選手権（44年　仙台）

懐かしき学生時代

西　原　由美子（13期）
（旧姓　小宮）

私の学生時代といえば，体操，体操で明け暮れた日々でした。素晴らしい先生，先輩，友人，そして後輩に恵まれほんとうに幸福だったと，今更ながら，私を支えて下さった方々に感謝の気持ちで一杯です。

学生として授業にも真面目に出て？，睡魔に苦しめられ居眠りも随分しました。休講のとき，合宿所で仮眠して目が覚めると，次の授業が始まっている時間。急いで学校に駆け込んで，終了五分前なのにすまして授業を受け，後で皆に笑われたことなどいろんなことがありましたが，私の学生生活は思い残すことが無いほど充実した生活だったと思います。総合大学，日大に進んでほんとうに良かったと思っています。

女子高校から日大に進んだ私。入学して間もなく教官室に呼ばれ，「貴方が四年間しっかり体操をするためには，恋人をつくっちゃだめよ」とアドバイスして下さった先生。私の性格を最初から見抜いて下さってのお言葉。先生のお言葉を守り好きな体操に励みました。恋人ができず，ちょっぴり淋しい思いもしましたが，そのかわり沢山の方と気軽にお話しすることが出来てかえって良かったと思っています。

素質のない私が皆についていくためには，一に練習，二に練習，ただそれだけしかなく，練習することが自分の励みであり自分への慰めでもありました。試合の成績より自分で「頑張った！」と思えるその感動が好きで，けがをしても頑張れたと思います。痛む腰をさすりながら，早朝の誰もいない体育館に行き，窓を開け，遠くの空に富士山の山頂が見えると，「今日は調子がいいぞ」と思い，跳馬の助走をドタドタと走る私でした。曇りの日には山頂はもちろん見えません。痛めた腰や膝はズキンズキンと痛むのでした。

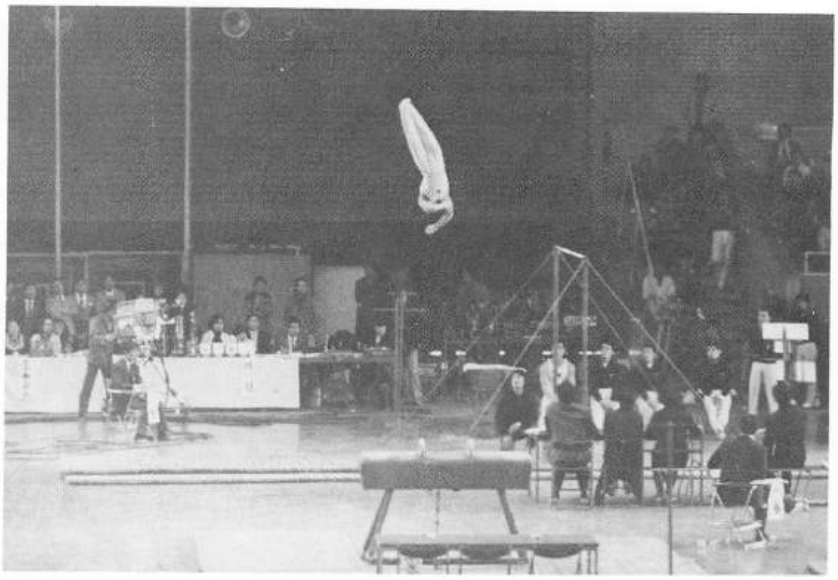
跳馬の苦手な私は，くる日もくる日もドタドタ走りしか出来ず，いつになったら皆のようにタッタッと走れて，バーンと跳ぶことが出来るのだろうと，上手に跳ぶ姿を思い浮かべながら練習に励んだものでした。そんなとき，教官室からそっと見守って下さる先生の優しい視線を感じて，とても嬉しかったことを覚えています。朝練習に来られる男子先輩が，ポツンと口数少なく注意して下さるのも，すごく嬉しく，励まされました。

インカレを前に，真夏のしんどかった強化練習。強化練習が終わり，手洗場に水をため体を冷やして，皆が帰った後，ちょっとだけ練習した時の気持ちよさ。全日本の強化練習の後，ひとり残って練習し，平均台からまっさかさまに落下し，肩の骨を折って試合に出られなくなり泣いたことなど懐かしい思い出がいっぱいです。

大学の体操で身につけたいろんなことが，主婦となり，母親となった今，大いに役立っていると思っています。こう思える私はほんとうに幸せなんだなあと改めて思います。これからＯＢ・ＯＧとなられる体操部の皆さん，大いに体操を楽しみ苦しみ，そしていろんなことを身につけて下さい。

私達には，大学紛争のため立派な卒業式はありませんでしたが，「誰にも負けないほど頑張った」という思いで校門をでることが出来たことは最高の幸福です。他人との競争より自分との競争，自分に勝つ喜びを知ることが大切だと思います。弱い私は，いつも自分に負けてばかりでしたが，これからの人生，学生時代のあの気概を持って生きていこうと思っています。

14　期
昭和48年卒



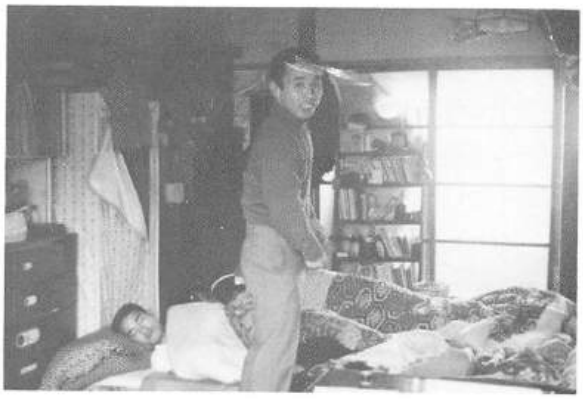
▲　五十嵐久人　世界で初めて３回ひねり降り発表。
会場の全員が目を見張った
（47年　ＴＢＳにて）

▲

47年　銚子合宿にて　▶

46年　山梨全日本にて　▶

▲　合宿所にて　▼　▶



体操部の四年間
そして思い出

五十嵐　久　人（14期）

われわれが入学した頃は大学紛争の真っただ中だった。入学式もやらないのにいつの間にか授業が始まっていた。しかも授業が始まったのは６月に入ってからであり，その上われわれ一年生だけが京王線沿いの武蔵野台という所にあるプレハブの校舎に通うはめになったのである。今はどうなっているかわからないが，当時の武蔵野台は一面の畑だった。行き帰りの電車の中でぐっすり眠ったことを懐かしく思いだす。この頃の生活の様子が今でも一番強く印象に残っているのは，親許を離れて新しい生活を始めて間もない頃のことだから当然と言えば当然だが，やはり紛争という特別の出来事があったからだろう。

われわれの学年は男子部員16名，女子部員４名，例年になく少数であった。これはもちろん大学紛争の影響であり，お陰で先着順に合宿所や寮に入ることが出来た。私などは３月上旬にはすでに上京していたので真先に合宿所に入ることになった。

われわれの学年は私を含めて殆どの者が，高校時代に全国大会などでそれほど活躍できずに終わった連中で，集まるとよく「俺達のような寄せ集めのチームで，一体どうやってインカレの上位入賞を狙うんだ。上位入賞どころか一部だって危ないよ」などと心配したものだった。ところが実際自分達が四年生になってみると団体で２位に入賞し伝統を守ることが出来たのだから，なかなか捨てたものではなかったようである。また，人数が少なかった分だけ中味の濃い付き合いが出来たし，それは今でも続いている。ただ現在ではそれぞれが良きパパやママになっていて思うように一同に会する機会が持てないのが残念である。

１，２年生の頃，文理学部の体育館で練習したくても大学がロックアウトされていて学内に入ることが出来ず，鶴ケ丘高校や豊山高校，あるいは研修館の体育館と，一日何ケ所か転々として練習したことがある。今にしてみると懐かしいが，当時のマネージャーは大変だったに違いない。何しろ朝起きてすぐあちこちに電話で交渉して場所を確保するのである。

学生時代の練習で思い出されるのに合宿がある。恒例の春先の合宿である。２年のときは淡路島で，３，４年が銚子，そして卒業時になって三島と都合四回経験した。もっとも２年のときは選抜されての合宿だったから，われわれの年代には二回しか経験のない者もいる。

個人的な話になるが，私にとってこの春先の合宿はとても大きな意味を持っていて，その年の身体の出来上りをみるのに絶好の機会であった。とにかくへバることなく，与えられたノルマを最後までこなすことが出来るかどうかが問題だった。それが達成できるということは冬に行った練習が効果的であったということで，シーズンに入っても大丈夫だと思うことができた。

苦い思い出もある。福井でインカレが開かれたとき，私は最後の鉄棒で落下し病院に担ぎ込まれるということがあった。その夜，稲橋会長や早田先生，それにその時のマネージャーの外山も福井に留まり，サウナで一夜を明かしたというのである。翌日同じ電車で帰京したが，有難い気持ちで一杯であった。

桜樹会が発足してから25年。人間だったら青年期で，「さあ，これから」と言うときでしょうか。今後も，桜樹会が部員達をしっかり包容出来る組織にますます成長していくことを願っております。

15　期

昭和49年卒

▲　体育館で　▶

▲　銚子合宿の朝　▶

15期の思い出

谷田部　光　則（15期）

同期のメンバーの中で代表的な人物をあげるとすれば，矢部信恵（現山崎）でしょう。武生高校時代から羽生，牟田と並んで三羽烏とうたわれていましたから，大学に入ってもすぐレギュラーとなり，以後インカレはもちろんのこと国際大会でも大いに活躍しました。

その他にも，習志野高校の並木松子（現中島）や酒田中央高校の遠田幸子（現中村），今成洋子（現桜井）というように，女子はインターハイで入賞した選手が沢山おりましたが，男子はインターハイで上位に入った者はどうもいなかったように思います。しかし，特徴をあげるとすれば，日大体操部の第二世代が多く入学した年代であると思います。つまり，日大体操部を卒業し，高校の指導者となった先生の指導を受けた者が，また日大に進学してきたのです。たとえば，土浦日大の林富久寿，市毛美喜男，大木米男，関辰男，日大三島の土屋史朗（現後藤），佐伯鶴城の椎原英世，それに日大豊山の私というように実に多くの者が入学しました。

確かに，男子はずば抜けた強い選手はいませんでしたが，みんなのまとまりが良く，部全体としてひとつになることが出来たと思います。その結果は，四年生の時に，初のインカレ優勝を達成出来たことに現われていると思います。

その二年前に，同じ駒沢体育館で初優勝かと思われる騒ぎがありました。その時は計算のミスで，結局は日体大に0.4差で負けてしまったのですが，その時から，何とか我々の代に勝ちたいと思ったものでした。しかし，私達の力だけではとうてい勝てません。幸いにも当時の後輩は非常に実力があり，結果的に私達が四年生の時，念願の初優勝を果たすことが出来たわけですが，ひとりの力は弱くても，みんながひとつになって努力すれば必ず良い結果が得られるものだということを学びました。

15期の男子は，桧舞台で華やかに活躍した選手こそいませんでしたが，先輩が築いてきた伝統を守り，それを後輩に伝えるという役割は，立派に果たせたと思っています。

……

インカレ初優勝を伝える49年2月発刊の「桜樹会報」の記事。

昭和31年春，旧体育館の片隅で産声を上げたわが日大体操部は，苦節17年，ついに学生体操界の頂上に登りつめた。

7月21日，会場の駒沢体育館は男子団体総合の大詰めを迎えていた。

日大，日体大の選手が演技を終えるたび，応援席は沸きに沸いた。そして日大の最終演技者が着地した時，勝利は確定した。ついに日体大を破って学生体操界の王座についたのである。

整列した選手に，応援席からテープがとび紙吹雪が舞った。ちょうど一昨年の，所も同じこの駒沢体育館の光景が思い出される。

あれはまぼろしだった。計算違いにも気付かず狂喜乱舞した日大の応援席は，それほど優勝を待ち望んでいたともいえる。

あれから福井のインカレを経て，今回紛れもなく優勝を成し遂げたのである。選手の精進はもとより，関係諸先生方，先輩各位，それに100名を超す部員全員が一丸となって努力した賜物であろう。

16　期

昭和50年卒

日大体操部が初めてインターカレッジで優勝した時，その原動力となった学年です。寺元主将を始めとして，錦井，西巻，川野，野原そしてコーチの藤沢，マネージャーの鈴木と，その他の同期生を含めて「現代っ子集団」とでも呼びたい，チームワークのとれた学年でした。先輩や後輩からの評価もなかなかのものでした。

錦井と寺元は卒業後，河合楽器のメンバーとして全日本優勝の力となりました。林田房美（現錦井夫人）は東京相互銀行で活躍し，モントリオールオリンピック出場を果たしました。

現役を引退した後，彼等は故郷に帰って後輩の指導に当っていますが，その他にも秋田の椎名，藤沢，スポーツクラブに勤める西巻，矢野など，体操から離れられない者も多いようです。

▲　西巻　洋一　（47年　ＴＢＳ杯）

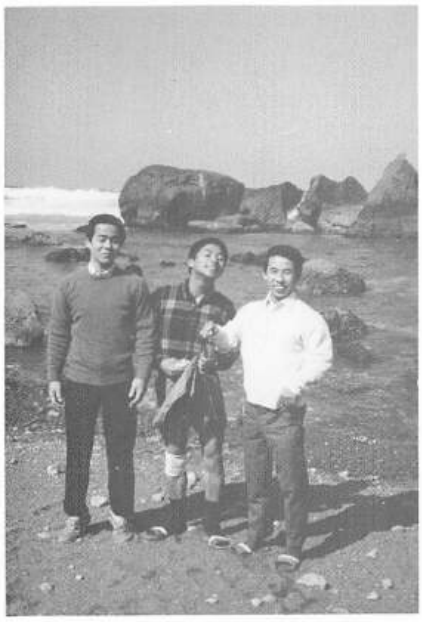
線の美しさと技の優美さは彼独特のものであった。小さな身体でよく頑張ったと思う

早朝野球大会　（51.2）　▶

寺元はよくエラーしてくれた。

錦井はフライがとれなかった

▲　50年３月の三島合宿



▲　銚子合宿（47.3）　▶

17　期
昭和51年卒

男子三連勝の時代

梶　山　広　司（17期）

私たち17期は，昭和47年入学，51年卒業で，在学期間中に全日本インカレ男子三連勝を経験しました。この度，桜樹会25周年記念誌の発刊という機会に，記憶をたどり，資料をさぐって，この間のことを書きとめておこうと考えます。

昭和47年はミュンヘンオリンピックの年でした。春に行われた最終選考会では，五十嵐先輩が健闘しましたが代表の座は惜しくも手にすることは出来ませんでした。この年の全日本インカレは福井で行われ，チームメンバーは，五十嵐，中島，田中，木下（14期），西巻（16期）の各先輩と私。東日本インカレは0.05の僅差で破れているので，今度こその意気込みでのぞんだのですが，またも藤本，堀出選手を中心とする日体大に敗れ２位に終わりました。しかし，個人総合では，前年の椎名先輩に続き五十嵐先輩が優勝しました。この試合では，種目別鉄棒で五十嵐先輩が，当時世界的にも見られなかったウルトラＣの３回ひねりおりで失敗，手首を骨折するというアクシデントがありました。忘れられない出来事として記憶に残っています。

昭和48年は，東ドイツチームが来日して日独対抗が行われ，モスクワではユニバーシアードが開催されました。全日本インカレの開催地は東京。チームメンバーは，寺元，錦井，西巻，川野，野原（16期）の各先輩と私。この大会で，２位日体大に4.25の差をつけて，創部18年目にして初の団体優勝を成し遂げ，個人総合でも１位から３位までを独占（１位　梶山，２位　錦井，３位　寺元）したのです。チームメンバーは３年生中心であり，すでに連勝を予期させるものがあったと思います。

この頃は，現在ほど実業団チームの環境が整っていなかったため，全日本選手権でも学生チームが優勝する機会は十分にあったような気がします。事実この年の札幌の全日本では，日体大が優勝しました。インカレで勝ちながら全日本では２位に甘んじてしまったのです。今思い起こすと，日大の全日本での優勝は，この時が最大のチャンスではなかったかと悔やまれてなりません。

昭和49年，バルナで世界選手権が行われ，日本チームがオリンピック・世界選手権を含めて団体八連勝を記録しました。この頃のＴＢＳ杯は現在のような国際招待競技会ではなく，日体大と日大の対抗戦として，シーズン幕開けの４月に行われていました。その試合方法は，両校12名の代表を出し，そのベスト６合計で順位を決定するという変則的なものでした。第１回は昭和45年で，それ以来四連敗していた日大はこの年初めて日体大に勝ちました。

続いて６月に行われた東日本インカレでは，思わぬところでミスが出て苦戦はしたものの，最後のつり輪で逆転，東日本インカレになってからは初めての優勝を飾りました。（以前は関東インカレ，35年に優勝）

この年の全日本インカレの前に，世界選手権の合宿にも使用された生駒山サンヨーグラウンド体育館で合宿が行われました。約一週間位の合宿だったと思いますが，毎晩のように，遠藤，早田両先生からお呼びがかかり，合宿が終わる頃にはオ

ールドの木箱が片付いていたような記憶があります。設備がすばらしく，山の上という環境の良さもあって，体操だけでなくそちらの方の練習にも最適であったようです。

この試合の結果は別表の通り，前年を上回る8.75差で二連勝。個人では，1，2，4，6位に，種目別では全種目の1位を独占しました。結局，男子では団体，個人，種目別の1位をすべて日大勢で占めたことになります。また，種目別のゆかとつり輪では1位から3位を独占したのをはじめ，各種目3位までの入賞の延べ人数18名中12名が日大の選手であるという，まさに黄金時代であったと思います。このように学生の中にあってはダントツの強さを誇りながら，11月に行われた全日本選手権では，規定でリードしながら紀陽銀行に逆転負けして，またも全日本制覇はなりませんでした。

昭和50年，ＴＢＳ杯，東日本インカレと前年に

昭和49年　全日本インカレ男子成績

〔団体総合〕

順位	大学名	規　定	自　由	総　合
1位	日　大	277. 50	280. 30	557. 80
2位	日体大	273. 55	275. 50	549. 05
3位	中京大	271. 10	273. 25	544. 35

〔個人総合〕

順位	氏　名	規　定	自　由	総　合
1位	梶山　広司	56. 55	57. 55	114. 10
2位	錦井　利臣	55. 85	56. 60	112. 45
3位	※　白石	55. 90	55. 65	111. 55
4位	寺元　良人	55. 40	55. 65	111. 05
5位	※　大熊	54. 95	55. 45	110. 40
6位	前山真一郎	54. 90	55. 25	110. 15

※ 日体大

〔種目別〕

順位	ゆ　か	あん馬	つり輪	跳　馬	平行棒	鉄　棒
1位	錦　井	梶　山	梶　山	梶　山	梶　山	梶　山
2位	千　田	＊白石	錦　井	錦　井	＊白石	＊久米
3位	梶　山	＊大熊	寺　元	＊徐	寺　元	＊白石

＊ 他大学

▲　インカレ（50．8　駒沢）

続いて優勝。全日本インカレの開催地は東京。チームメンバーは，前山，鈴木，梶山（17期），千田，松田（18期），松本（19期）でした。この大会では，モントリオールオリンピックの規定が初めて採用となること，前年までのメンバーがごっそり抜けてしまうことなど不安材料は有りましたが，蓋を開けてみると，規定で2.70，自由で6.60，計9.30という連勝中最も大きい差で日体大を敗ったのです。私たち17期の者は，最終学年で優勝できたことでホッとした記憶が残っています。三連勝の間，部員数が多かったこともあり，私たち17期からチームメンバーに入った者は限られていました。しかし，1年生の時から，体育館の掃除や器具当番などの仕事で一緒に苦労し，練習，試合と，それぞれの役目を果した仲間と喜びをわかちあうことができて幸いでした。

この後，52年には金居，松本，あるいは境，藪野などを主力として，54年には山脇，平田，あるいは松永，奥，中村などを中心にしていずれも優勝しました。しかし，その後はしばらく優勝から遠ざかっています。現在部員数はそれほど多くありませんが，それぞれ確実に力をつけてきています。47年にバトンタッチされた早田監督を中心に，学生と共に頑張り，いま一度かつての栄光をとり戻すべく努力していくつもりです。

新入生歓迎会

1年生のとき ▶
（高尾山）

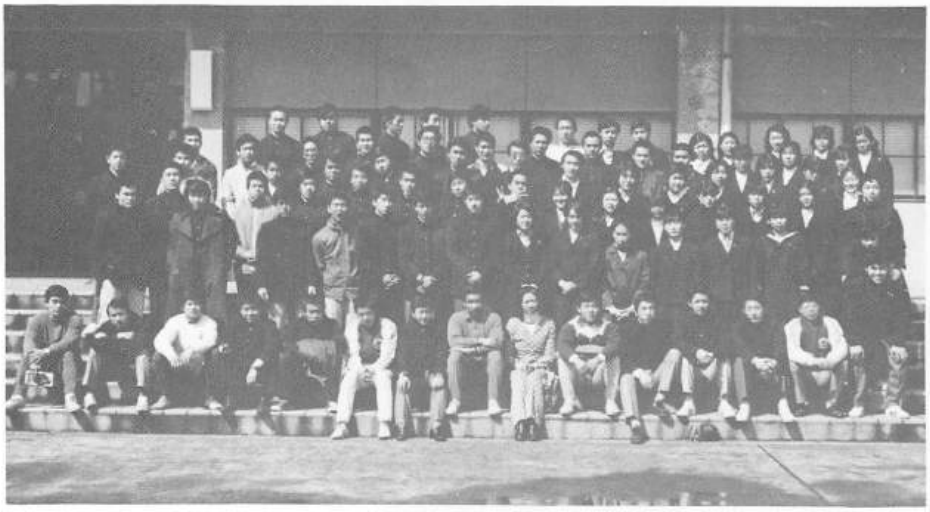
◀ 4年生のとき

▲ 1年生の三島合宿

▼ 入学前の銚子合宿・先輩たちと

18　期

昭和52年卒



▲　三島合宿（49．3）

▲　49年　インカレ試技会

51年　部内対抗　▶

▲　三島合宿　（51．3）

▲　全日本選手権　女子団体２位

（51．10　水戸）

▲　インカレ（51．8　駒沢）

◀　新入生歓迎会（51．5）

18期の思い出

佐藤之俊（18期）

私たち日本大学桜樹会第18期生が入学したのは昭和48年の，桜並木に満開の桜が咲き乱れるころでした。記憶が定かではありませんが，当時入部したのは，男子23名，女子12名の35名位であったと思います。男女それぞれの合宿所と男子の寮がありましたが，それでも入り切れなくて，下宿やアパートそして自宅と，大変にぎやかでした。

入学式に先立って行われた三島の合宿に参加した新入生は25名位だったと思います。午前，午後の練習のほかに，夜になるとグランドに出て，声出し，自己紹介，校歌・応援歌の練習などで先輩方のあたたかい指導を受けました。その成果を合宿最終日の打ち上げ会で，「自己紹介と一曲」として披露するわけです。自己紹介を少しでも間違えば即座に「やりなおーし　」というあたたかい声援がとびます。120人位の前で，たったひとりステージの上からやるのですからあがらないはずはありません。しかし，こんなことが試合度胸をつけるうえで大変役に立ったように思います。

この宿舎の出来事でもうひとつ忘れられないのは，私たちが神さまとも仏さまとも思い憧れていた遠藤先生，早田先生との面接があったことです。「何を話したかわかんないや」，「汗びっしょりかいちゃってよ」とか「俺なんか興奮してドモっちゃったよ」などと感想を語り合ったことを思い出します。

学生時代の最高の思い出は，何といってもインカレ初優勝，そして三連勝です。しかし，私たち四年の時には東日本で優勝しながらインカレでけてしまいました。その時の悔しさは今でも忘れられません。でも，結果は二位でしたが，選手も応援の者も必死に燃えたことは素晴らしい思い出として残っています。

学内で行われた「部内選手権」も印象に残っている思い出のひとつです。（写真参照）

これは，男子のみ１チーム４名のベスト３で争う選手権でした。下級レベルに合せて演技を構成しなければなりませんので，上級レベルの選手にとっては大変な試合でした。あまり難しいことをやっても良い点はもらえないのです。例えば，ゆかのタンブリングなしの演技とか，鞍馬でＡシュテクリの連続だけとか，つり輪は十字の20秒以上の静止，平行棒はツィストの連続だけ，鉄棒はシュタルダーのみで構成するなど，日頃では考えられないような演技に高得点が出ました。また，個人賞を狙ってレオタードで演技した者などもいました。賞品は，亀の子たわし，洗剤，トイレットペーパー，それにウィスキーなどもありました。とにかく，とても楽しい選手権でした。

思い出は沢山ありますが，それにはかならず酒がついていました。楽しいにつけ，苦しいにつけ酒を飲んで語り合ったものです。

東京での集団生活から卒業して早くも９年目になりました。父となり母となった者も多くなってきました。時には学生時代の思い出を懐かしがる，そんな年頃になりました。私は今，教えられていた学生時代とは違って教える立場となったわけですが，学生時代の気持ちをいつまでも失わないようにしたいと願っています。

「機会があればまた皆に会いたいな」，そんな気持ちをいつまでも忘れないようにしようと思うのです。そのよりどころとしての桜樹会が25周年を迎えたことは本当に嬉しいことです。今後ますます発展して，私たち卒業生と現役との橋渡しの役を果たしてもらいたいと思います。

19　期
昭和53年卒

戦績そして思い出

金　居　俊　郎（19期）

卒業後何年振りになるでしょうか，今年（昭和60年）春，三島での春期合宿へ応援に出掛けました。その折，新人を交えて活気のある練習を見て非常に頼もしく感じました。そして，私自身，学生時代の懐かしいいろいろな出来事を思い出しました。

私達が入学したのは昭和49年４月，この年は，インカレ初優勝の翌年であり，部員全体の意気込みも盛んで，大変活気に満ちた雰囲気があったように思います。部員数も多く，男女合せて120名位はいたと思います。19期の新入部員は24名（男子16名，女子８名）で，全員が合宿所に入るわけにはいかず，半数ほどは下宿生活をしていました。合宿所の入れ替えが年一回位行われていて，とにかく，合宿所に入るための競争が激しかったことを思い出します。

この年の日大は，名古屋でのインカレに優勝して二連勝を達成しました。私達も応援に行きましたが，当時（今でも？）ゲルピン状態の者が多く，ほとんどの者が名古屋駅を宿舎としていました。今考えると笑い話のようですが，当時は何をするにも必死でしたから，こんなことも当然と思っていたようです。

この，先輩達の活躍に負けまいと頑張ったため，私達も新人戦では優勝することが出来ました。結局，この年日大は，ＴＢＳ杯（当時は日体大との定期戦），東日本インカレ，インカレ，新人戦と，学生のタイトルをすべて制覇しました。

昭和50年，私達は二年生になったわけですが，同期の中から松本君がチームメンバーに入り，私達もそれに刺激されたかたちで頑張りました。この年も，ＴＢＳ杯，東日本インカレ，インカレと日体大に大差をつけて優勝しました。

昭和51年，三年生となり，松田，千田両先輩とともにいよいよ私達が主力となって頑張らなければならない時代になりました。しかし，ＴＢＳ杯で破れ，東日本インカレでは辛うじて勝ちましたが，インカレでまたも日体大に敗れてしまいました。この年の冬（52年１月），恐らく日大で初めてのことと思いますが，日大単独チームでのアメリカ遠征が行われました。選手として，松本君，境君，藪野君（キャプテン），慶田盛，瀬戸（20期）の両君と私が選ばれました。正月返上の厳しいトレーニングがありましたが，いい思い出となりました。

昭和52年，いよいよ最後のインカレの年になりました。春のＴＢＳ杯では日体大に負けてしまったものの，東日本でまず優勝，そして念願であったインカレにも優勝することが出来たのです。私達の年代は，高校時代特に優秀であった者は入学しませんでしたが，負けん気ややる気では皆一流でした。よくやったと思います。

話が男子のことばかりで女子には大変申しわけないと思いますが，これも，当時，女子には目もくれず？　練習に励んだためとご理解いただき，お許し願いたいと思います。

▲　49年（1年生のとき）

こんなに成長？

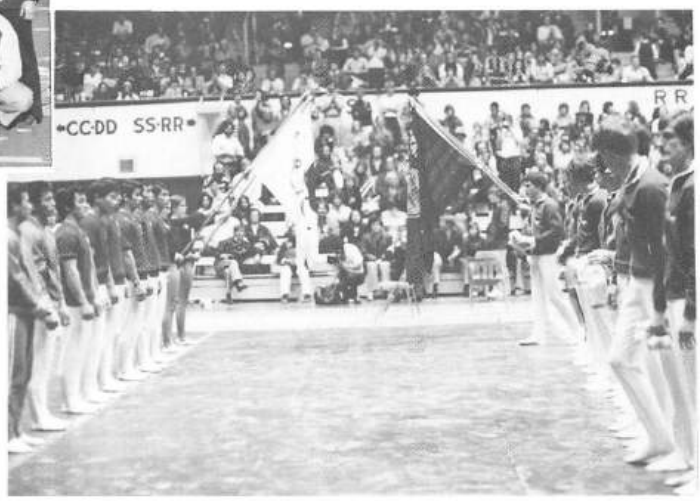
新入生歓迎会（読売ランド）

▼　52年（4年生のとき）

▲　49年11月　新人戦出発前
（学生ホール）

▲　49月８月　インカレ応援（名古屋）

▲　51年２月　成 人 式　（明治神宮）



日大単独チームによる
アメリカ遠征

（52年１月）

20　期

昭和54年卒

新入生歓迎会
50年春
（多摩動物公園）

三　島　合　宿　　▲ 51. 3　　▼ 52. 3

◀ スケート実習

思　い　出

慶田盛　　定（20期）

高校生気分の抜けないまま，昭和50年４月に入学した私達は，練習や生活の面で高校時代とあまりに違うのにすっかり驚いてしまいました。そして，毎日がとても厳しいもののように感じられました。特に気を使ったのは生活面で，新入生のひとりにでも失敗があればすぐに「集合」がかかるので，毎日が必死でした。高校時代（興南）に比べ部員の多いことにも驚きました。当時部員は，110名位だったでしょうが，体育館はいつも活気に満ちていました。

高校時代からのくせで，素足で練習していたらある時早田先生から「靴下を買う金がないのだったら出してやろうか」と言われたことがありました。これは素足だと脚の線が出しにくいので，靴下をはいて練習した方が良いということだなと解釈して，その時から靴下をはいて練習するようになりました。懐かしい思い出です。

私達の二年生の時，日大チーム単独のアメリカ遠征があり，私は瀬戸伸一と共にメンバーに選ばれ参加することができましたが，大変励みになり，良い思い出として残っています。

同期生のプロフィール

後閑文昌は誰よりも体操が好きでしたが，学生時代はケガが多く入院するようなことも何度かありました。それにもかかわらず，卒業してから現在まで国体や社会人大会などに出場して頑張っているのですから頭が下がります。

跳馬の堀出二世と呼ばれていたのが仲内尚志。彼の跳馬は本当に素晴らしく群を抜いていました。

二年生の夏頃から寮入りしたのが高橋博美，杉沼　誠，朝比奈昭夫，兎沢無二夫の４人。それから少し遅れて加藤博章がサブマネージャーとして加わりました。

高橋博美は学生コーチを引き受けいろいろと問題の多い私達を引っ張ってくれました。

加藤博章は最初マネージャーとなることで悩んでいましたが最後まで立派にやりとげました。彼は現在，神奈川県警に勤めていますが，酒を飲んだ時，玄関とトイレの区別がつくようになったかどうか心配です。

真面目で努力家の杉沼。いつもていねいに美しい線を出していた朝比奈，兎沢。

きれいな十字懸垂をしたのが井上祐二，小口盛。

もめにもめた末裏方仕事の学連を引き受けたのが山崎常夫。体重オーバーの渡辺嘉三女子コーチ。誰がつけたかコマワリ君こと松下直人。浪速の色男は岡崎高典。なにしろ人数が多いので全員を紹介することができず残念です。登場しなかった人……ごめんなさい。

女子は男子憧れの美人選手が揃っていましたがいつもケガと減量に苦しんでいたことを思い出します。

四年間を通して一番淋しかったのは最後のインカレの時です。この時，四年生では私と原田一高のふたりしか出場できず非常に残念な思いをしました。

卒業後，何人かが国体や社会人大会で選手として活躍していましたが，現在現役でやっているのは後閑文昌ただひとりだと思います。私は59年に現役を退き，現在は河合楽器のコーチをさせてもらっています。

卒業してから何度か同期生と酒を酌み交しましたが，酒の肴はきまって一年生の苦しかった頃の思い出話です。みんな，またいつか集まって一緒に飲みましょう。そして思い出を語りましょう。

とりとめのない文章で申しわけありません。

21　期
昭和55年卒

インターカレッジの優勝

山　脇　恭　二（21期）

今考えてみると，四年間の学生生活はとても早かったが，すごく充実していた四年間でもあったと思います。その中でも一番印象に残っているのは，やはり東日本学生選手権，全日本学生選手権に優勝したことです。

一年の頃はよく先輩から叱られたり，監督，コーチからも注意されることの多かった21期生です。しかし，二年生の時，四年生（19期）が中心となって全日本学生選手権大会に優勝したのをまのあたりにして私達は変わったように思います。優勝に感動し涙しながら，優勝の喜びと優勝することの厳しさを学んだと思います。

私達21期生が三年生の時，東日本でも全日本でもともに惜しくも二位で終わり，いよいよ私達の時代になりました。先輩（20期）の卒業コンパで，あたらしく主将になった私は，送別の言葉として「私達は勝ちます」と述べました。そして，それを契機として，部員一丸となってインターカレッジでの優勝を目指して練習に励みました。しかし，試合は難しさをきわめました。

東日本インカレ（秋田）では，早瀬が４種目めの跳馬で膝の靱帯を損傷し，チームは５人で戦うという苦しい展開になりました。優勝争いは最後の鉄棒に持ち込まれ，しかも最後の演技者が演技を終えるまで結果はわかりませんでした。選手は「自分の体操をやろう」と言って鉄棒に飛び付きました。最後の演技者は松永でした。彼が着地を決めた瞬間，私達は勝ったと思いました。入学当時から和を大切にしてきた彼は言うのです。「全員で目標に向かってきたから」だと。

インターカレッジ（駒沢）も苦しい試合でした。中村はアキレスを切ってまだ完治していない状態でしたが，チームにとっては彼の力がどうしても必要でした。そんな彼が，持てる力を十二分に発揮しチームに貢献してくれたことが優勝に結びついたものと思います。また，平田が規定最後のゆかで足首を骨折しながらも，優勝に賭ける情熱で最後まで頑張ったことが勝利への道を開くことになったことも事実です。

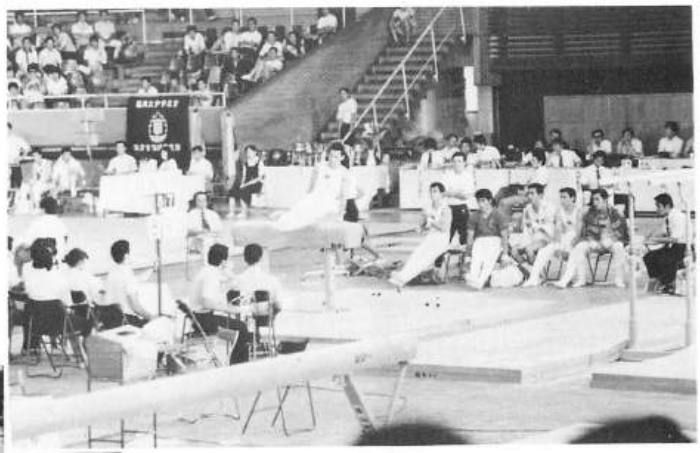
団体戦最後の演技種目，鉄棒が終わり６名の選手は泣きました。それは，この優勝に向けて積み重ねてきた苦しい練習と，苦しい試合運びにそれぞれが感動した結果だと思います。

これら二試合の優勝が私達21期生の思い出であり，人生のひとつの出発点でもあったと思います。ある女子部員が「私の脳裏には，日大の練習場での一本の張りつめた糸のような緊迫したムードが深く焼き付いている」と言っていますが，それは，それぞれが全日本学生選手権大会優勝という目標に向かって，各自の責任を果たそうとしているところから来ているのではないでしょうか。

今，21期生は全国各地に散らばり，さまざまな職業につき，いろいろなことで悩み，それぞれの人生を歩んでいますが，学生時代に培った，目標に向かって協力し合う団結力はいつまでも心の奥に生き続けていると思います。何かあればすぐ集まり，語りあえる仲間21期生です。

インターカレッジ

（54.8）



祝勝会 ▶

▲ 卒 業 式 (55. 3)

53年 全日本 ▶
(福岡)

▲ 新人歓迎会 (54. 5)

▲ 54年 ピット完成

22 期

昭和56年卒

新入生歓迎会

読売ランド

(52. 4. 30)

◀ 坊主頭は1年生の勲章だぜ

卒 業 式

▲ 文理正門前

(56. 3)

◀ 共に歩んできた

体操場にて

先生方と

(56. 3)

体操部時代の思い出

国　井　信　行（22期）

私たち22期は，例年に比べて部員数も少なく苦労もひとしおでしたが，それだけにまとまりのある学年だったと思います。希望と不安の中で戸惑いながらも助け合い，日一日と成長していった22期の仲間たち。そんな純粋だった我々の心の中に浮かび上がってくるのは，入学からの辛かった1年間です。しかし，辛かった1年間の思い出話の中に必ず登場してくる人物がいます。その人の名は蛭間比呂志。彼ほど苦しかった1年間を不安にそして楽しくさせてくれた人物はいません。そこでいまだに言い伝えられている彼に関した出来事を2つほど紹介しようと思います。

まず最初にお話したいのは「蛭間君のセミ事件」です。これは，合宿所のグランド側3階の部屋の外で，夜空の下，蛭間君が金網にしがみつきながらタバコを吸っていたところを先輩に見つかってしまった事件のことです。ある先輩が部屋に入ってきて何気なしに外を見ると赤い光がついたり消えたりしていたのでおそるおそる窓を開けてみると蛭間君がタバコを吸っていたのです。私たちはその光景を思い浮かべるだけで笑いが出てしまいます。

もう1つ，彼にはこんな笑い話があります。それは，酒を飲んでふらふらになった蛭間君とそれを見つけた先輩との会話です。

先輩「蛭間！　酒飲んでるだろう」

蛭間「いえ，飲んでません」

先輩「うそつけ！　飲んだろう」

蛭間「いえ，飲んでません」

先輩「少し飲んだろう」

蛭間「はい，少し飲みました」

先輩「どのくらい飲んだ？」

蛭間「ほんの一升くらい飲みました」

先輩「……」

この他にも数々の笑い話がありますが，こんな彼でも今では生徒に理解ある先生として教壇に立っています。

前にも述べましたが，22期は入学当時から部員数の少ない期でした。その中，家の都合により柳井君が去り，次に納谷君といったように1人また1人と合宿所から去っていきました。そしてまた，怪我で藤井君が入院，次に私がアキレス腱断裂で入院と怪我人も多く，残された合宿所生は少ない時で4人になってしまう時もありました。

そんな数少ない我々の中からマネージャーを1人選出しなければならない時期が来ました。誰もが日大のNマークをつけて活躍したいと思っていても，日大体操部になくてはならない縁の下の力持ちを22期の誰かがやらなくてはならなかったのです。全員で検討したところ，投票することになりその結果，岡島君が全員一致でマネージャーとなりました。このことは岡島君も承知の上で決定したのですが，選手をまた1人減らすことになってしまったことに胸が痛む思いでした。こうして誕生した岡島マネージャーによって他の部員がその後安心して練習することができ，そして岡島君が日大体操部の底辺をしっかりと支えてくれたことに我々は感謝しなければなりません。

このように色々あった22期でしたが，人数不足もあって試合での成績はいま一歩でした。しかしながらチームワークだけはどこの学校にも負けない自信があり，それが我々の誇りでもあります。

日大を離れて4年の歳月が過ぎましたが，今でも結婚式等であったときなど辛くも楽しかった思い出話に花が咲き，その1つ1つが昨日のようにみんなの心の中で生きていることが嬉しくてたまりません。

23　期

昭和57年卒

新入生歓迎会 ▶
(56. 5　豊島園)

▲ 53年 夏

▼ 三島合宿

▲ 女子部員

▼ 卒業式 (57. 3.25)

▲　スケート実習

▲　新人戦打ち上げ

▲　新入生歓迎会（豊島園）

23 期 卒 業

早　瀬　幸　博（23期）

私達23期生，早いもので卒業して４年目になります。７年前，いろいろな夢を抱いて上京してきて，日大体操部に籍を置いたのをつい昨日のことのように覚えています。

高校の卒業式も終わらないうちに三島の合宿に参加し，朝はザリに始まり夜は声出しで終わるという毎日が一週間も続き，私達には何から何まで初めてのことで驚きと共につらく厳しかったことを思い出します。

倒立バーを両手に持ち，背中にバッグを背負って旅館から体育館まで走って通い，練習を盛り上げるために声をからして叫んだこと，そして何よりも高校生と大学生のレベルの違いを感じて不安に陥ったことなど，いま思えば懐かしさで一杯です。

何分，練習不足で参加した合宿ゆえに，先生方は私達の練習をみて幻滅されたと思います。早田先生に言われた「け上がりもちかえ－逆手振り出し」も出来ず，基本技も満足に出来ない状態でした。その時の早田先生の何ともいえない笑い顔を今でも思い出すことがあります。

私達は大学四年間，これといった成績を残すことが出来ませんでしたし，先生方や諸先輩の方々に迷惑や心配ばかりかけたことを今でも残念でなりません。しかし，そんな私達でも体操に対する情熱は人一倍持っていたと思います……。

津村吉輝は，腰を痛めて一年の終わりから学生コーチという裏方を務め，いつも悪役を引き受けてくれた頼もしい存在でした。

伊藤鈴夫は最後まで東北なまりが直らず，冗談を言ってはみんなを和ませてくれました。学年一の脚力とつま先のうつくしさを持っていました。

渡辺英明は，鉄棒が得意で他を寄せつけない力を持っていました。特に開脚イエーガーは素晴らしかったのを覚えています。

宮川直人は体の線がきれいで，体操のことになると目の色をかえて話をする姿が印象に残っています。

峯田孝幸は，常に確実な演技をするエースでした。大和銀行の現役としてやっていますが，最近練習量が少し減ってきたのが心配です。

峯田知加子（旧姓宮本）は，コーチ兼マネージャーとして女子を支えてくれました。現在は良き奥様です。

宮本摂子は膝の靱帯を二度も切り，悩み苦しんでいたことを思い出します。

片山みちるは，ひざの靱帯を切ったにもかかわらず脚力があり，いつも女子の先頭に立って頑張っていました。

長谷部薫は，赤いホッペで何を言ってもニコニコ笑顔をたやしませんでした。

櫛野智恵美は，学連で頑張り練習できないせいか少し太めになったのが気になりました。

そしてもうひとり，プーンは香港からの留学生で，私達にとってはかけがえのない友人です。

23期生は12名と小人数ですが，誰ひとりとして脱落する者はなく，最後まで日大体操部の部員であったことを誇りに思っています。現在，私と峯田の二人だけが現役としてやっていますが，他の同期生も，卒業してなおかつ現役を続けたいという気持ちを持っていたにちがいありません。それが出来ないために，私達二人に期待をかけてくれていると思うのです。その期待を裏切らないよう，いつの日か二人で晴れの舞台に立てることを夢に見ながら，大いに頑張っていきたいと思っています。

24　期
昭和58年卒

プロフィール

市　原　邦　彦（24期）

私達24期生の特徴といえば，とにかく何をするにも元気が良かったように思います。そのため脱線することも多く，先生方には度々心配をおかけし今でも心苦しく思っています。

私達の代には高校時代からの有名選手はいませんでしたが，体操に賭ける情熱は人一倍強いものがありました。

吉盛君は腰を痛め，三年生の時から総務の仕事をしてくれました。選手の頃の彼は大変力が強く，電車の吊革で十字懸垂を止めたのは今でも私達の語り草となっています。また，冗談の好きな彼は何かある度にみんなを笑わせて明るいムードにしてくれました。

及川君は特に脚力が強く，ゆかでは伸身２回宙返り１回ひねりなどの凄い技をやっていました。四年生の時は学生コーチという大役を務めてくれました。

副主将の久田君は，細い線を生かした切れ味するどい体操をする選手で，二年生の時の新人戦優勝メンバーのひとりです。

川久保君は，学連という裏方で頑張ってくれました。試合の時はいつも世話になりました。

清水君は努力家で，四年生の時には念願のレギュラー入りを果たしました。腕の太さは体操部一でした。

田場君はバネも力もあるいい選手で，新人戦では個人優勝してみんなを驚かせました。

小坂井君は体の線が美しく，伸臂ひとつでも他の人と違った素晴らしいものを持っていました。

武田君はこと一番に強い選手で，特に鉄棒と跳馬のダイナミックな演技は見ものでした。

森元君と武田君のふたりには，卒業後も試合会場でお互い選手として顔を合せることが出来ました。私達24期の中で競技を続けているのは，私を含めてこの三人だけのようですが，他の人達も，日大体操部の一員だったことを誇りとしてそれぞれの分野で頑張っています。

▲　4年生の三島合宿

◀　1年生の三島合宿

▲　豊島園での新入生（26期）歓迎会

▲　ちばらぎ県人会の一風景
— 県人会とはいわゆる
酒飲み会のことです —

▲　成人式の日，一日中羽をのばせた楽しいひととき（浅草寺にて）
（偶然にもこの日，田場君の誕生日でした）

▲　木村先生と24期四人娘

▼　卒業記念撮影

エピソードetc.

田　中　誠　子（24期）

合宿所

今は跡形もない西友通りの松原三丁目にあった二階建ての一軒家。そこには，全国のいろいろな所から集まってきて，見知らぬ他人どうしがひとつ屋根の下で同じ釜の飯を食べる生活があった。門限や先輩後輩の礼儀など生活全般の厳しさの中にも常に笑いがあった。

チカンが出る（物によっては盗まれない物もある），ネズミが出る（布団カバーの一部を住みかとしていた），正座がある（膝のストレッチング！？），先輩の説教がある（学校の授業より大事），声出しがある（こんにちは鳥），減量がある（脂肪が落ちるまでに命が落ちそう）。

体育館

「こんにちは！」と体育館に一歩足を踏み入れるたびに身が引き締る思いがした。いま思うと先輩はとにかく恐かった。こんなエピソードがある。同期のひとりと体育館のトイレで朝食の食べ直しにパンをかじっている所へ先輩の声，やばいとトイレの中へ。水を流しながら急いで食べ，さも用を済ませたような顔をして出て挨拶した。その後ふたりで顔を見合わせ，口のまわりにパンくずがついているのを発見，思わず吹き出してしまった。

下手なりに一生懸命技をみがいた体育館の中に，自分の人生観を見いだすことが出来たと今でも思っています。苦しさ，悲しさも懐かしく，合宿所生活で一緒に泣いて笑って励まし合った仲間，そこで育まれた人間関係は私の宝です。一生大切にしていきたいと思っています。

同期四人娘

熊本の田舎っぺ大将こと池崎万里子（大ちゃん）。鳥取砂丘の女王こと木島智代（チョ）。茨城の肝っ玉かあさんこと杉崎嘉津江（お杉）。和歌山のみかんの花こと田中誠子（セイコ）。

25　期
昭和59年卒

新人戦優勝と
そのいきさつ

遠　藤　幸　一（25期）

新人戦の試技会は昭和55年9月20日午後3時から始まった。審判をしてくださったのは，早田先生，梶山先生，河合楽器の寺元さん，牛乳配達の水田さんです。

	ゆか	あん馬	つり輪	跳馬	平行棒	鉄棒	合計
小野田博之	8.90	8.45	7.55	9.20	8.65	8.35	51.10
遠藤　幸一	8.55	8.15	8.15	8.70	8.40	8.70	50.65
加藤　安則	8.35	8.50	8.40	8.90	7.80	8.70	50.55
堀　正道	8.55	8.70	8.15	8.65	8.05	8.35	50.45
久田　直也	8.35	8.20	7.95	8.60	8.20	8.45	49.75
桑原　透	8.60	7.80	7.90	9.05	7.85	8.15	49.35
渡辺　光昭	8.25	6.65	8.15	9.10	8.35	8.20	48.70
樫　一幸	8.25	7.45	8.00	8.40	7.55	9.00	48.65
佐々木藤雄	8.25	8.15	7.60	8.60	7.80	8.25	48.65
小坂井一弘	8.20	7.35	6.95	8.35	7.20	7.00	45.05

新人戦個人出場選手は2年生（24期）の小坂井さんと1年生（25期）の樫，桑原，佐々木の4名である。その中で皆の注目を1人占めした奴がいる。樫の鉄棒だ。彼の見せ場は何といっても終末技である。腕が引きちぎれんばかりに車輪をぶん回し，手を離してから着地まで伸身のその姿勢を崩さずフィニッシュする，現在に至っても類をみない豪快な「後方伸身2回宙返り下り」。

最終種目鉄棒。最後の演技者樫。新人戦でのお膳立ては既に最高のものが用意されていた。主審の手から緑の旗があげられると日大応援席は鉄棒に注目した。固さはあるがハリのある演技を続ける樫はとび越しを終え，け上がりにはいった。おっと，肩が前に出すぎて膝と肘を大きくまげてしまった。しかし，すぐ立て直しフィニッシュへ。1回，2回，3回，4回目，手を離した。人より車輪のスピードがあり，回数が1回多いため，この一瞬，会場の観衆全員がその終末技に目を寄せていたにちがいない。ビーンという鉄棒のしなる音。足がマットにつくと共に膝が抜け，手をついてしまった。着地失敗！　会場から「あー」というため息がもれた。樫は立ち上がると両手をゆっくりと左右にのばし，個人出場の4名はこの後に控える団体戦を前に試合の幕を閉じた。

試合2週間前，我々新人戦メンバー全員，ミーティングルームで寝泊を始める。この頃の練習は朝昼夕とも「通し」中心の練習だった。朝6時，1年生の1日が始まる。階段，トイレ，ミーティングルーム，食堂の掃除。そして，7時に先輩方を起こして回ると部屋掃除。7時40分体育館集合のため自転車をこぐにも力が入る。8時から1本通し。それも日替りメニューでつり輪，鉄棒通しの時は格別きつかった。昼はあん馬か平行棒の通しあるいはつり輪の力技の補強。そして夕方からの本練習。チームは1人が失敗すると全員やり直しという内容だった。よく失敗したのがこの3年後に日本の代表選手としてブタペストの世界選手権に出場した渡辺のあん馬，平行棒である。あん馬1番手渡辺が失敗すると他のメンバーからブーイング。でも，いくら文句を言っても通しは永遠に続く。平行棒での渡辺は5番手。得意の前宙支持で今日も失敗した。終盤の5種目めでメンバーから文句も出ない。ついに学生コーチの津村さんから喝がはいる。「渡辺！　お前はチームのことを考えているのか！」「小野田！　絶対個人優勝する根性を見せてみろ！」。

「優勝しよう」という気持ちが最高点に達した時，待ちに待った決戦の日がきたのだった。昭和55年10月29日，皆の身体からは今まで耐えてきたつらい練習から得た自信が，また，一致団結して団体優勝を目指す闘志がみなぎっている。チーム

構成は２年生（24期）の久田さんと１年生(25期)の小野田，遠藤，加藤，堀，渡辺。試合はゆかから。宿敵日体大は我々の後を追う休みからである。

膝負傷の渡辺（４月16日入学早々交通事故で怪我），春先（４月18日の練習中）にアキレス腱断裂した加藤，という２人の足の怪我人を抱えている日大は１種目めのゆかにおいて６人中５人が終末タンブリングを２回ひねりでまとめるという作戦に出た。ベスト５は44.30。幸先好調。２種目めあん馬。１番手渡辺が通した。その波に乗り全員ノーミス。つり輪，跳馬にも目立ったミスもなく，平行棒はいきなり１番手の久田さんが8.90の高得点をマーク。渡辺の前宙支持も成功し応援席から拍手が沸きあがる。残すところ鉄棒の１種目となった。日大鉄棒の演技の特徴は６者６様のはなれ技にある。遠藤のコスミック，加藤のとび越し，久田のデルチェフ，堀のトカチェフ，渡辺のマルケロフ，そしてわれらがエース小野田の日本一のギンガー。全員落下なし着地ミスなし。全種目を終えた我々は日体大最終種目鉄棒の演技いかんで優勝が決まる。１人，２人と落下が相次ぐ。そして，３人目の選手が落下した瞬間，日大応援席から優勝のＶサインが送られてきた。やった！，ついに念願の団体優勝だ！。

興奮醒めやらぬ間，ワゴン車に詰め込まれた我々は一直線に合宿所へ。「堅実な演技が優勝を導いた，技では負けている」等の今後に生かす反省をしながら恒例の打ち上げカレーライスを食べ終えると，新人戦出場者10名と学生コーチの津村さんとでミーティングルームへ行き，優勝カップに注がれたウイスキーを回し飲みした。１人１人の胸に「優勝」という２文字がはっきりと浮かびあがり，その胸の中にこみあげてくるものを抑えることができなくなったのがこの頃だと記憶している。そして今でもその時のウイスキーの味は忘れられない。

新人戦成績（25期）

	ゆか	あん馬	つり輪	跳馬	平行棒	鉄棒	合計
小野田博之	9.40	8.75	8.80	8.85	9.10	9.50	54.40
渡辺　光昭	8.60	8.30	8.80	8.80	9.05	9.00	52.55
加藤　安則	8.70	8.70	8.45	8.50	8.80	8.35	51.50
堀　正道	8.85	8.65	8.10	8.50	8.55	8.80	51.45
遠藤　幸一	8.75	8.35	8.30	8.55	8.55	8.00	50.50
佐々木藤雄	7.90	7.80	7.45	8.35	7.80	8.10	47.40
樫　一幸	8.10	7.55	8.05	8.25	8.30	7.50	46.95
桑原　透	8.05	6.50	8.05	8.25	8.30	7.50	46.65

思い出のプロフィール

ちょうど私たちは日本大学体操部25期，つまり，１期の先輩方が築きあげてきた栄誉ある体操部の1/4世紀という節目をつけるという喜ばしい偶然に感動しています。また，私たち25期の中から２名の日本代表選手を出したことは本当にうれしいことです。そして，日大体操部を今後とも日本の体操界を担っていく部として活躍できるように応援していきたいと思っています。

【小野田博之】 １，２年の頃はずい分暴れ回わって先生や先輩方にご迷惑をおかけしましたが，３年で東日本インカレ個人総合優勝したのをきっかけにユニバーシアード，世界選手権，オリンピックの代表選手として日本の体操を背負って立った25期主将です。

【渡辺光昭】4年生の時は，よきライバル小野田とともに世界選手権代表選手として活躍し，今年の神戸ユニバーシアード代表となり，ますます頑張っている銀行マン。

▲ 今はなき体育館の窓開けが懐かしい

【樫一幸】学生コーチとして日大体操部を数えきれないほど引っ張ってくれました。

【加藤安則】大学入学とともに入院したと思ったら性格をがらりとかえて戻って来た線のきれいな選手でした。早田先生いわく「車輪だけなら10点満点だ」。

▲ 新入生（26期）歓迎会。
後輩が入ってきてホッとしています

【桑原透】福島からやってきた筋骨隆々の力持ち。人々は彼を超人ハルクと呼んだ。

【堀正道】練習が終わると機敏な手さばきでギターを弾いていました。彼の自転車の後ろに座ることは死を意味していました。

【佐々木藤雄】一見ニヒルですが，一言でも会話してしまうと東北訛のボロがでた。力は弱かったけど，4年間，体操と勉学に頑張りました。

【田中千春】女子の主将として皆を引っ張ってくれました。4年間チームには欠かせない存在でした。

【田嶋しのぶ】脚の強い選手でしたが，学生時代は膝負傷との戦いが苦しかったようです。今では頑張ってきた体操を生かして一社会人として輝いています。

【猪野木明美】ある時は女子総務，またある時は学生コーチとして体操部の底辺を支えてくれたとてもチャームな女性です。

▲ 早田先生を囲んで卒業記念スキーツアー
（59. 2. 14）

【佐藤久美子】膝の怪我にも負けず最後まで努力していました。堀君とは学生時代からのベストカップルです。きっと夕食にはニンジンだけこげているシチューを作ってくれるでしょう。

【長沢和子】最後まで日大の代表として活躍した彼女も体重調整には悩み苦しみ，時にはひとり泣いていたこともありました。

▲ こうして世代は受け継がれていく
（25期主将小野田から26期主将千代へ）

26　期
昭和60年卒

四年間の思い出

千　代　恭　司（26期）

私たち26期卒業生は，入学した当初男子９名女子６名の合計15名いましたが，途中３名の男子が体操部を退部してしまいました。２名は学業と体操の両立ができないのを理由に，そして１名は怪我のために体操をすることができなくなり体操部を去っていきました。特に，怪我のために大好きな体操をやめなくてはならなかった斉藤昭仁のことをこの機会に記しておきたいと思います。

事故は夏真っ盛りの８月８日，新人戦強化練習中のことです。ゆかの通し練習の時に終末タンブリングの後方かかえ込み２回宙返りの際，途中でタックルがほどけてしまい，頭から落下して首の骨を折ってしまったのです。この事故は体操部にとって大変ショッキングな出来事でした。エバーマットがあり，学生コーチの先輩もそばについていたにもかかわらず起きてしまったこの事故。目のあたりにした私は，体操競技において一寸した気のゆるみが大怪我につながるということをつくづくと感じました。私自身現役で体操を続けていく上で，そして日大体操部の後輩たちが体操を続けていく上で，この事故を無にしないよう，怪我に対する心構えを十分考え直して練習に励んでほしいと思います。

▲　箱根診療所で斉藤昭仁と

私たちが入学する前に参加した三島合宿には数々の辛かった思い出があります。その中の１つに補強があります。地獄のような補強によって全身筋肉痛になった私たちの中には，腕が曲げられなくてみそ汁をこぼしたり，箸を口もとにもっていけなかったり，１人で服を脱ぐことができない者もいました。また，練習後の補強の時，大声で悲鳴をあげる者もいました。それからもうひとつ，夜補強の後で，私たち新入生は２年の先輩方に声出しをやらせられたことが何とも印象的です。この時，道行く人に変な目で見られ，とても恥ずかしい思いをしました。でも今となっては懐かしい思い出として心に残っています。

▲　58年　三島合宿

私たちが二年生の夏休み期間，体育館の補修工事のために練習場である日大文理の体操場は使用できず，そのため朝日生命の体育館まで毎日足を運び練習しました。朝日生命体育館は日大の体操場より設備が良く，特にピットにおいて，日頃日大では練習できないゆかと跳馬の技に挑戦できたことが何よりも大きな喜びでした。現在でも日大の体操場にはゆかと跳馬を練習するピットはありませんが，もし全種目使用できるピットができれば，今よりもっと凄い技をする選手が日大から出て来ると思います。どうかこのような夢を先生方

をはじめＯＢ，ＯＧの方々の協力をもってかなえてほしいと思います。

男子の中には高校時代に有名だった選手はいませんでしたが，女子の中には高校時代に世界選手権大会や数多くの海外遠征を経験した岡崎格子がいました。ですから，彼女に対する周囲の期待が大きかったことは言うまでもありません。しかし，彼女の学生時代の成績は今一といった感じでした。それというのも彼女自身，最後まで膝の怪我に勝つことができなかったことが理由のひとつに挙げられます。もし，彼女が膝の怪我を見事に克服していたならば，私たちが四年生の時の女子は，インカレ団体５位という屈辱はなかったと思います。

私たち26期の女子は全員活発で，体操において活発なのは良いのですが，体操以外のことで活発すぎて先生方に手をやかせていたのが記憶に新しいところです。その点男子は全員練習熱心で，四年生の時のインカレでは，４人が選手，１人がコーチ，１人がマネージャーとなり，全員で学生最後の大会に参加することができました。しかし，男子にしろ女子にしろ，今になってみるとまとまりのある仲間たちだったと思います。

▲ 卒 業 式 （60. 3）

▲　26期　6人のムスメ

▲　関東インカレ（現在の東日本インカレの前身）
（35. 6　東京　台東体育館）
男子団体総合で教育大と同点優勝

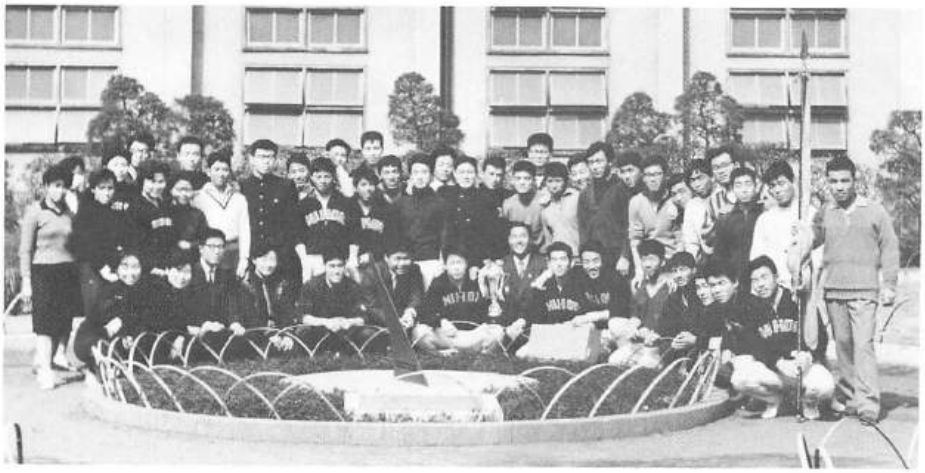
▲　同年　練習後のひととき大講堂前で

集合写真アラカルト

部員全員集合となれば当然のことながら1年生から4年生までの顔ぶれが揃う。ここには，そうした集合写真を集めてみた。なつかしい先輩や見おぼえのある後輩の顔がたくさん登場するだろう

◀ 納　会
（33.12　下高井戸
旭寿司）

▲ 第一回世界学生選手権壮行会（34.8　新宿　東京会館）
前列中央が故秋葉安太郎初代部長，その右が代表の辻健一（2年生）。
門脇監督（当時）も監督として参加



▲　体育館横で　（35．2）

▼　新入生歓迎会（37．5　真鶴海岸）

▲ 合 宿 （39. 3 岡山）

▲ イレカレ （41. 8 東京）

▲ 鏡開き （43. 1）

▲ 練習を終えて　（54. 5）

▼ 現役全員集合　（60. 8）

校舎と体育館

新しい校舎も次々と建てられたが昔ながらのたたずまいは
そう変わってはいない

―６０年７月撮影―

▲　１号館

▼　第２体育館

▲　正　門

▼　第１体育館　▲

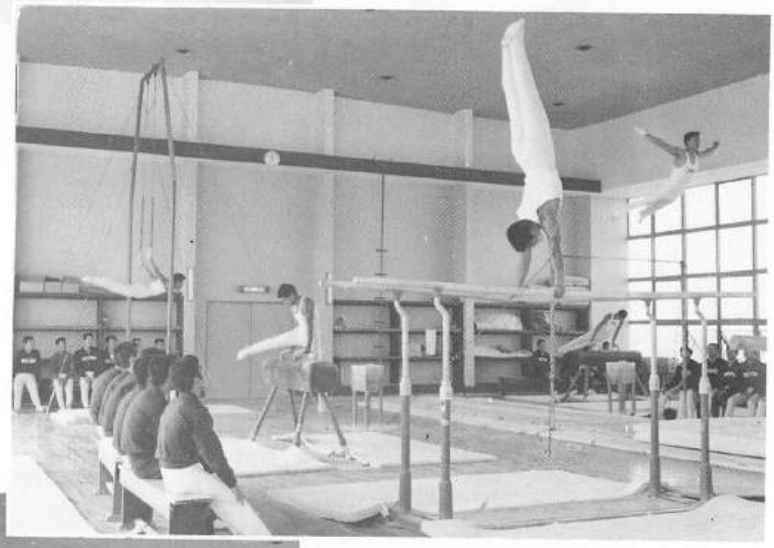
▲　今は亡き吉井さん（４期）の平均台

▼　炎天下に外の鉄棒で練習（34．８）

▲　トランポリンで遊ぶのは，
遠藤コーチ（当時）と
長男・幸一（25期）親子
―38年頃―

第２体育館での

練習風景



合　宿　所

合宿所にはいろんな思い出がある。文字通り同じ釜のめしを食った仲間の顔とともに永遠に消えることのない青春のモニュメント

◀　赤提の合宿所（33年4月～34年2月）
これは現在（60．7）の写真

▼　裏庭にあった井戸で洗濯する
左から三田，工藤，藤谷，斉藤（3期）と
岩本（2期）　　―33年初夏―

▲　浜田山の合宿所（34年3月～同年12月）
後方左側の建物が合宿所
―人物は菊地（4期）　34年晩秋―

建替えられる前の八幡山合宿所の玄関先で　▶
左から船木，安田，大和，影山，小柴（8期）
―41年頃―

◀ 現在の男子合宿所の玄関 ▼

— 60年 7 月撮影 —

◀ 外 観

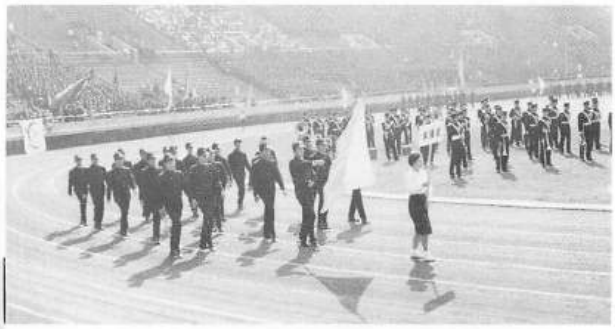
▼

赤提にある女子合宿所のたたずまい

―60年7月撮影―

スナップ

▲　東京オリンピック本学関係者の表彰
— 40年10月　全日大体育大会 —

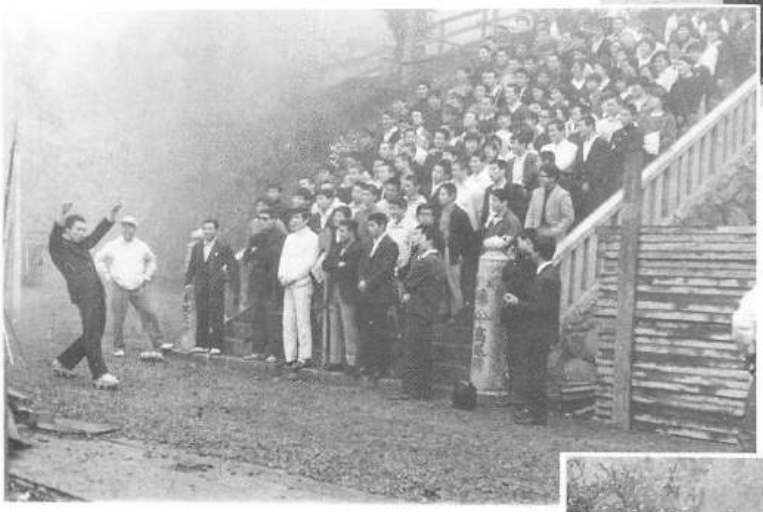


▲　全日大体育大会　体操部の入場行進
（旗手・飯島　10期）
— 40年10月　国立競技場 —

▼　全日大体育大会　模範演技（吉川　2期）
— 32年10月　文理学部世田谷校舎 —

大学紛争　▶
— 44年 2 月撮影 —

▲　みんな若かった……



▲　エッサ　コリャ　コリャ……
リーダーは飯島好美（10期）

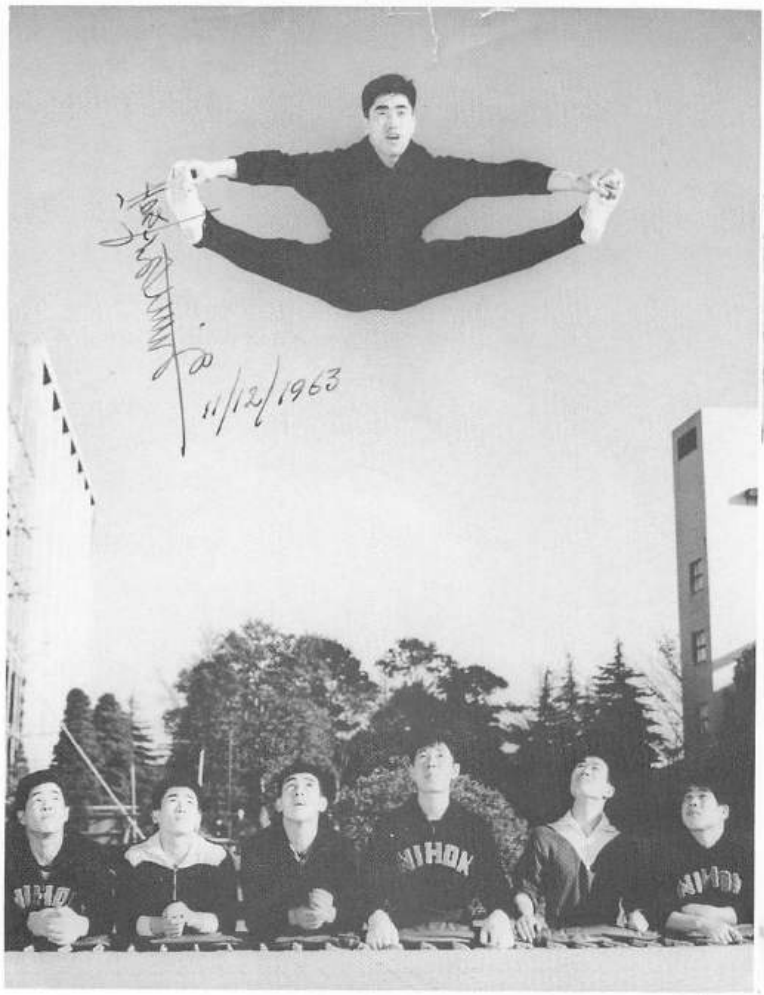
新入生歓迎会

▼　木立の中で

▲　浜辺で

▶
坊主頭も
初々しく

▼ 飛 躍



▲ 泰然自若

鈴木康夫（10期）

▼ コーチ訓示（？）

▼ ある日の練習風景

イベント

桜樹会の行ってきたいろいろな催しを並べてみた。
懇親会的なものが多いのが本会の特徴のようである

▲　桜樹クラブ・全日本初出場
（45．11　神戸）
団体総合　4位日本大学　530.375
5位桜樹クラブ 530.275

▼　全日本社会人大会　2部優勝
（59．9　和歌山）

▲　実演：桜樹会のメンバーだけの実演は
めずらしい（47．8　和歌山）

スキースクール：1　志賀高原　46．1．3～5
2　〃　47．〃
3　赤倉温泉　48．〃
4　志賀高原　49．〃
5　〃　50．〃

▼　この写真は第3回のひとコマ

◀　ハゼ釣り：40年に始まったハゼ釣りは
46年まで続けられた。
これは，46.10．3のハゼ釣り

▲　第34回インカレ
（55．8.22　北海道岩見沢市）

大会地における懇親会

▲　'85　インターハイ　▶
（59．8．2
石川県小松市）

▲ パットするのは早田（4期）
見守るのは稲橋（1期）と菊地（4期）
かなり初期の頃の写真のようである

ゴルフコンペ

1	錦ケ原	47. 3. 29
2	戸田	47. 9. 1
3	錦ケ原	47. 11. 13
4	紫・あやめ	48. 2. 22
5	戸田	48. 6. 21
6	総成	48. 8. 30
7	座間・米軍	48. 11. 13
8	GMG八王子	49. 1. 30
9	戸田	49. 4. 26
10	厚木国際	49. 6. 21
11	読売P.	49. 11. 29
12	東京国際	50. 3. 3
13	千葉国際	50. 5. 29
14	総成	50. 9. 2
15	千葉アサヒ	51. 6. 1
16	高坂	51. 9. 3
17	総武・印旛	51. 11. 11
18	千葉アサヒ	52. 6. 9
19	千葉アサヒ	53. 6. 22

（中断）

忘　年　会

1	東十条「信寿司」	39. 12. 17
2	下高井戸「ふかや」	40. 12. 11
3	館山「洲の崎ホテル」	41. 12. 3～4
4	〃	42. 12. 9～10
5	〃	43. 12. 7～8
6	〃	44. 11. 30～12. 1
7	〃	45. 12. 5～6
8	〃	46. 12. 4～5
9	奥秩父「あさか旅館」	47. 12. 2～3
10	湯河原「梅屋ホテル」	48. 12. 1～2
11	新小岩「有田」	49. 12. 17
12	市川「鳥正」	50. 12. 6
13	成田「成田ビューホテル」	51. 12. 4～5
14	〃	52. 12. 3～4
15	箱根・強羅「喜楽荘」	53. 12. 2～3
16	箱根・湯本「静観荘」	54. 12. 1～2
17	箱根・湯本「初花荘」	55. 12. 6～7
18	〃	56. 11. 28～29
19	〃	57. 11. 27～28
20	〃	58. 11. 26～27
21	〃	59. 12. 1～2

▲ 21回目の忘年会に参加した顔ぶれ
新宿から小田急のロマンスカーで箱根へ，
そして「初花荘」での宴。
近年，このパターンがすっかり定着した

資　　料

日本大学体操部
歴代部長・監督・コーチ・主将・総務

〔体操部部長〕

初代	秋葉安太郎	昭和32～37年
二代	平野　平三	昭和38～44年
三代	浜田　靖一	昭和45～56年
四代	門脇　春男	昭和57～現在

〔体操部監督〕

初代	門脇　春男	昭和31～44年
二代	遠藤　幸雄	昭和45～56年
三代	早田　卓次	昭和57～現在

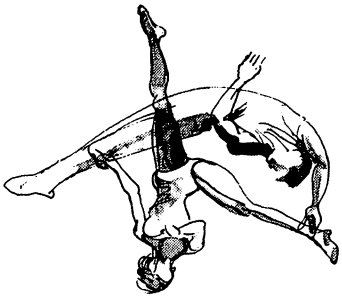
〔体操部コーチ〕

門脇　和子	昭和33～44年
（旧姓曽我部）	
遠藤　幸雄	昭和34～44年
早田　卓次	昭和38～56年
木村　多喜	昭和38～現在
（旧姓渋谷）	
五十嵐久人	昭和49～52年
上野　　剛	昭和51～53年
海谷美代子	昭和51～52年
梶山　広司	昭和51～現在

〔体操部主将，総務，部員数〕

昭和31年			9
32	石井　征也	稲橋　恒行	29
33	石井　征也	稲橋　恒行	34
34	石井　征也	稲橋　恒行	46
35	平川　文雄	古市　和也	64
36	辻　　健一	阪本　　尚	68
37	早田　卓次	菊地　君男	85
38	山中　勝男	志賀　正昌	84
39	真島　孝礼	鶴見　興人	77
40	藤田　　一	砂野　泰男	98
41	橋口　泰武	安田　和明	132
	宮崎　節子		
42	朝倉　徳雄	籾山　芳雄	146
	佐久間寛美		
43	堀田　敏明	高波　司雄	166
	吉田　恭子	浦辺　由子	
44	山本　好隆	伊谷　正一	159
	仁木　文子	岡田美恵子	
45	佐藤　　均	辻岡　　寛	70
	稲谷　清子	斉藤　章子	
46	椎名　　昇	菅野　秀俊	98
	宮川　早苗	田中　千文	
47	五十嵐久人	外山　宜男	105
	河内余志子		
48	住広　　晃	土屋　史郎	126
	矢部　信恵		
49	寺本　良人	鈴木　良之	126
	林田　房美	小谷　幸子	
50	梶山　広司	寛山　秀成	125
	宮本　敏子	中島　節子	
51	千田　修平	大友　栄紀	121
	小川美弥子	鈴木知加子	
52	藪野　睦明	中村　秀二	103
	伊藤三千子	吉野こずえ	
53	瀬戸　伸一	加藤　博幸	85
	内田　俊子	吉野こずえ	
54	山脇　恭二	高見　　等	70

	西沢真理子	三本松純子	
55	国井　信行	岡島　耕一	53
	高橋　亜子	渡辺　幸子	
56	早瀬　幸博	吉盛　武光	53
	片山みちる	宮本知加子	
57	市原　邦彦	吉盛　武光	51
	湯川　誠子	木島　智代	
58	小野田博之	大塚　　宏	51
	田中　千春	猪野木明美	
59	千代　恭司	大塚　　宏	57
	岡崎　格子	山中百合子	
60	島田　利夫	吉川　秀之	59
	伊藤　奈美	佐藤　晶子	



競　技　会　成　績

ＴＢＳ招待競技会

〔男子〕

回	年度	会　場	団体	個　　人	種　　目　　別
1	45	日　体　大	2位		
2	46	駒　　沢	2位		五十嵐久人：ゆか，鉄棒1位 椎名　昇：跳馬1位
3	47	駒　　沢	2位		五十嵐久人：鞍馬，つり輪，鉄棒1位 梶山広司：つり輪1位 西巻洋一：平行棒1位
4	48	東　　京	2位		梶山広司：つり輪，平行棒1位　住広　晃：鞍馬1位　西巻洋一：鉄棒1位
5	49	代々木第2	1位		梶山広司：鞍馬，つり輪，平行棒1位 錦井利臣：ゆか1位　鈴木一弘：跳馬1位
6	50	東　　京	1位		鈴木一弘：ゆか1位 前山真一郎：つり輪1位
7	51	東　　京	2位		千田修平：ゆか1位　金居俊郎：平行棒1位 松本俊一：鉄棒1位
8	52	駒　　沢	2位		山脇恭二：鞍馬，跳馬1位 慶田盛定：鉄棒1位
9	53	東　　京	2位		平田倫敏：つり輪，跳馬1位

〔女子〕

回	年度	会　場	団体	個　　人	種　　目　　別
1	45	日　体　大	2位		稲谷清子：平均台1位
2	46	駒　　沢	2位		林田房美：平行棒1位 並木松子：平均台1位
3	47	駒　　沢	2位		矢部信恵：平均台1位
4	48	東　　京	2位		矢部信恵：跳馬1位 林田房美：平行棒1位
5	49	代々木第2	2位		林田房美：跳馬，平行棒，ゆか1位
6	50	東　　京	2位		
7	51	東　　京	2位		
8	52	駒　　沢	1位		今井久美子：跳馬1位 西沢真理子：ゆか1位
9	53	東　　京	2位		

関東学生新人戦

〔男子〕

回	年度	会　場	団体	個　　人	種　　目　　別
	32	日　体　大		平川文雄：　2位	平川文雄：徒手，鉄棒，跳馬1位
	33	日　体　大		辻　健一：　1位 斉藤正弘：　2位 阪本　尚：　3位	辻　健一：吊環，跳馬1位　平行棒2位 徒手，鉄棒3位 藤谷弘一：吊環2位 米田賢一：吊環2位 三田　久：鞍馬3位　跳馬2位
	34	日　体　大		高田信興：　2位 建部盛蔵：　3位 早田卓次：　4位 菊地君男：　6位	高田信興：平行棒，鞍馬1位，吊環2位 建部盛蔵：吊環1位，鞍馬3位 早田卓次：跳馬2位，平行棒3位 菊地君男：鉄棒1位 大場　穣：徒手2位 高島健治：吊環3位
	35	台　東　区		山中勝男：　6位	
	36	東　教　大		小松楯木：　6位	仲西盛光：吊環2位 川部力夫：跳馬2位
	37	日　体　大			中原　剛：跳馬1位 藤田　一：鉄棒2位，平行棒3位
	38	東　教　大		江川征四郎： 1位 橋口泰武：　5位	江川征四郎：鞍馬1位，鉄棒2位 影山真一：跳馬1位 橋口泰武：平行棒，鉄棒2位，跳馬3位 小柴守夫：徒手3位
	39	東　教　大		朝倉徳雄：　3位 大和孝三：　4位	朝倉徳雄：床1位 大和孝三：吊環1位，鞍馬2位 船木政明：床3位
	40	日　体　大		堀田敏明：　4位 長竿三千夫： 5位	堀田敏明：床1位
	41	日　体　大		安藤泰行：　3位	山本好隆：跳馬1位，床2位 安藤泰行：平行棒2位，吊輪3位 宇津　豊：平行棒2位 近藤　明：鞍馬3位

回	年度	会　場	団体	個　　人	種　　目　　別
	42	東　学　大		寺田　誠：3位	寺田　誠：鉄棒2位 中野憲明：跳馬，平行棒3位 山崎忠男：跳馬，鉄棒3位
	43	豊　島　区	1位		佐藤　均：床1位，吊輪3位 過足重六：跳馬1位，平行棒2位 中村栄喜：跳馬1位，床3位 椎名　昇：跳馬1位
	44	豊　島　区	2位	伊藤　繁：6位	木下咲夫：床1位，吊輪3位 斉藤敬一：吊輪1位 五十嵐久人：鉄棒2位，床3位 吊輪3位 辻　誌朗：跳馬2位，中島　孝：吊輪3位
	45	駒　　沢	4位		市毛美喜男：つり輪2位 住広　晃：あん馬3位
	46	駒　　沢	2位	西巻洋一：3位	西巻洋一：鉄棒1位 椎名　厚：あん馬3位
	47	駒　　沢	1位	前山真一郎： 2位 松山貞一：4位 鈴木一弘：4位	松山貞一：鉄棒1位，あん馬，平行棒3位 鈴木一弘：跳馬1位，ゆか2位，つり輪， 鉄棒3位 佐々木武雄：つり輪2位
	48	駒　　沢	2位	千田修平：3位	千田修平：つり輪，跳馬2位，鉄棒3位 千葉　勉：跳馬2位 神田孝一郎：つり輪3位
	49	駒　　沢	1位	金居俊郎：3位 境　保則：5位 松本俊一：6位	金居俊郎：あん馬1位 村上秀宣：跳馬1位 松本俊一：ゆか，鉄棒2位 境　保則：鉄棒2位，つり輪3位
	50	駒　　沢	2位	慶田盛定：4位 藪野睦明：5位 後閑文昌：6位	慶田盛定：鉄棒1位，平行棒2位 藪野睦明：跳馬1位 後閑文昌：跳馬2位 水田靖夫：あん馬2位，平行棒3位 井上祐二：あん馬3位

回	年度	会　場	団体	個　　人	種　　目　　別
	51	駒　　沢	2位	山脇恭二：1位 平田倫敏：4位	山脇恭二：跳馬1位，鉄棒2位 平田倫敏：つり輪1位，平行棒2位 中村秀也：跳馬3位 松永二郎：平行棒3位
	52	駒　　沢	3位	国井信行：6位	遠藤孝之：あん馬1位 兎沢無二夫：跳馬1位
	53	駒　　沢	2位	早瀬幸博：2位 吉田清一：5位	早瀬幸博：ゆか，平行棒2位，あん馬3位
	54	大　田　区	2位	田場睦信：1位	小林一彦：あん馬1位 田場睦信：ゆか3位 伊藤鈴夫：跳馬，鉄棒3位
	55	駒　　沢	1位	小野田博之：2位 渡辺光昭：5位	小野田博之：平行棒，鉄棒1位，ゆか2位，あん馬3位 渡辺光昭：平行棒2位
	56	駒　　沢	4位	千代恭司：6位	
	57	駒　　沢	3位	島田利夫：5位	島田利夫：ゆか1位
	58	駒　　沢	2位	矢島利康：5位	矢島利康：あん馬1位，平行棒3位 石川幸一：鉄棒3位
	59	駒　　沢	2位	水島宏一：3位 小比類巻英夫：4位	水島宏一：あん馬，つり輪1位，鉄棒2位 関口和人：平行棒1位 小比類巻英夫：つり輪2位 山本新吾郎：ゆか3位

〔女子〕

回	年度	会　場	団体	個　　人	種　　目　　別
	32	日　体　大			
	33	日　体　大			
	34	日　体　大		吉井公恵：2位 二条智美：5位	二条智美：跳馬2位 吉井公恵：跳馬3位
	35	台　東　区		石橋淑子：6位	
	36	東　教　大			
	37	日　体　大		佐藤優子：3位 宮川本子：6位	佐藤優子：跳馬1位，徒手，平均台2位 下手真美子：徒手1位，平行棒3位

回	年度	会　場	団体	個　　人	種　　目　　別
	38	東　教　大		宮崎節子：1位 角佐久良：3位	宮崎節子：平均台，平行棒1位 角佐久良：平行棒3位 須佐美恵子：跳馬3位
	39	東　教　大		山上恵子：1位 武田和子：4位	山上恵子：床，跳馬1位，平行棒2位，平均台3位 武田和子：平均台2位
	40	日　体　大		佐久間寛美：1位 吉田恭子：2位 松岡多賀子：4位 浦辺由子：6位	佐久間寛美：平行棒1位，平均台2位 吉田恭子：床，平均台1位 松岡多賀子：跳馬2位，平均台3位 浦辺由子：平行棒3位
	41	日　体　大		関口始女：3位 横山久子：4位	関口始女：跳馬1位 徳永先子：平均台1位 中村寿美：床，平均台2位 横山久子：跳馬2位 山田昌子：平行棒2位 神崎悦子：平均台3位
	42	東　学　大		斉藤多美子：1位 稲谷清子：3位 岡田とも子：4位 仁木文子：6位	斉藤多美子：平均台，床1位 岡田とも子：平均台1位，平行棒2位 稲谷清子：床1位 仁木文子：平行棒，床3位
	43	豊　島　区	1位		宮川早苗：床1位，平行棒2位 桑島祥子：跳馬2位 池田成子：平行棒3位
	44	豊　島　区			
	45	駒　　沢		福田久恵：6位	福田久恵：ゆか2位
	46	駒　　沢	1位	林田房美：1位 今成洋子：3位 田村君子：5位	林田房美：跳馬，ゆか，平行棒1位，平均台2位 今成洋子：跳馬3位 田村君子：ゆか3位
	47	駒　　沢	2位	下田良子：2位 山本恭子：4位	山本恭子：平均台1位，平行棒2位 下田良子：跳馬，ゆか2位 山宮登美枝：平均台2位
	48	駒　　沢	2位		
	49	駒　　沢	2位	伊藤三千子：1位 今村久美子：4位	伊藤三千子：平均台1位，平行棒3位 西村久美子：平行棒1位 今村久美子：平行棒2位，ゆか3位

回	年度	会　場	団体	個　　人	種　　目　　別
	50	駒　　沢	3位		
	51	駒　　沢	3位	磯部育子：2位 西沢真理子：6位	磯部育子：跳馬2位 西沢真理子：ゆか2位
	52	駒　　沢	4位	高橋亜子：6位	
	53	駒　　沢	5位	片山みちる：1位	片山みちる：跳馬，平均台，ゆか1位
	54	大　田　区			池崎万里子：跳馬3位
	55	駒　　沢		田嶋しのぶ：2位	田嶋しのぶ：ゆか1位
	56	駒　　沢	4位	岡崎格子：6位	岡崎格子：平行棒1位
	57	駒　　沢			
	58	駒　　沢	4位	竹江真由美：4位	竹江真由美：跳馬，ゆか3位
	59	駒　　沢	2位		
	60	駒　　沢			

関東学生選手権

〔男子〕

回	年度	会　場	団体	個　　人	種　　目　　別
	34	台　東　区	2位	辻　健一：2位	
	35	台　東　区	1位	辻　健一：1位 平川文雄：4位 藤谷弘一：6位	辻　健一：徒手，鞍馬，跳馬，吊環1位 平川文雄：鉄棒1位 竹内　勇：平行棒2位
	36	川　崎　市	2位	高田信興：3位	高田信興：鞍馬1位，平行棒，鉄棒3位 辻　健一：平行棒1位，吊環3位
	37	千　葉　市	3位	早田卓次：1位	早田卓次：平行棒，跳馬，鉄棒1位 徒手2位，吊環3位
	38	横浜文化	3位	真島孝礼：4位	真島孝礼：跳馬2位，鞍馬3位 藤田　一：跳馬3位 平野昌宏：鉄棒3位
	39	水戸スポ	3位		真島孝礼：鞍馬2位，吊環3位 藤田　一：跳馬2位
	40	栃　木　県	2位	藤田　一：1位	藤田　一：跳馬，鉄棒1位 諸岡嘉春：平行棒2位
	41	川　崎　市	3位		小柴守夫：床1位 橋口泰武：跳馬2位

〔女子〕

回	年度	会　場	団体	個　　人	種　　目　　別
	34	台　東　区	3位	福田竹子：6位	
	35	台　東　区	2位	福田竹子：5位	福田竹子：跳馬1位，平均台3位 渋谷多喜：跳馬3位
	36	川　崎　市	4位		
	37	千　葉　市	3位	吉井公恵：5位	下手真美子：平行棒1位 佐藤優子：跳馬1位，徒手2位 吉井公恵：平均台3位
	38	横浜文化	2位	佐藤優子：2位	佐藤優子：徒手，跳馬1位
	39	水戸スポ	2位	佐藤優子：2位 下手真美子：3位	佐藤優子：平均台2位，床3位 下手真美子：平行棒2位
	40	栃　木　県	1位	山上恵子：2位	山上恵子：床1位 佐久間寛美：平均台1位 下手真美子：床2位 宮川本子：平行棒2位
	41	川　崎　市	2位	宮崎節子：5位	須佐美恵子：平行棒3位

東日本選手権

〔男子〕

回	年度	会　場	団体	個　　人	種　　目　　別
1	42	福　島　県	3位	大原健司：2位	大原健司：吊輪，平行棒1位，床，鞍馬， 鉄棒3位 朝倉徳雄：床3位
2	43	駒　　沢	2位		
3	44	宮城スポ	2位	大原健司：2位 工藤昌二：6位	大原健司：鞍馬，吊輪，平行棒1位 鉄棒4位，床6位 工藤昌二：鞍馬1位 椎名　昇：跳馬1位 高橋正典：平行棒5位
4	45	駒　　沢	2位	島崎康行：7位	中村栄喜：つり輪1位，跳馬3位 椎名　昇：跳馬1位，床4位，鉄棒5位 島崎康行：つり輪3位，跳馬6位 山口次男：平行棒2位 山崎忠男：平行棒6位
5	46	水　戸　市	4位	五十嵐久人：7位 椎名　昇：9位	椎名　昇：平行棒1位，跳馬2位， 中谷秀明：鉄棒2位 五十嵐久人：ゆか5位
6	47	上　尾　市	2位	五十嵐久人：1位 梶山広司：2位 田中章二：5位	五十嵐久人：ゆか，平行棒，鉄棒1位 あん馬，跳馬2位 梶山広司：つり輪1位，あん馬2位
7	48	米　沢　市	2位	梶山広司：2位 錦井利臣：6位 寺元良人：7位 西巻洋一：8位	梶山広司：あん馬，つり輪1位，平行棒， 鉄棒3位 錦井利臣：ゆか，つり輪2位 西巻洋一：鉄棒1位，ゆか6位 鈴木一弘：ゆか3位
8	49	桐　生　市	1位	梶山広司：1位 錦井利臣：5位	梶山広司：あん馬，つり輪1位，ゆか， 平行棒2位，鉄棒3位 錦井利臣：ゆか1位，平行棒2位 寺元良人：つり輪2位，鉄棒3位 前山真一郎：ゆか，平行棒6位 鈴木一弘：ゆか4位　西巻洋一：跳馬5位

回	年度	会　場	団体	個　　人	種　　目　　別
9	50	弘　前　市	1位	梶山広司：1位 前山真一郎：3位	梶山広司：ゆか，あん馬，つり輪，平行棒1位，鉄棒2位，跳馬5位 前山真一郎：ゆか3位，つり輪4位 千田修平：ゆか2位 鈴木一弘：ゆか3位，跳馬5位
10	51	駒　　沢	1位	金居俊郎：3位 松本俊一：4位	松本俊一：つり輪1位，鉄棒2位，平行棒，ゆか3位 金居俊郎：跳馬，平行棒2位，つり輪6位 千田修平：ゆか1位，つり輪3位，あん馬4位 松田　洋：あん馬2位 神田孝一郎：跳馬2位 境　保則：平行棒5位 藪野睦明：平行棒5位 慶田盛定：つり輪6位
11	52	宮城スポ	1位	金居俊郎：2位 松本俊一：5位 慶田盛定：6位 山脇恭二：7位	山脇恭二：あん馬，つり輪1位，跳馬2位 金居俊郎：つり輪2位，あん馬4位，ゆか6位 松本俊一：鉄棒1位，平行棒3位，跳馬4位 慶田盛定：平行棒1位，つり輪2位，鉄棒3位，跳馬4位 境　保則：平行棒4位 藪野睦明：ゆか6位
12	53	大　田　区	2位	山脇恭二：3位	山脇恭二：つり輪，跳馬1位，平行棒，あん馬3位 慶田盛定：平行棒2位，鉄棒3位 平田倫敏：平行棒3位，鉄棒5位
13	54	秋　田　県	1位	山脇恭二：2位 平田倫敏：5位	山脇恭二：ゆか，つり輪，跳馬1位，あん馬3位，鉄棒5位 平田倫敏：鉄棒2位，跳馬3位，つり輪5位 松永二郎：鉄棒1位 早瀬幸博：ゆか5位 関　信之：鉄棒5位

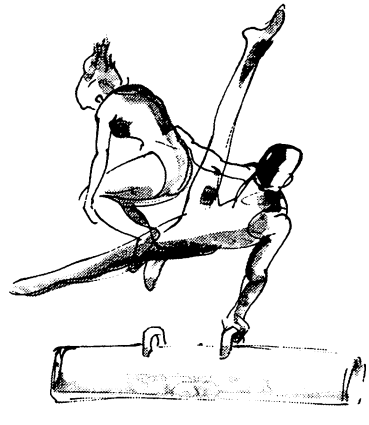
回	年度	会　員	団体	個　　人	種　　目　　別
14	55	駒　　沢	4位	峯田孝幸：6位	峯田孝幸：平行棒3位，鉄棒4位 早瀬幸博：鉄棒1位 渡辺英明：ゆか：4位 国井信行：鉄棒4位 田場睦信：ゆか6位 武田貞二：鉄棒6位
15	56	大　田　区	4位	小野田博之：8位	早瀬幸博：あん馬1位 武田貞二：鉄棒4位 小野田博之：鉄棒5位 峯田孝幸：鉄棒5位 渡辺光昭：跳馬6位
16	57	駒　　沢	3位	小野田博之：1位	小野田博之：ゆか，鉄棒1位，つり輪5位 市原邦彦：ゆか，あん馬4位，鉄棒5位 島田利夫：つり輪3位
17	58	いわき市	3位	渡辺光昭：2位	渡辺光昭：鉄棒1位，跳馬2位，あん馬6位 小野田博之：跳馬2位，ゆか3位，あん馬，つり輪6位 田中健一：あん馬3位 安里順一：鉄棒5位
18	59	駒　　沢	4位		島田利夫：つり輪4位 田中健一：平行棒4位
19	60	栃　木　県	2位	水島宏一：4位 小比類巻英夫：6位	水島宏一：あん馬，鉄棒2位 島田利夫：つり輪，平行棒2位，ゆか3位，跳馬5位 矢島利康：鉄棒2位，ゆか6位 小林　隆：ゆか3位 林　宏行：鉄棒5位，平行棒4位 小比類巻英夫：つり輪6位

〔女子〕

回	年度	会　場	団体	個　　人	種　　目　　別
1	42	福　島　県	3位		関口始女：跳馬3位
2	43	駒　　沢	2位		

回	年度	会　場	団体	個　　人	種　　目　　別
3	44	宮城スポ	2位	中村寿美：4位 小宮由美子：4位	稲谷清子：跳馬3位 中村寿美：床5位 小宮由美子：平均台，床5位 仁木文子：床5位
4	45	駒　　沢	2位	稲谷清子：2位 斉藤多美子：7位 小宮由美子：7位	稲谷清子：跳馬2位，平均台，平行棒4位，ゆか5位 斉藤多美子：平均台3位 小宮由美子：平行棒5位 瀬上冷子：平行棒5位 並木松子：平均台6位
5	46	水　戸　市	2位	小宮由美子：2位 並木松子：5位	小宮由美子：平均台3位，平行棒5位，跳馬6位 並木松子：平均台3位 矢部信恵：跳馬5位，ゆか6位 林田房美：ゆか5位 河内余志子：平行棒6位
6	47	上　尾　市	2位	宮本敏子：3位 矢部信恵：5位	矢部信恵：跳馬1位
7	48	米　沢　市	3位	矢部信恵：1位	矢部信恵：跳馬1位，平行棒，ゆか3位
8	49	桐　生　市	2位	林田房美：1位	林田房美：跳馬，平行棒，平均台1位，ゆか3位 山本恭子：平均台3位 山宮登美枝：平均台4位
9	50	弘　前　市	3位	山宮登美枝：5位	山宮登美枝：平均台4位
10	51	駒　　沢	4位		山本富士子：平均台4位
11	52	宮城スポ	2位	西沢真理子：2位 萩原美和子：10位	西沢真理子：ゆか1位，平均台3位，跳馬4位 萩原美和子：ゆか3位，平行棒4位 高橋亜子：跳馬5位
12	53	大　田　区	4位	坪田真由美：4位	坪田真由美：平行棒4位 西沢真理子：平均台6位
13	54	秋　田　県	5位		片山みちる：ゆか3位
14	55	駒　　沢	5位	田嶋しのぶ：9位	田嶋しのぶ：ゆか4位
15	56	大　田　区	4位		岡崎格子：平行棒，平均台5位

回	年度	会　場	団体	個　　人	種　　目　　別
16	57	駒　　沢	4位		岡崎格子：平行棒，平均台5位 湯川誠子：平均台5位
17	58	いわき市	4位		
18	59	駒　　沢	3位		
19	60	栃　木　県	3位		松沢小百合：ゆか4位，平均台6位



全日本学生選手権

〔男子〕

回	年度	会　場	団体	個　　人	種　　目　　別
11	32	日　　大 東　京　都	2部 2位		平川文雄：徒手，跳馬，鉄棒1位
12	33	大　阪　府	3位		
13	34	秋田山王	3位		
14	35	東　京　都	3位	辻　健一：6位	辻　健一：平行棒1位 平川文雄：平行棒2位 〔特殊種目〕 堀田淳二：クライミングロープ1位 金子正史：　　〃　　3位 竹内　勇：タンブリング3位
15	36	岡　山　県	3位		早田卓次：平行棒2位
16	37	札幌中島	3位	早田卓次：1位	早田卓次：吊環，平行棒2位，跳馬，徒手，鉄棒3位 高田信興：鞍馬，鉄棒3位
17	38	広　島　県	3位		真島孝礼：跳馬6位
18	39	前橋スポ	4位	真島孝礼：7位	真島孝礼：鞍馬3位
19	40	高知県スポ	3位	藤田　一：3位	藤田　一：鞍馬1位 諸岡嘉春：跳馬4位
20	41	東　京　都	4位		影山真一：鞍馬1位 大和孝三：鞍馬2位 小柴守夫：跳馬3位
21	42	神戸中央	3位	堀田敏明：5位 朝倉徳雄：6位	堀田敏明：鉄棒4位，吊輪5位 朝倉徳雄：跳馬4位，床6位 津村二郎：鉄棒6位
22	43	長　崎　市	3位		
23	44	駒　　沢	2位	大原健司：2位	大原健司：平行棒1位，鞍馬2位，吊輪3位
24	45	愛　知　県	4位		椎名　昇：跳馬1位，あん馬4位 五十嵐久人：ゆか4位 中谷秀明：鉄棒4位 島崎康行：つり輪5位

回	年度	会　場	団体	個　　人	種　　目　　別
25	46	駒　　沢	2位	椎名　昇：1位 五十嵐久人：5位 中谷秀明：7位	椎名　昇：平行棒1位，跳馬2位，あん馬，つり輪4位，ゆか，鉄棒6位 五十嵐久人：鉄棒2位，ゆか3位 中谷秀明：平行棒，鉄棒4位
26	47	福　井　県	2位	五十嵐久人：1位 梶山広司：3位	五十嵐久人：ゆか，つり輪1位，跳馬，平行棒2位，あん馬3位，鉄棒6位 梶山広司：つり輪2位，平行棒4位，跳馬5位
27	48	駒　　沢	1位	梶山広司：1位 錦井利臣：2位 寺元良人：3位 川野耕二：9位	梶山広司：つり輪，平行棒1位，鉄棒2位，跳馬3位，ゆか6位 錦井利臣：ゆか，平行棒2位，つり輪4位 寺元良人：つり輪3位，あん馬6位
28	49	愛　知　県	1位	梶山広司：1位 錦井利臣：2位 寺元良人：4位 前山真一郎：6位 西巻洋一：10位	梶山広司：あん馬，つり輪，跳馬，平行棒，鉄棒1位，ゆか3位 錦井利臣：ゆか1位，つり輪，跳馬2位，平行棒，鉄棒6位 寺元良人：つり輪，平行棒3位，鉄棒4位 千田修平：ゆか2位 前山真一郎：平行棒4位，跳馬6位
29	50	駒　　沢	1位	梶山広司：1位 前山真一郎：5位 千田修平：6位	梶山広司：ゆか，あん馬，つり輪，跳馬，平行棒1位，鉄棒2位 前山真一郎：ゆか2位，つり輪3位，跳馬4位，鉄棒6位 鈴木一弘：ゆか4位，跳馬5位 神田孝一郎：跳馬3位 千田修平：あん馬5位
30	51	四　日　市	2位	松本俊一：4位 金居俊郎：7位 千田修平：9位	千田修平：ゆか1位 金居俊郎：平行棒5位，あん馬，つり輪6位 慶田盛定：鉄棒4位

回	年度	会　場	団体	個　　人	種　　目　　別
31	52	駒　　沢	1位	金居俊郎：2位 山脇恭二：4位 松本俊一：6位	金居俊郎：つり輪2位，ゆか5位，平行棒6位 松本俊一：平行棒1位，ゆか，鉄棒3位，つり輪6位 山脇恭二：あん馬，跳馬2位 境　保則：鉄棒4位 慶田盛定：跳馬5位 藪野睦明：跳馬5位
32	53	京　都　府	2位	山脇恭二：2位	山脇恭二：跳馬1位，あん馬3位，平行棒6位 平田倫敏：つり輪5位，跳馬，鉄棒6位
33	54	駒　　沢	1位	山脇恭二：2位 国井信行：7位 関　信之：10位	山脇恭二：ゆか，つり輪1位，あん馬3位，平行棒4位 関　信之：平行棒，鉄棒5位 国井信行：鉄棒6位
34	55	岩見沢スポ	4位	峯田孝幸：3位	峯田孝幸：平行棒，鉄棒2位 国井信行：鉄棒1位 市原邦彦：あん馬4位 早瀬幸博：ゆか6位
35	56	駒　　沢	3位	峯田孝幸：10位	渡辺光昭：ゆか2位 早瀬孝博：つり輪，平行棒4位 峯田孝幸：鉄棒3位，平行棒5位 市原邦彦：あん馬4位
36	57	静岡草薙	4位	市原邦彦：8位 渡辺光昭：10位	渡辺光昭：跳馬2位，鉄棒5位 島田利夫：つり輪1位 市原邦彦：あん馬2位
37	58	早大記念	3位	渡辺光昭：2位 小野田博之：5位	渡辺光昭：鉄棒1位，つり輪3位，あん馬5位，ゆか，跳馬6位 小野田博之：ゆか，つり輪，鉄棒4位 千代恭司：ゆか5位
38	59	駒　　沢	4位	島田利夫：5位	島田利夫：つり輪4位 水島宏一：あん馬5位

回	年度	会　場	団体	個　　人	種　　目　　別
39	60	大　　津	3位	水島宏一：4位 島田利夫：7位 石川幸一：9位 林　宏行：9位	水島宏一：平行棒1位 島田利夫：ゆか1位，平行棒3位 石川幸一：鉄棒4位 林　宏行：平行棒6位 小林　隆：鉄棒5位

〔女子〕

回	年度	会　場	団体	個　　人	種　　目　　別
11	32	日大東京都			
12	33	大　阪　府			
13	34	秋田山王	3位		
14	35	東　京　都	3位		
15	36	岡　山　県	3位		稗田房子：平行棒3位 渋谷多喜：跳馬3位
16	37	札幌中島	2位	渋谷多喜：1位	渋谷多喜：跳馬1位 下手真美子：平行棒2位
17	38	広　島　県	3位	下手真美子：1位 佐藤優子：3位	下手真美子：平行棒2位 佐藤優子：跳馬2位
18	39	前橋市スポ	3位	佐藤優子：4位 下手真美子：10位	
19	40	高知県スポ	2位	山上恵子：5位	宮川本子：平行棒1位 山上恵子：平行棒3位
20	41	東　京　都	1位	山上恵子：2位	山上恵子：平行棒1位，跳馬2位，平均台3位 吉田恭子：平均台2位 佐久間寛美：平行棒3位
21	42	神戸中央	2位	松岡多賀子：6位	松岡多賀子：平行棒4位，跳馬6位
22	43	長　　崎	2位		
23	44	駒　　沢	2位	稲谷清子：4位	稲谷清子：床3位，跳馬，平均台5位 斉藤多美子：平均台6位 中村寿美：跳馬6位
24	45	愛　知　県	2位	稲谷清子：4位 小宮由美子：7位	小宮由美子：平行棒4位，平均台5位，跳馬6位

回	年度	会　場	団体	個　　人	種　　目　　別
25	46	駒　　沢	2位	小宮由美子：3位	小宮由美子：平行棒，平均台3位，ゆか4位 跳馬5位 長岡久美子：平行棒2位 並木松子：平行棒6位
26	47	福　井　県	2位	矢部信恵：4位 宮本敏子：8位	
27	48	駒　　沢	2位	矢部信恵：3位 林田房美：8位 宮本敏子：10位	矢部信恵：平行棒1位，跳馬3位 宮本敏子：跳馬3位，平行棒5位 林田房美：ゆか6位
28	49	愛　知　県	3位	林田房美：2位	林田房美：平行棒1位，跳馬，平均台2位， ゆか3位
29	50	駒　　沢	3位		山本恭子：平均台5位 山宮登美枝：平均台6位
30	51	四　日　市	4位	萩原美和子：2位	萩原美和子：跳馬3位，ゆか4位，平行棒6 位 磯部育子：跳馬2位 小川美弥子：跳馬5位 伊藤三千子：跳馬6位
31	52	駒　　沢	4位	萩原美和子：10位	萩原美和子：ゆか，跳馬4位
32	53	京　都　府	4位		内田俊子：ゆか6位
33	54	駒　　沢	6位		
34	55	岩見沢スポ	6位		
35	56	駒　　沢	4位		
36	57	静岡草薙	4位	岡崎格子：10位	岡崎格子：平行棒5位
37	58	早大記念	4位		
38	59	駒　　沢	5位		
39	60	大　　津	5位		

全日本選手権

〔男子〕

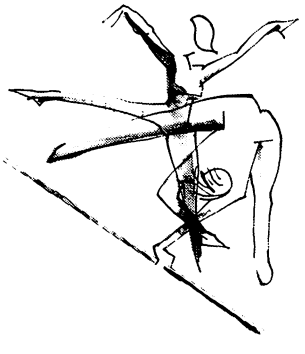
回	年度	会　場	団体	個　　人	種　　目　　別
11	32	川　崎　市			
12	33				
13	34	岡　山　県			
14	35	東　京　都	5位		〔特殊種目〕 堀田淳二：クライミングロープ　2位 上野　剛：　〃　3位 竹内　勇：タンブリング　3位
15	36	長　崎　市	5位	早田卓次：19位	〔特殊種目〕 竹内　勇：タンブリング　2位
16	37	新　潟　市	6位	遠藤幸雄：1位	遠藤幸雄：徒手，吊環，跳馬，鉄棒1位，鞍馬2位
17	38	東　京　都	8位	遠藤幸雄：1位 早田卓次：8位	遠藤幸雄：徒手，吊環，跳馬1位
18	39	秋田山王	9位	遠藤幸雄：1位 早田卓次：3位	遠藤幸雄：床，鞍馬，跳馬，平行棒，鉄棒1位 早田卓次：吊環1位，鞍馬，跳馬2位
19	40	京都市スポ	4位	遠藤幸雄：1位 早田卓次：5位	遠藤幸雄：床，跳馬，鉄棒1位 早田卓次：吊環1位
20	41	銚　子　市			
21	42	名　古　屋			
22	43	盛　岡　市	3位		大原健司：平行棒3位
23	44	山　口　市			
24	45	神　戸　市	4位	椎名　昇：16位	（桜樹クラブ　団体5位）
25	46	山　梨　県	4位	高橋正典：7位 中谷秀明：16位 早田卓次：20位	
26	47	米　子　市	8位		
27	48	真　駒　内	2位	梶山広司：8位 錦井利臣：12位	梶山広司：あん馬2位，平行棒3位，ゆか6位 錦井利臣：ゆか3位，跳馬5位

回	年度	会　場	団体	個　　人	種　　目　　別
28	49	岡　山　県	2位	梶山広司：2位 錦井利臣：10位	梶山広司：つり輪1位，ゆか，平行棒2位，あん馬，跳馬3位，鉄棒4位 錦井利臣：ゆか，跳馬4位 千田修平：ゆか5位
29	50	長　野　県	3位	梶山広司：1位 前山真一郎：16位 千田修平：20位	梶山広司：あん馬，つり輪，平行棒1位，ゆか，跳馬3位，鉄棒4位 千田修平：あん馬3位 前山真一郎：跳馬5位
30	51	水戸スポ	4位	松本俊一：17位 金居俊郎：18位 千田修平：20位	千田修平：ゆか1位 松本俊一：跳馬3位 山脇恭二：跳馬5位
31	52	静岡草薙	5位	梶山広司：2位 金居俊郎：9位	金居俊郎：ゆか，あん馬5位
32	53	北九州市	5位	山脇恭二：11位 平田倫敏：15位	平田倫敏：跳馬3位 中村秀也：跳馬6位
33	54	八王子市	6位	錦井利臣：1位 梶山広司：2位 金居俊郎：10位 慶田盛定：12位 平田倫敏：20位	
34	55	伊勢崎市	8位	国井信行：20位	国井信行：鉄棒6位
35	56	唐　津　市	10位	渡辺光昭：14位	渡辺光昭：ゆか，跳馬6位
36	57	前　橋　市	5位	小野田博之：6位 渡辺光昭：12位	渡辺光昭：鉄棒3位，跳馬4位 市原邦彦：あん馬2位 小野田博之：鉄棒5位 島田利夫：つり輪6位
37	58	橿原公苑	6位	渡辺光昭：4位 小野田博之：11位	渡辺光昭：平行棒1位，鉄棒3位，跳馬4位ゆか5位
38	59	神　戸　市	8位		島田利夫：ゆか2位
39	60				

〔女子〕

回	年度	会　場	団体	個　　人	種　　目　　別
11	32	川　崎　市			
12	33				
13	34	岡　山　県	3位		
14	35	東　京　都	5位		
15	36	長　崎　市	5位	渋谷多喜：10位 稗田房子：15位	淡谷多喜：跳馬4位
16	37	新　潟　市	4位		
17	38	東　京　都	6位	渋谷多喜：9位	渋谷多喜：跳馬2位
18	39	秋田山王	4位	渋谷多喜：2位 山上恵子：10位 下手真美子：11位 吉川公子：13位 佐藤優子：15位	渋谷多喜：平行棒1位，跳馬2位，平均台3位
19	40	京都府スポ	2位	渋谷多喜：2位	渋谷多喜：床，跳馬1位，平均台2位
20	41	銚　子　市			
21	42	名　古　屋			
22	43	盛　岡　市	2位		
23	44	山　口　市			
24	45	神　戸　市	2位	稲谷清子：9位 小宮由美子：12位 長岡久美子：14位 宮川早苗：20位	稲谷清子：跳馬6位 長岡久美子：平行棒5位
25	46	山　梨　県	2位	矢部信恵：9位 林田房美：15位 小宮由美子：17位 長岡久美子：20位	小宮由美子：平均台4位，平行棒5位 林田房美：跳馬4位
26	47	米　子　市	2位	矢部信恵：3位 宮本敏子：4位	失部信恵：平行棒2位，ゆか4位 宮本敏子：跳馬，平行棒6位
27	48	真　駒　内	2位	林田房美：5位 矢部信恵：6位 宮本敏子：10位	宮本敏子：跳馬3位，平行棒5位 林田房美：平行棒6位
28	49	岡　山　県	2位	林田房美：3位	林田房美：平行棒1位，ゆか，平均台2位，跳馬4位

回	年度	会　場	団体	個　　人	種　　目　　別
29	50	長　野　県	3位		
30	51	水戸スポ	2位	内田俊子：13位 西沢真理子：17位 伊藤三千子：19位 坪田真由美：20位	
31	52	静岡草薙	6位	西沢真理子：20位	
32	53	北九州市	6位		
33	54	八王子市			
34	55	伊勢崎市	6位	田嶋しのぶ：10位	田嶋しのぶ：ゆか7位
35	56	唐　津　市	6位		
36	57	前　橋　市	8位		岡崎格子：平行棒7位
37	58	橿原公苑	4位		
38	59	神　戸　市			
39	60				



編　集　後　記

すっかり秋も深まり，窓の外に見る雑木の木立も，間もなく初冬のたたずまいに変わるだろう……。いま，ようやく校正を終えてひと息入れたところである。

今年の二月下旬の幹事会で，25周年の記念事業に話が及んだとき，四半世紀をひと区切りとして，ぜひ記念誌を作ろうということになった。20周年のときも同じような企画があって立ち消えになった経緯があるので，今度こその意気込みが，その日の会合をいつになく熱っぽくさせていたように思える。

早速，年内発刊から逆算してタイムテーブルが作成され，編集委員会がスタートした。

「記念誌」というと，あるパターンがあって，とかく陳腐なものになりがちであるが，なるべくユニークなものにしたいというのが，編集に携わった者全員の気持ちであった。

三月下旬には，全会員に対して，記念誌発刊についての趣意書とともに，写真，原稿の募集を呼びかけた。しかし反応は誠に心もとないものであった。次いで，ある程度ねらいをつけて原稿依頼を試みたが，それもあまりかんばしいものではなかった。

しかし，この話を雲散霧消の結果にだけはしたくなかった。卒業期ごとに担当を決め，再三会合を開いて，互に尻をたたき合いながら編集作業を進めた。いつか，初夏を経て盛夏を迎えていた……。

さて，最後の段階を何んとかクリアした今，当初みんなの思い描いていたものにどれだけ近づけたのだろうかと考えてみると，なかなかの出来ばえという思いと，もっと何んとか出来たのではないかという気持ちが入り交って複雑な心境である。

初代部長の故秋葉先生の筆になる“櫻樹”の文字と，第三代部長浜田先生の躍動感あふれる素描とで飾られた表紙は，まさに類をみない出来ばえであると自負できる。また，卒業期ごとに，担当した委員の創意が随所に生かされていると思う。

ただ，惜しむらくは写真である。方々手をつくして収集に努めたのだが，年代によっては，集合写真が全くなかったり，登場人物が片寄っていたりして選び出すのに相当苦心した。バランスを配慮し，その年代にスポットを当てたつもりだが，この日を意識して写されたわけではないので，いささかピントのボケてしまったものもあるかもしれない。秘蔵の写真をもう少し入手できなかっただろうかの悔いは残る。

とまれ，一葉の写真は，時を超えてなつかしき青春時代に立ち返らせてくれるに違いない。そして，そんな思いは年齢（とし）とともにいっそうつのるように思えるのだが……。

最後になりましたが，執筆その他写真提供などにご協力いただいた方々に深く感謝申し上げます。

昭和60年11月

創立25周年記念誌編集委員会

委員長	稲橋　恒行			
委　員	石井　征也	早乙女貞夫	早田　卓次	菊地　君男
	小栗　郁郎	鶴見　興人	朝倉　徳雄	津村　二郎
	原　　弘吉	外山　宜男	梶山　広司	遠藤　幸一

25周年記念誌　**櫻　　樹**

昭和60年11月25日　印刷
昭和60年12月１日　発行

編集発行　日本大学　櫻　樹　会
東京都世田谷区桜上水３－25－40
日本大学体操部内

印刷人　有限会社　青　孔　社
千葉県船橋市宮本６－31－19